美術
淵源

大和周遊誌

下編

69
1111

Ⓜ

帝國博物館總長 正三位勲一等 男爵 九鬼隆一 君題辭
帝國奈良博物館長 正五位勲三等 山高信離 君題辭
帝國奈良博物館理事 從四位勲五等 國重正文 君序文
前奈良博覽會長 帝國奈良博物館陳列事務嘱托 奈良公園事務嘱托 鳥居武平 君著

美術淵源 大和周遊誌

大和圖書出版本舗 阪田購文堂發兌

美術淵源 大和周遊誌下編目次

○添上郡西部

興福院堂 一
本堂 一
藥師堂、靈牌堂、鐘樓、庫裡、客殿、 二
不退寺 二
本堂 二
多寶塔 三
法華寺 三
本堂 五
横笛堂 六
阿閦寺古址 六
海龍王寺 七
本堂 八
西金堂 八
五重塔 八
經藏 八

○生駒郡 添下平群二郡合併改稱

磐之姫命平城阪上墓 八
那羅山 九
平城天皇楊梅陵 九
平城宮址 九
日葉酢媛命狹城寺間陵 九
成務天皇狹城盾列池後陵 一〇
孝謙天皇高野陵 一〇
神功皇后狹城盾列池上陵 一一

◉秋篠寺 一一
●本堂 一二
●香水閣 一三
◉西大寺 一三
●本堂 一五
●観音堂 一六
●愛染堂 一七
●護摩堂 一八
●豎心丹 一八
●茶盛山造 一八
◉西大寺の柳 一九
◉奥院 一九
◉菅原第址 一九
◉式内菅原神社 二〇
◉菅原寺 二〇
◉尊賞法親王御陵 二〇
◉安康天皇菅原伏見西墓 二一
◉富雄川 二一
◉靈山寺 二一
●本堂 二二
●三層塔 二二
◉王龍寺 二三
●本堂 二三
●開山堂 二三
◉長弓寺 二四
●本堂 二四

●塔壇閣 二五
◉寶山寺 二五
●本堂 二九
●聖天堂 三〇
●奥之院 三〇
●祖師堂 三一
●嵓窟 三一
●書院 三二
◉生駒山 三二
◉垂仁天皇菅原伏見東陵 三二
◉田道間守墓 三二
◉唐招提寺 三三
●金堂 三六
●東堂 三八
●禮堂 三八
●舍利殿 三八
●講堂 三九
●地藏堂 三九
●開山堂 三九
●經藏 四〇
●鼓樓 四〇
●校倉 四〇
●戒壇 四〇
◉藥師寺 四〇
●金堂 四二
●講堂 四三

●東院堂　四三
●文殊堂　四四
●護摩堂　四四
●東塔　四四
●西塔址　四五
●佛足堂　四五
◎八幡神社　四五
◎赤腐山　四六
●郡山町　四七
●植槻神社　四七
●大織冠丘　四七
●郡山城址　四七
●柳澤神社　四八
◎羅城門址　四八
◎郡山停車場　四九
◎藥園八幡神社　四九
◎新城宮址　四九
◎金剛山寺　五〇
●金堂　五〇
●念佛堂　五一
◎東明寺　五二
●本堂　五二
●松尾寺　五二
●本堂　五四
●大黒堂　五四
●三層塔　五四

●十三級石塔婆　五五
◎法輪寺　五五
●本堂　五五
●金堂　五五
●妙見堂　五六
●三層塔　五七
◎栗毛岡　五七
◎法起寺　五七
●本堂　五八
●三層塔　五九
●聖天堂　五九
◎小泉　五九
●小泉營址　六〇
●庚申堂　六〇
◎廣瀨川　六〇
◎御幸橋　六〇
◎廣瀨神社　六〇
●正殿　六〇
◎凝池　六一
◎水足池　六一
◎祓戸神社　六一
◎法隆寺停車場　六二
◎法隆寺西院　六二
●南大門　六三
●西院　六三
●聖天堂　六三

●十二天堂　六三
●新堂　六四
●中門　六四
●廻廊　六五
●金堂　六五
●五層寶塔　六八
●大講堂　七〇
●大經藏　七一
●鐘樓堂　七一
●上之堂　七一
●西圓堂　七二
●聖靈院　七三
●妻室　七四
●經堂　七五
●食堂　七五
●仝細殿　七五
●綱封藏　七五
●東室　八〇
●西室　八〇
●東大門　八〇
◎法隆寺東院　八一
●夢殿　八一
●武殿院　八二
●舍利殿　八三
●傳法堂　八三
●鐘樓堂　八五

●一切經輪藏　八五
●禮堂　八五
●廻廊　八五
●中宮寺　八六
●本堂　八七
●斑鳩里　八八
●龍田町　八八
●摂社龍田神社　八八
●龍田川　八九
●朝護孫子寺　八九
●本堂　九一
●護摩堂　九一
●信貴山　九二
●信貴山城址　九二
●龍田神社　九二

○北葛城郡　廣瀬葛下二郡合併改稱

●王寺停車場　九四
●王寺村　九四
●達磨寺　九四
●本堂　九五
●孝靈天皇片岡馬坂上陵　九六
●武烈天皇傍丘磐坏丘北陵　九六
●式内志都美神社　九六
●顯宗天皇傍丘磐坏丘南陵　九七
●下田停車場　九七
●下田村　九七

◉石光寺　九七
●本堂　九八
◉腰折田　九八
◉二上山　九九
◉中將法如尼墓　九九
◉當麻寺　九九
●金堂　一〇一
●講堂　一〇一
●曼荼羅堂　一〇一
●奥の院　一〇二
●大師堂　一〇三
●丸子山　一〇三
◉葛城山　一〇三
●櫛羅瀑布　一〇三
◉金剛山　一〇四
◉御所町　一〇四
◉吉祥草寺　一〇四
◉高田町　一〇五
◉高田停車場　一〇五
◉畝傍停車場　一〇五

○高市郡

◉八木町　一〇五
◉蘇武川　一〇五
◉今井町　一〇六
◉綏靖天皇桃花鳥田丘上陵　一〇六
◉神武天皇畝傍山東北陵　一〇六

●三ツ山　一〇七
◉安寧天皇畝火山西南御陰井上陵　一〇七
◉橿原神宮　一〇八
◉久米寺　一〇八
●本堂　一〇九
●觀音堂　一〇九
●多寶塔　一一〇
●摸益田池碑　一一〇
◉懿德天皇畝傍山南纖沙溪上陵　一一一
◉宣化天皇身狹桃華鳥阪上陵　一一一
◉倭彦命身狹桃華鳥坂墓　一一一
●益田池碑跌石　一一二
◉欽明天皇檜隈坂合陵　一一二
◉吉備姫王檜隈御墓　一一三
◉石棺　一一三
◉石棺　一一三
◉天武天皇持統天皇檜隈大内陵　一一三
◉高取町　一一四
◉高取城址　一一四
◉不動瀑布　一一四
◉南法華寺　一一五
●本堂　一一五
●三層塔　一一六
●二王門　一一六
◉五百羅漢　一一六
◉壺坂街道　一一七

●安薩の瀧　一一七

○吉野郡

●比曾寺　一一七
●行者堂　一一八
●六田の渡　一一八
●吉野の川　一一九

○宇智郡

●榮山寺　一一九
●本堂　一二〇
●八角堂　一二〇
●鐘堂　一二〇
●武智麿墳墓　一二一
●音無川　一二一
●宇智川　一二一
●五條町　一二一
●下淵　一二二
●千石橋　一二二
●下市町　一二二
●鮓屋彌助の庭園　一二三
●六田　一二三
●一之阪　一二四
●吉野宮　一二四
●長峯の櫻　一二五
●村上義光忠烈の碑　一二五
●嵐山　一二五
●口の千本　一二五

●一の橋　一二六
●隱れ松　一二六
●關屋の櫻　一二六
●吉野の山　一二六
●銅の鳥居　一二六
●二王門　一二七
●藏王堂　一二七
●四本櫻　一二八
●威德天神社　一二八
●南門址　一二九
●實城寺址　一二九
●吉水神社　一二九
●山口神社　一三一
●袖振山　一三一
●村上義隆墓　一三一
●如意輪寺　一三一
●本堂　一三二
●藤本鐵石先生招魂之碑　一三二
●正行公埋髻塚　一三三
●楠左衞門尉髻塚碑　一三三
●後醍醐天皇塔尾陵　一三三
●世泰親王墓　一三三
●如意輪塔址　一三三
●至情塚　一三四
●井光井古跡　一三四
●竹林院　一三四

●椿谷椿山寺址　一三四
●天王橋　一三四
●中の千本　一三五
●禪定寺址　一三五
●大將軍社址　一三五
●中院谷　一三五
●花樒　一三五
●龍返し　一三五
●布引櫻　一三五
●瀧櫻　一三六
●雲井櫻　一三六
●鷲尾山世尊寺址　一三六
●吉野水分神社　一三六
●高算堂址　一三七
●牛頭天王社址　一三七
●高城山　一三七
●宮瀧はるかの谷　一三七
●金峯神社　一三七
●蹴抜塔　一三八
●苔清水　一三八
●西行庵址　一三八
●奥の千本　一三八
●方面堂址　一三八
●飯高山安禪寺址　一三八
●青根が峯　一三九
●奥の院茶屋　一三九

●櫻木神社　一三九
●象の小川　一三九
●外象橋　一三九
●菜摘川　一四〇
●柴橋　一四〇
●宮瀧　一四〇
●五社嶺　一四一
●清明が瀧　一四一
●音無川　一四一
●大瀧　一四二
●官幣大社丹生川上神社上社　一四二
●柏木村　一四二
●聖禪窟　一四二
●不動窟　一四三
●聖天窟　一四三
●菊の窟　一四四
●水晶岩窟　一四四
●金剛寺　一四四
●自天王墓　一四四
●河原屋村　一四五
●式内大名持神社　一四五
●妹山、脊山　一四五
●上市町　一四六
●櫻の渡　一四六
●式内久斯神社　一四七
●男瀧　一四七

●女瀧 一四七
●龍在嶺 一四八
●良助親王冬野墓 一四八
●談山神社 一四八
●神殿 一四九
●拜殿 一五〇
●十三層塔 一五〇
●談山 一五一
●鎌足公墓 一五一
●藤原不比等公墳 一五二
●式内氣都和既神社 一五二
●石舞臺 一五二
●岡寺 一五三
●本堂 一五三
●開山堂 一五三
●樓門堂 一五四
●庫裡 一五四
●二王門 一五四
●治田神社 一五五
●橘寺 一五五
●金堂 一五五
●仝上拜殿 一五五
●觀音堂 一五五
●畝割塚 一五六
●石燈籠 一五六
●二面石 一五六

●右近の橘 一五六
●左近の櫻 一五六
●墨染櫻 一五七
●三光石 一五七
●刄字の池 一五七
●佛頭山 一五七
●飛鳥寺 一五七
●古墳 一五七
●飛鳥神社 一五七
●酒槽石 一五八
●荒墳 一五八
●鎌足公第址 一五八
●飛鳥川 一五九
●向原寺 一五九
●難波堀江 一六〇
●味櫃岡 一六〇
●甘樫坐神社 一六〇
●雷の丘 一六一

○磯城郡

式上式下十市三郡合併改稱

●天香久山 一六一
●天香山坐櫛眞命神社 一六二
●香具山離宮 一六二
●天之磐戸神社 一六二
●啼澤の杜 一六二
●稚櫻宮址 一六二
●文殊院 一六二

●本堂 一六三
●大日堂 一六四
●地蔵堂 一六四
●石窟 一六四
●石窟 一六四
●石窟 一六五
●安倍仲麿墳 一六五
●土舞臺 一六五
●櫻井町 一六六
●櫻井停車場 一六六
●崇峻天皇倉梯岡上陵 一六六
●音羽山 一六六
●音羽観音 一六七
●舒明天皇押阪大内陵 一六七
●大伴皇女押坂内墓 一六七
●鏡女王忍阪墓 一六七
●鳥見の丘 一六七
●泊瀬朝倉宮址 一一八
●泊瀬列城宮址 一六八
●初瀬町 一六八
●初瀬川 一六八
●長谷寺 一六八
●二王門 一六九
●登廊 一六九
●貫之の梅 一六九
●本堂 一七〇

●講堂 一七〇
●方丈、持佛堂 一七〇
●方丈、讓摩堂 一七一
●奥院本堂 一七一
●仝淨阿堂 一七一
●泊瀬山 一七三
●興喜山 一七四
●興喜天滿神社 一七四
●三燈峯 一七四
●古河野邊 一七四
●二本の杉 一七四
●玉葛舊跡 一七四
●泊瀬齊宮 一七四
●消炭阪 一七五
●多羅尾の瀧 一七五

○宇陀郡

●墨坂 一七五
●榛原町 一七五
●宇陀川 一七六
●檜牧川 一七六
●佛隆寺 一七六
●本堂 一七六
●摩尼山 一七七
●獨鈷峯 一七七
●室生寺 一七七
●金堂 一七八

●彌勒堂　一七八
●金堂　一七八
●五層塔　一七九
●奥院　一七九
●大師堂　一七九
●護摩窟　一八〇
●室生山　一八〇
●室生川　一八〇
●地藏　一八〇
●神像　一八〇
●爪手が淵　一八一
●式内龍穴神社　一八一
●屏風岩　一八二
●三本松村　一八二
●大野寺　一八二
●本堂　一八三
●彌勒菩薩石像　一八三
●大野川　一八四
○磯城郡
●磯城瑞籬宮址　一八四
●磯城島金刺宮址　一八四
●彌勒石像　一八四
●三輪町　一八五
●三輪停車場　一八五
●緒環塚　一八五
●大神神社　一八五

●三輪山　一八六
●拜殿　一八六
●印の杉　一八七
●大三輪寺舊址　一八七
●玄賓庵　一八七
●本堂　一八七
●倭迹々日百姫命大市墓　一八八
●纒向川　一八九
●穴師坐兵主神社　一八九
●纒向山　一九〇
●纒向珠城宮址　一九〇
●纒向日代宮址　一九〇
●景行天皇山邊道上陵　一九〇
●崇神天皇山邊道勾丘上陵　一九一
●柳本村　一九一
●柳本の營　一九一
●柳本停車場　一九一
●五智堂　一九一
●長岳寺　一九二
○山邊郡
●大和神社　一九二
●丹波市町　一九三
●丹波市停車場　一九三
●布留川　一九三
●石上神宮　一九四
●布留山　一九四

◉桃の尾瀧　一九五
◉桃尾山龍福寺址　一九五
◉天理教會本部　一九六
◉天理教祖墓所　一九六

○添上郡

◉柿の本寺　一九六
◉楪本停車場　一九七
◉弘仁寺　一九七
●本堂　一九七
●明星堂　一九七
◉帶解寺　一九八
◉帶解驛　一九八
◉京終停車場　一九八
◉圓成寺　一九九
●本堂　一九九
●多寶塔　二〇〇
●護摩堂　二〇〇
◉月瀬梅林　二〇〇

鳥居武平編纂

○添上郡西部

◉興福院　佐保村大字法蓮、聖武天皇御陵の西四丁

淨土宗、舊寺祿二百石、此寺初め舊添下郡興福院村にあり聖武天皇の御學問所にてありしを和氣清麻呂に賜ひて寺となし弘文院と號す後ち寛文年中今の地に徙し改めて興福院といふ代々比丘尼住職す

◉本堂　南面、寛文年中德川家光公建立奉行小堀遠江守なりと

○堂中靈妙なるもの

○藥師如來立像　木彫　長壹尺五分　壹軀

○十二神將立像　木彫　各長三寸五分　十二軀

○什寶中靈妙なるもの

●桃の尾瀧　一九五
●桃尾山龍福寺址　一九五
●天理教會本部　一九六
●天理教祖墓所　一九六

○添上郡

●柿の本寺　一九六
●櫟本停車場　一九七
●弘仁寺　一九七
●本堂　一九七
●明星堂　一九七
●帶解寺　一九八
●帶解驛　一九八
●京終停車場　一九八
●圓成寺　一九九
●本堂　一九九
●多寶塔　二〇〇
●護摩堂　二〇〇
●月瀬梅林　二〇〇

大和周遊誌下編

鳥居武平編纂

○添上郡西部

●興福院　佐保村大字法蓮、聖武天皇御陵の西四丁

淨土宗、舊寺祿二百石、此寺初め舊添下郡興福院村にあり聖武天皇の御學問所にてありしを和氣清麻呂に賜ひて寺となし弘文院と號す後ち寛文年中今の地に徙し改めて興福院といふ代々比丘尼住職す

●本堂　南面、寛文年中德川家光公建立奉行小堀遠江守なりと

○堂中靈妙なるもの

○藥師如來立像　木彫　長壹尺五分　壹軀

○十二神將立像　木彫　各長三寸五分　十二軀

○什寶中靈妙なるもの

◎來迎曼荼羅圖　絹本着色　壹幀　傳宅磨法眼筆
◎都鄙繪　絹本着色　二卷　傳住吉具慶筆　徳川綱吉寄附
○打敷　絹本刺繍繼合セ　二枚　傳仝上
○屏風　狩人物圖　山水人物圖　金地着色　壹雙　傳豐太閤寄附

其他藥師堂、靈牌堂、鐘樓、庫裡、客殿等あり

▲興福院の西五丁

◉不退寺　佐保村大字法蓮

不退轉法輪寺と號す平城天皇の皇居にして萱の御所と稱す天皇崩御の後は第三の皇子阿保親王居住せられ承和十四年に至り王子在原朝臣業平請ふて寺とせられしとぞ、眞言宗にして舊寺祿五十石現境九百六十坪

●本堂　南面小棟造桁行七間梁行五間承和十四年創建の儘と云ふ

○堂中靈妙なるもの

◎本尊正觀音菩薩立像　木彫着色　長五尺九寸　壹軀　傳業平朝臣作

◎不動明王坐像　仝　長二尺九寸　壹軀
◎大威德明王立像　仝　長四尺七寸　壹軀
◎降三世明王立像　仝　長四尺七寸　壹軀
◎金剛夜叉立像　仝　長四尺七寸　壹軀
◎軍陀利夜叉立像　仝　長四尺七寸　壹軀
○阿保親王坐像　仝　長三尺三寸　壹軀
○阿彌陀如來坐像　木彫金色　長各三尺　貳軀

●多寶塔　本堂の巽に在り、方一間半、高さ一丈五尺餘、承和年中創立の儘と傳ふ今大破す

●其餘庫裡、四足門等あり

▲不退寺の西七丁

◉法華寺　佐保村大字法華寺

一名法華滅罪之寺と號す、古義眞言宗、舊寺祿二百二十石、現境二千七百七十八坪、宮內省直轄にして法華寺門跡と稱し代々近衞家の令孃住職せらる相傳ふ此地は藤原不比等の第址にて光

明皇后の創立せられしとぞ嘗て聖武天皇東大寺を造營し大佛殿内に女人の入ることを禁じ給ひしより皇后も亦此寺を建て尼の國分寺となし男子の入ることを禁じ給ひしと云へり

○什寶中靈妙なるもの

◎釋迦普賢文殊畫像　絹本着色　三幀　傳巨勢金岡筆

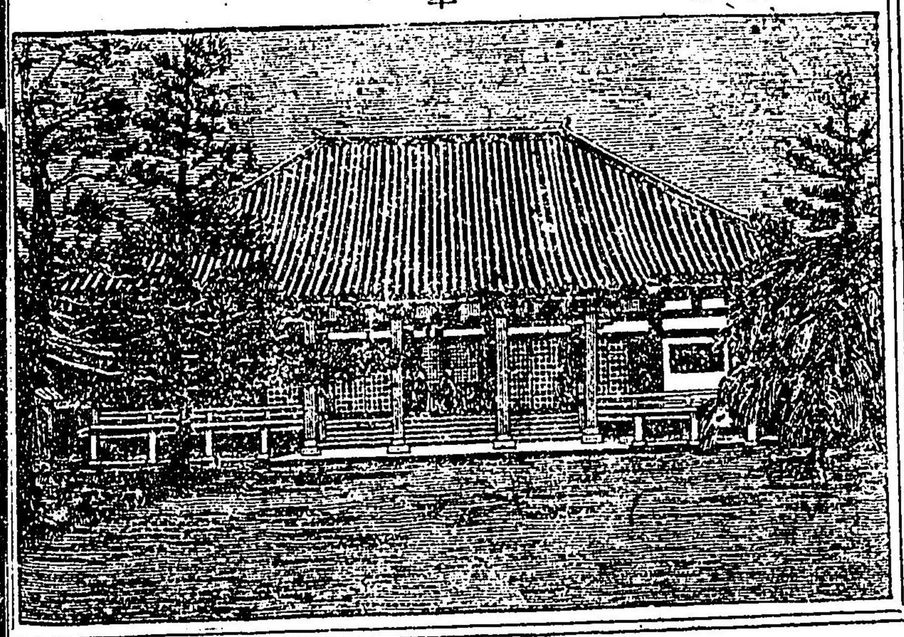
◎十八羅漢畫像　仝　十八幀　傳仝上

◎彌陀如來畫像　仝　壹幀

◎勢至畫像　仝　壹幀

◎善哉童子畫像　仝　壹幀

○興正菩薩畫像　仝　壹幀



○慈鎮和尚畫像　仝　壹幀

○瀧觀觀音補畫像　絹本　壹幀　傳中將法如製

○觀音文殊両面貼畫像　絹本着色　壹面

○維摩居士坐像　木彫若色　長七寸五分　壹軀

○舍利塔　鍍金　高六寸七分　壹基

◎香爐　浮牡丹紋様　青磁　高四寸五分　口徑九寸八分　壹口

◎花瓶　唐銅　高一尺　口徑四寸五分　壹對

○花瓶　青銅　高一尺一寸　口徑九寸八分　壹對

●本堂　南面桁行十間、梁行六間半、丹塗瓦葺、傳云慶長六年講堂の古材を以て豐公後室淀君の建立せらる所と云り

○堂中靈妙なるもの

◎本尊十一面觀音立像　木彫　長二尺二寸　壹軀　傳佛工文答師作

傳云天竺毘陀羅國の佛工文答師王后の命を承て本邦に來り光明皇后の尊容を摸し一は留め一は携へ歸ると云へるは此なりとぞ

◎文殊菩薩坐像　木彫着色　長二尺　壹軀　傳運慶作
◎維摩居士坐像　乾漆造着色　長三尺　壹軀　傳天平時代唐土渡來
○十一面觀音立像　木彫　長四尺五寸　壹軀

●横笛堂　桁行三間、梁行二間、傳治承年中建築
○本尊阿彌陀如來立像　木彫金色　長三尺一寸　壹軀　傳運慶作
堂内に瀧口入道の位牌、横笛像等あり
傳云横笛は建禮門院の雜司にて小松家の侍臣瀧口時頼と通して父の怒に觸れ時頼は僧となりて山城の瀧口寺に在り横笛も亦剃髪して當寺に入り幾くもなくして死せり是に於て時頼其菩提を吊はんが爲に當堂を建立すと云或は横笛の住房なりとも云へり
其餘客殿、鐘樓、浴室、藥師堂等あり

●阿閦寺古址　法華寺の東一丁餘
今も字に脇の坊と云あり是其跡なりとぞ此寺は光明皇后の建立にして皇后躬ら千人の垢穢を淨めんとせらるに當り阿閦如來出現せしと云へるは此寺なりとぞ

▲法華寺の艮二丁許

◉海龍王寺　佐保村大字法華寺
一名隅寺或は角に作る又脇寺と號す、律宗、舊寺祿百石、境内千五百十六坪、此處も藤原不比等の第址なりしを天平三年伽藍を創始し勅額を賜ひて海龍王寺と號す玄昉僧正を茲に住せ法相宗を弘めしめしとぞ僧空海も此寺に留錫せり其後幾多の星霜を歴て衰頽せしを嘉禎年間に至り西大寺の叡尊僧正天下に勸進して再興せり是より眞言律宗となれり

○什寶中靈妙なるもの
◎毘沙門天畫像　絹本着色　壹幀　傳弘法大師筆
○涅槃畫像　絹本着色　壹幀
○如意輪觀音畫像　絹本着色　壹幀
○舍利塔　鍍金　高一尺一寸五分　壹基
◎海龍王經　紙本墨書　四卷　傳聖武天皇宸翰
○般若心經　紙本墨書　壹卷　傳弘法大師筆
○岩上釋迦坐像　絹本着色　壹幀

●本堂　南面桁行七間、梁行四間半、天下三年創立の儘と云

○堂中靈妙なるもの

◎本尊十一面觀音立像　木彫金色　長三尺　壹軀　傳光明皇后作

○文殊菩薩立像　木彫　長三尺八寸　壹軀

○毘沙門天立像　木彫　長五尺五寸　壹軀　傳稽首動作

●西金堂　東面桁行四間五尺、梁行三間半、建立本堂に同じ

●五重塔　高さ一丈五尺、徑五尺、傳敏尊僧正作

●經藏　桁行四間半、梁行三間、造立年代本堂に同じ

○生駒郡（添下平群二郡合併改稱）

▲海龍王寺の門前北へ五丁許

◎磐之媛命平城阪上墓　都跡村大字佐紀

兆域周圍五百三十九間、南面、東表、葛城襲津彦の女、仁德天皇の皇后にして履仲天皇の御母なり仁德天皇三十五年六月山背國筒城宮に薨じ給ふ因て茲に葬る

◎那羅山　佐保山の西北より西へ生駒郡（添下郡）平城村大字歌姫に至る山脈を云へるとぞ、崇神天皇の御世武埴安彦を討んとする時皇軍屯集せし那羅山此なりとぞ

▲磐之姫命墓より西南五丁許

◎平城天皇陽陵　都跡村大字佐紀

兆域周圍百九十八間二尺、南面、桓武天皇第一の皇子にして御母は乙牟漏、天皇御名は日本根子天排國高彦天皇、初名安殿皇子と稱す大同元年五月十八日平安宮に御卽位、仝四年四月位を神野親王に讓り給ふ在位四年其十一月平城の故宮に遷り給ひ天長元年七月七日崩壽五十一

▲平城天皇御陵の南三丁

◎平城宮址　都跡村大字佐紀

字ダイコクと稱す蓋し大極殿の訛傳なるべし、今も尙壹段餘の芝地現に存せり近傍の田畑に大宮、馬場、禁裡宮等の字殘れり

▲平城天皇御陵の西を北へ行き又西へ入る四丁餘

◎日葉酢媛命狹城寺間陵　平城村大字山陵

兆域周圍四百一間、南面西表、垂仁天皇後の皇后、八阪入彦命の御女にして景行天皇の御母なり垂仁天皇三十二年に薨じ給ふ其葬に臨て詔曰活人をして死人に從はしむるは故事なれども甚不可なり此葬や之を如何せんと時に出雲人野見宿禰奏して曰く臣埴を以て人馬及種々の物象を造り生人生馬等に易へて以て墓陵に樹て後葉の法則とせんと天皇其奏する所に從ひ人馬等の像を造らしめ始て此御墓に樹つ世人稱して立物といひ又埴輪と云是より殉死を禁じ給ひしとぞ

▲日葉酢媛命陵より數歩西北

◎成務天皇狹城盾列池後陵　平城村大字山陵

兆域四百一間九分南面、景行天皇第四皇子御母は八阪入媛命、天皇御名は稚足彦尊、元年辛未志賀高穴穂宮（近江國滋賀郡穴太村）に卽位し給ふ在位六十年庚午六月十一日崩壽百七

▲成務天皇陵より南三丁許

◎孝謙天皇高野陵　仝所

兆域周圍二百五十三間壹分西面、聖武天皇第一皇女御母は皇太后光明子、天皇御名は阿閉內親王亦高野姫と稱す天平勝寶元年七月二日平城宮に御卽位、在位十年天平寶字二年八月一日禪位し仝六年六月出家し給ひ法諱法基尼と號す天平神護元年十月重祚し稱德天皇と稱す卽ち皇極齊明重祚の例に准じてなり、寶龜元年八月四日崩壽五十三

▲孝謙天皇御陵の北五丁許

◎神功皇后狹城盾列池上陵　仝村

兆域周圍五百八十四間四分南面、仲哀天皇の皇后にして開化天皇の曾孫氣長宿禰王の御女なり皇后御名は氣長足媛尊、仲哀天皇二年立て皇后と爲り九年二月天皇崩ず皇后其喪を秘し師を帥て熊襲を擊ち九州を平らげ又三韓を征服し國威を海外に輝し給ふ皇子譽田別尊を立て皇太子とし攝政し給ふ六十九年己丑四月稚櫻宮（奈良市郡池內村）に崩ず壽百或云百十二

▲神功皇后御陵より西五丁許

◎秋篠寺　平城村大字秋篠

宗旨は始め法相、中頃眞言、今淨土に屬す、舊寺祿百石、現境三千六百坪、寶龜十一年勅願に依て善珠僧正（法相六祖師の一）開基する所にして阿陀縛狗山と號す、保延元年六月兵火に罹り一山焦土に

歸し僅に佛像及講堂烟火に免かれたり

●本　堂　舊講堂南面桁行八間半、梁行六間半、瓦葺丹堊塗寶龜十一年の創立と云ふ

○堂中靈妙なるもの

○本尊藥師如來坐像	木彫	長四尺六寸	壹軀	傳行基作
○脇士日光菩薩立像	木彫若色	長五尺一寸	壹軀	
○脇士月光菩薩立像	仝	長五尺一寸	壹軀	
○十二神將立像	仝	長各二尺七寸	壹軀	傳佛師春日作
○大元明王立像	仝	長六尺五寸	壹軀	傳行基作
◎梵天立像	仝	長五尺一寸	壹軀	
◎帝尺天立像	仝	長五尺一寸	壹軀	
◎十一面觀音立像	仝	長五尺五寸	壹軀	
◎救脫菩薩立像	仝	長六尺八寸	壹軀	
◎技藝天女立像	仝	長六尺八寸	壹軀	

●香水閣　傳云昔山城國小栗栖の常曉阿闍梨當寺に籠り曉の閼伽を結ぶに井中に大元明王の影像浮みしといへり

其他祖師堂、鐘樓、庫裡、宮使門南大門等あり

▲秋篠寺より南へ八丁許

◉西大寺　伏見村大字西大寺

眞言律宗、舊寺祿三百石、現境八千五百八坪、一名高野寺と稱す南都七大寺の一なり、當寺は孝謙天皇の勅願、常騰僧都の開基にして天平勝寶元年に始り天平神護元年に至りて竣成せし一大伽藍にして其境域三十二町四面に都率の內院を模し四十九院三百餘宇の靈殿、寶閣悉を列ね寺領は六十餘州に配して廿餘万石有せりかゝる名刹なりしが承和十三年十一月十一日炎上し其後衰廢に委したりしを嘉禎年間敕尊僧正（傳云木曾義仲の孫）之を五丁四面の境內に縮めて七堂伽藍を重興せしを文龜三年亦兵燹に罹り一山烏有に歸せり現堂は寶曆二年造立する所なり

○什寶中靈妙なるもの

◎舍　利　塔　鍍金　五基　傳唐陸太作

◎水瓶式厨子　銅　五基　傳唐陸太作
◎舍利塔　鍍金　壹基　傳云鑑山天皇勅封佛舍利を納む
○舍利塔　鍍金　壹基　傳伊勢舍利
○舍利厨子　圓式　鍍金透彫　壹基
○壇塔　鍍金　壹基
○多寶塔　鎮造　壹基　傳云木曾義仲の武器を以て鑄造
◎鈴　銘松虫　白銅　壹口　傳敞尊所用
○鈴、五鈷、金剛盤　鍍金　參個　傳空海將來式
○五鈷、三鈷、獨鈷　鍍金　參個
○鈴、五鈷、獨鈷、三鈷、金剛盤　鍍金　五個
○鈴　鍍金　壹口
◎涅槃畫像　絹本着色　壹幀
◎十二天畫像　仝　拾貳幀　傳弘法大師筆

◎文殊菩薩畫像　仝　壹幀
◎十六善神畫像　仝　壹幀　跋云天平寶字六年百濟豊虫敬寫
○愛染明王畫像　仝　壹幀
○興正菩薩畫像　仝　壹幀　跋云天平神護二年吉備田利奉寫
○両界曼荼羅圖　仝　壹幀
○金輪佛頂圖　絹本着色　壹幀
○尊勝佛頂圖　仝　壹幀
○金光明最勝王經　麻紙墨書　拾卷
○大毘盧遮那經　墨書　七卷　仝

●本堂　南面、桁行十二間、梁行八間、寶暦二年の造立總て木材造にて一も土壁を用ゐず
○堂中靈妙なるもの
◎本尊釋迦如來立像　木彫　長五尺四寸　壹軀　傳敞尊作
◎　〃　文殊菩薩坐像　木彫着色　長二尺　壹軀　傳敞尊作

◎善財童子立像　仝　長二尺七寸　壹軀　仝

◎宇塡王立像　仝　長三尺六寸　壹軀　仝

◎採桑老人立像　仝　長三尺　壹軀　仝

◎佛陀波離三藏立像　木彫着色　長三尺三寸　壹軀　仝

◎彌勒菩薩坐像　木彫金色　長八尺　壹軀　傳云叡尊弟子忍鎭作

◎四佛坐像　仝　長各二尺　四軀

●觀音堂　南面、桁行八間、梁行六間、正應元年造立

○堂中靈妙なるもの

◎本尊十一面觀音立像　木彫彩色　長一丈六尺　壹軀

○四天王像　銅造　長各七尺　四軀

傳云天平神護元年鑄造、增長天一軀は鑄造七ヶ度に及て就る高野天皇詔曰朕來世は女身を轉して佛道を成んと親ら玉手を以て熟銅を攪り給ふ

○吉祥天立像　木彫着色　長六尺　壹軀

●愛染堂　東面、桁行十一間半、梁行七間半、弘安三年創立

○堂中靈妙なるもの

◎本尊愛染明王坐像　木彫着色　長一尺　壹軀　傳化人作

寺傳云弘安四年七月廿日叡尊僧正勅命を承て男山八幡宮に於て異敵退治の祈をなせし時其滿夜に此愛染明王の持物の鏑矢飛て博多金津に至り異敵退治すと故に一箭の愛染と云

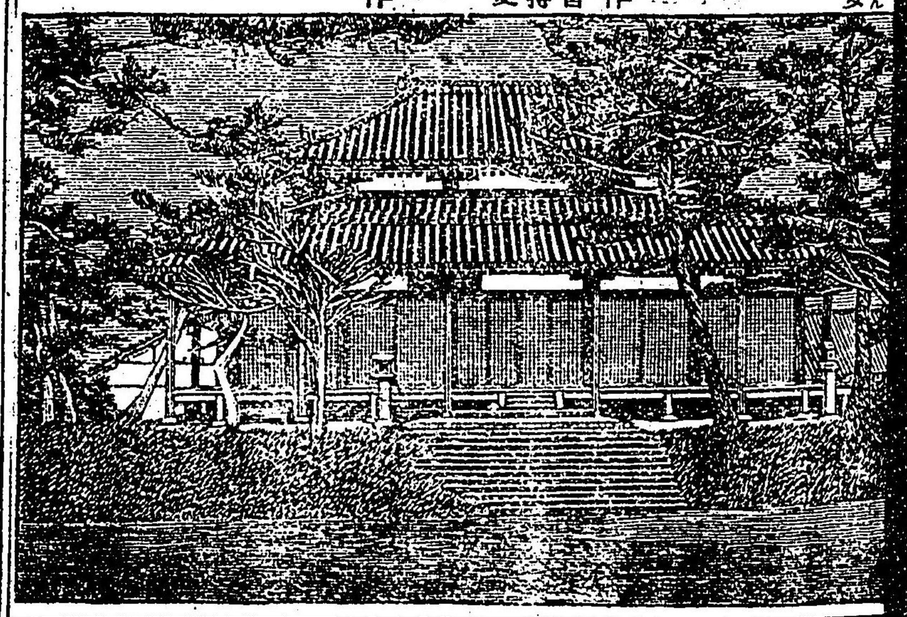
◎興正菩薩坐像　木彫　長三尺　壹軀　傳自作

◎行基菩薩坐像　木彫　長二尺　壹軀　仝

○愛染明王坐像　木彫着色　長一尺　壹軀

○彌陀如來坐像　木彫金色　長一尺四寸　壹軀

○脇士觀音勢至立像　木彫金色　長各一尺六寸　二軀



◎十一面觀音立像　木彫金色　長五尺　壹軀　傳本光明寺本尊

●護摩堂　方三間、造立年代不詳

○堂中靈妙なるもの

◎本尊不動明王坐像　木彫著色　長二尺七寸　壹軀　傳寶山湛海作

●豎心丹　當寺に發賣する所の豎心丹は道宣律師が唐土より處方傳來すと云ひ又一說には畠山某唐土より傳ふる所の祕方なりしが當寺の大衆畠山の爲に軍事の働きありし賞として其處方に三百石を添て寄附せられたりとも云へり

●茶盛山造　其來歷を繹ぬるに寶龜四年三月三日、光仁天皇西大寺へ行幸ありて曲水御宴を開かせ給ひし事のありしを正應年中敬尊僧正の時に至りて年始法事の結緣の日をトし曲水御宴の紀念として當時の景況を摸做し酒を茶に替て之を參詣の庶人に與へたりとぞ是を茶盛の山造と云其器物今尙當寺に傳ふ

其餘鐘樓、庫裡、浴室、總門、東門、北門等あり

◎西大寺の柳

古今集に西大寺のほとりの柳をよめる、僧正遍昭

あさみどり糸よりかけて白露を玉にもぬける春の柳か

因云ならの都のころ羅城門の外の東西に大刹を立らる東は東大寺西は西大寺なり又都の大路には柳を多く植られたり其西の大寺のほとりの柳をめでゝよまれけるなり

◎奥院　西大寺西門より西へ三丁許

五輪塔婆あり高さ一丈二尺、石壇方七間許、傳へて興正菩薩の墓といふ傍に地藏尊を安置す

小野篁作と云り

▲西大寺の南門より南へ八丁許

◎菅原第址　伏見村大字菅原

村の北端に池あり島に石碑建つ是其第址と云此地は野見宿禰の裔土師宿禰古人仝道長等の住し處なるべし、光仁天皇の天應元年六月遠江介從五位下土師古人居地に因て姓を菅原と賜ふと見ゆ

▲菅原第一址の西二丁許

◉式内菅原神社　伏見村大字菅原

祭る所天穂日命、野見宿禰、菅原道眞

◉當村の土産神とす社殿は寛永年間の造立にして境内は一段七畝二十餘歩なり末社、社務所、神庫、厩、手水屋等あり、月の廿五日には賽人群集し奈良、郡山より多く參詣す

▲菅原神社の南數歩

◉菅原寺　同村

一名喜光寺と號す、舊寺祿三十石、境内三百坪、傳云靈龜元年行基法師の開基にして創立の儘と云本尊は彌陀如來坐像にして脇士は觀音勢至なり傳へ行基の作と云、昔聖武天皇行幸の時本尊光芒を發ちしかば喜光寺の號を賜ふと云一説には奈良大佛殿試の堂ともいへり

因云行基大菩薩は天平廿一年當寺の東南院に於て寂す年八十二

▲菅原寺の西のはとり

◉尊賞法親王御墓　兆域周圍七十四間一分、東面、靈元天皇皇子也

▲親王御墓より南西八丁許

◉安康天皇菅原伏見西陵　伏見村大字寶來

兆域周圍百八十二間三尺、南面、允恭天皇第二の皇子御母は皇太后押坂大中姫尊、天皇御名は穴穂尊、允恭天皇四十二年十二月石上穴穂宮山邊郡田村に御即位在位三年八月九日崩し給ふ壽五十六

▲安康天皇御陵より西南二十五丁

◉富雄川　舊添下郡北倭村大字高山に發して二名三碓を經て中村に至り南流して小泉村より舊平群郡笠目に至り大和川に入る

◉靈山寺　富雄村大字中

鼻高山と號す眞言宗、現境四千八十九坪、舊寺祿百石、天平八年行基菩薩開基する所にして東に富雄川を帶ひ西は溪深く淵水清く流れ北に慈嶺層疊し南に和攝の通路あり地勢宛然天竺靈鷲山に似たるあるを以て寺號となすと云

○什寶中靈妙なるもの

◎十一面觀音立像　木彫　壹軀　長二尺八寸

◎三尊佛　方式　陶半肉彫　二個　廣六寸五分　竪七寸八分

●本堂　南面方七間天平八年創立弘安六年修造に係る

◎本尊藥師如來立像　木彫　壹軀　長二尺

傳行基作

◎脇士日光菩薩立像　木彫　壹軀　長二尺九寸

仝

◎脇士月光菩薩立像　木彫　壹軀　長二尺九寸

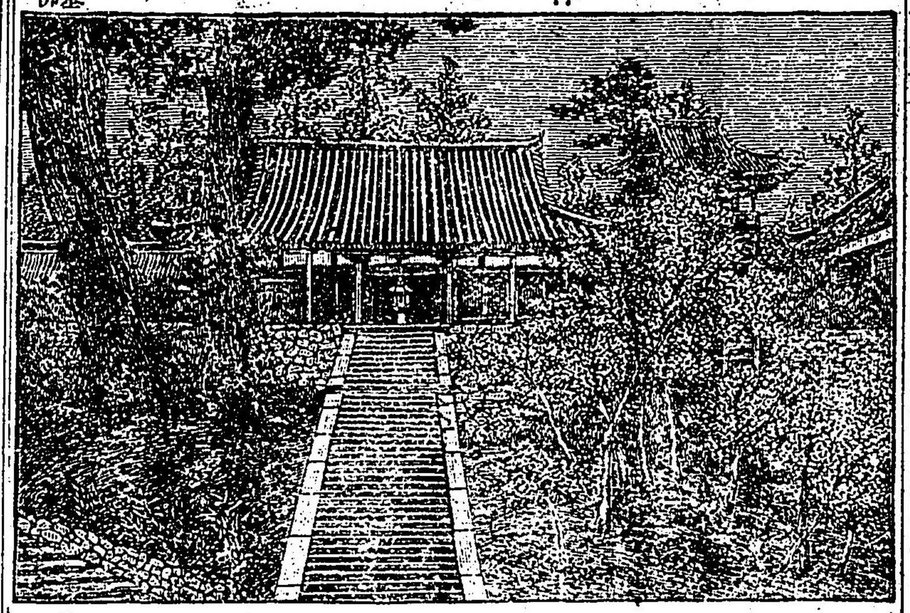
仝

○十二神將立像　木彫着色　十二軀　各長二尺七寸

○行基菩薩坐像　仝　壹軀　長二尺七寸

●三層塔　路を隔てゝ南方の山上にあり

方五間半、弘安六年の重興に係る本尊阿彌陀佛　傳行基念持佛



四天王像等を安置す內陣に五大明王、涅槃像、祖師等描く

婆羅門僧正墓、域內にあり、又鼻高塚と云ふあり是れ山號の因て起る所と云り

其餘行者堂、開山堂、鐘樓、辨財天堂、庫裡等あり

▲靈山寺前の流れを宮雄川と云川に沿ひ北に行く壹里許に月見橋と云あり是を西へ入る八丁餘

◎王龍寺　宮雄樹大字二名

海龍山と號す禪宗にして現境三千二百二十坪、當寺祿なし聖武天皇の創立にして瀧寺千軒と稱す年序を經て破壞に及びしを元祿年間に至り郡山の城主本多忠平氏の菩提所となり山城國宇治の梅谷和尙をして重興せしむと云

●本堂　東面、桁行六間、梁行四間、內陣桁行三間、梁行三間元祿年間造立する所なり堂內に怪石あり高さ一丈五尺其面に十一面觀音像を鐫して本尊とす其左側に不動明王を刻し右傍に建武丙子三年二月十二日大願主僧千貫行人僧千歲の文字あり又別に十六羅漢木像を安置せり

●開山堂　方三間、中興梅谷和尙木像、羅漢像十八軀等安置す並に佛工友學の作と云ふ

庭園に杜鵑花多し東は春日若草の諸山を望みて風景よし

▲王龍寺より東北へ十五町許

◉長弓寺　北倭村大字上

古義眞言宗、舊無祿にして廿丁餘の免租地あり、境内五千四百廿四坪寺は眞弓山腹にあり因て眞弓山と號す聖武天皇の勅を奉じて行基法師の開基する所と云ふ、當時七堂伽藍の名刹たりしが年所を經て衰微せしを弘安二年後宇多天皇勅りして本堂に大修繕を加へ且供田を下し賜ふと云へり

○什寶中靈妙なるもの

○釋迦三尊十六羅漢畫像　絹本着色　一幀

●本堂　南面、方八間、天平年中創立、弘安二年修營すと云ふ

○堂中靈妙なるもの

◎本尊十一面觀音立像　木彫若色　長四尺　壹軀　傳行基作

◎彌陀如來坐像　木彫金色　長四尺五寸　壹軀　傳安阿彌作

◎釋迦如來坐像　仝　仝　壹軀　仝

◎四天王像　木彫着色　長各五尺三寸　四軀

●塔臺閣　方二間、桓武天皇の御世太政大臣藤原良繼の創立に係る三層の塔ありしが後ち漸く廢頽して今僅に一層のみ存せり

其他護摩堂、鐘樓、寶藏、龍王堂、集會所、僧院等あり、總門は本堂の西二丁許のところにあり

●是より前途に戻り大字三碓を尋て行くべし

▲三ッ碓より西へ行く二里あまり

◉寶山寺　北生駒村大字菜畑

寺は生駒山腹にあり、麓より躋ること八町許、町毎に標石立てり、宗旨は眞言律にして都史陀山と號す現境八反三畝二十歩、固より寺祿なし、本堂の西北に方り距崖兀として空に凌ぐもの是を般若窟と云昔役小角棲止せし所にして空海も亦此に苦修せしとぞ、然れども未だ堂舍を營む能はざりしが延寶六年寶山和尚此に留錫し始て開山の志を興し纔に二十の星霜を閲して一峯伽藍となるに至る爾來益盛にして詣人常に堂に充ち燈火香煙絶ゆる時なし

○什寶中靈妙なるもの

◎授戒佛（釋迦、文殊、觀音、勢至、普賢、彌勒、地藏）像　赤檀若色　長三寸五分乃至六寸　傳寶山和尚作　七軀

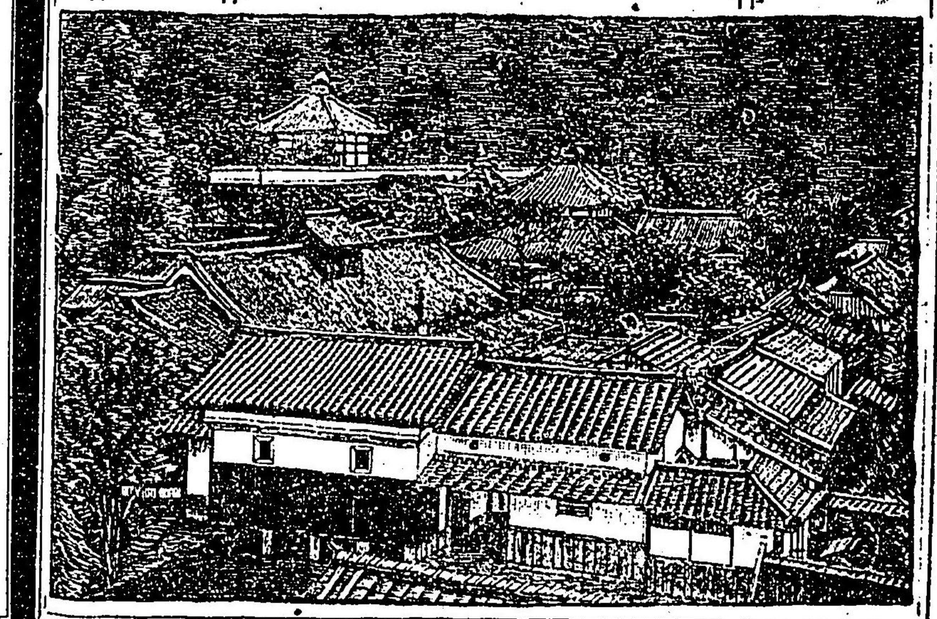
◎地藏菩薩立像　木彫若色　壹軀　長一尺五寸二分　仝

◎毘沙門天立像　仝　壹軀　長二尺八寸　仝

◎不動明王坐像　仝　壹軀　長一尺三寸八分　仝

◎毘沙門天立像　木彫　壹軀　長三尺四寸　傳秦川勝作

◎十一面觀音立像　仝　壹軀　長一尺七寸　傳菅丞相作



◎馬頭觀音坐像　木彫若色　長一尺一寸　壹軀　傳寶山作

◎辯財天坐像　木彫　長一尺　壹軀　仝

◎荒神立像　仝　長一尺　壹軀

◎荒神立像　木彫若色　長一尺八寸　壹軀　傳寶山作

◎愛染明王坐像　仝　長一尺　壹軀　仝

◎正觀音立像　木彫金色　長一尺九寸五分　壹軀　仝

◎不動三尊　木彫厨子　高四寸七分巾二寸八分　參軀　傳寶山作歳八十

◎兒文殊坐像　木彫金色　長三寸一分　壹軀

◎五大明王坐像　仝　長各六寸　五軀　傳寶山作

◎不動八大童子坐像　仝　九軀

◎兩頭明王坐像　木彫着色　長六寸　仝

◎彌勒菩薩坐像　木彫金色　長六寸五分　壹軀　傳寶山作

◎舍利厨子　木造黑塗　高二寸五分巾一寸五分　壹基

◎不動曼荼羅 厨子入 木彫着色厨子高七寸巾四寸五分 壹基 傳寶山作
○劔 銘金輪朝日寶劔柄三鈷式 四分一造 總長一尺九寸五分 壹口 傳東山帝御寄附
○舍利塔 銅鍍金 各長一尺三寸 貳基
○五鈷 長五寸八分 壹個
○鬱鉢 紙本着色 壹枚 傳弘法大師筆
◎彌勒菩薩畫像 絹本着色 壹幅 傳兆典司筆
◎尊勝曼荼羅圖 壹幅
◎不動明王畫像 壹幅 傳鳥羽僧正筆
◎不動明王畫像 壹幅 傳智證大師筆
◎不動明王畫像 壹幅 傳空海筆
◎愛染明王畫 壹幅 傳空海筆
◎閻魔曼荼羅圖 壹幅
○春日曼荼羅圖 壹幅

○十曜曼荼羅圖 壹幅
○釋迦三尊畫像 壹幅
○大元帥畫像 壹幅
○藥師如來畫像 壹幅 傳普光筆
○吉祥天畫像 壹幅 傳寶山筆
○地藏菩薩畫 壹幅
○不動明王畫 壹幅
○多聞天畫 壹幅
○如意輪觀音畫 壹幅

●本堂 方五間、元祿年間建立
○堂中靈妙なるもの
◎本尊不動明王坐像 木彫着色 長二尺八寸 壹軀 傳寶山和尚作
◎脇士矜迦羅童子立像 壹軀 長三尺 壹軀 仝

◎脇士 普多迦童子立像　仝　壹軀　仝
◎延命地藏尊坐像　木彫　仝　壹軀　傳東山帝寄附
◎十一面觀音坐像　木彫金色　長三尺三寸　壹軀　仝
◎三寶荒神坐像　仝　長一尺六寸　壹軀
◎訶利帝坐像　木彫著色　長三尺四寸　壹軀　傳寶山和尚作
◎夜叉神立像　仝　長三尺　壹軀　傳佛師隆慶作
◎蓮花吉祥天立像　仝　長三尺一寸　壹軀　仝
◎弘法大師坐像　仝　長三尺六寸　壹軀
◎俱利迦羅明王像　銅造　長四尺　壹軀

●聖天堂

本地十一面觀音立像　木彫著色　長三寸五分乃至六寸　七軀　傳寶山和尚作

●奥之院

○堂中靈妙なるもの

◎本尊 不動明王坐像　木彫著色　長二尺八分九　壹軀　傳寶山和尚作
◎脇侍 制多迦童子立像　仝　長二尺二分六　壹軀　傳山本茂助作
◎馬頭觀音坐像　仝　長二尺四寸四分　壹軀　傳寶山和尚作
◎隨求菩薩坐像　木彫金色　長二尺七寸　壹軀　仝
◎大元明王立像　木彫著色　長三尺一寸七分　壹軀　仝
◎瀧見觀音立像　木彫　長二尺七寸　壹軀　仝
◎惠善童子立像　木彫　長二尺七寸　壹軀　傳山本茂助作
◎指德童子立像　仝　長二尺六寸五分　壹軀　仝
◎淸淨比丘立像　仝　長仝　壹軀　仝

●祖師堂

◎湛海和尚坐像　木彫　長三尺五寸　壹軀　傳淸水隆慶作

●鼎窟

◎彌勒菩薩坐像　銅造　長三尺九寸八分　壹軀　傳天和二年大佛師法橋院逢作

◉書院　獅子閣と號す絶壁斷崖の上に架し結搆極めて美なり下瞰すれば全州一望に集り來りて風光言はん方なし、境内は淨潔にして花園あり又梅林あり楓樹亦多し

其餘觀音堂、如意輪堂、歡喜院、客殿、食堂、鐘樓、香燈堂、朝日寶塔、寮舍、寶庫、浴室、籠所等あり

▲寶山寺境内より生駒山頂まで八丁餘

◉生駒山　舊平群郡の北西に峙立し半ば河内國に跨り翠巒森然たり

▲寶山寺より前途を再びし大字中を經て東南二里ばかり

◉垂仁天皇菅原伏見東陵　郡跡村大字尼ケ辻

兆域周圍五百五十八間四分、南面、崇神天皇第二の皇子にして御母は皇太后御間城姫命と申す天皇御名は活目入彦伊沙知尊、元年壬辰正月磯城の瑞籬宮舊式上郡三輪村磯城御縣神社の地に卽位し給ひ二年十月纒向の珠城宮舊式上郡巻師村に遷都し給ふ在位九十九年庚午七月三日崩壽百四十

◉田道間守墓　所在詳ならず

垂仁天皇九十年間守をして常世國今云海外に遣し登岐知玖能迦具能木實今云橘也を求めしめ給ふ十年を

經て景行天皇元年歸朝す時に先皇既に崩し給ふと聞て泣て曰く我れ命を承て遠く絶域に往く萬里是を以て往來の間自から十年を經圖らず獨峻瀾を凌ぎ聖帝の神靈に賴て還り來ることを得たり今帝既に崩し給ひて復命することを得ず臣の生亦何の益かあらんと乃ち香果卽橘を御陵に奉じて自殺すと云

▲垂仁天皇御陵より南五丁許

◉唐招提寺　郡跡村大字五條

一名龍興寺、又建初律寺と號す卽ち律宗最初の靈場とす、舊寺祿三百石、現境一万千四百二十三坪、天平勝寶八歲聖武孝謙二帝の詔勅によりて唐僧鑑眞大和尚の開基にして中興は覺盛和尚なり此地は舊新田部親王の宮址にてありしと云り

○什寶中靈妙なるもの

◉不動明王坐像　銅造　長一尺九寸　壹軀

◉掌惡童子立像　木彫　若色　長一尺一寸　壹軀

◉矜迦羅童子立像　陶造　若色　長一尺五寸　壹軀

◎佛像　土造半肉彫　竪一尺一寸五分　横五寸五分　壹个

◎銅板佛像　鍍金　竪一尺五分　横八寸五分　壹个　傳鑑眞將來

◎佛像破片　數片

◎聖太　皺火焰付　木彫　大竪一丈三尺　小竪一丈　貳個

◎鉦　皺仝　木彫　大竪五尺　小竪四尺五寸　二個

◎東征傳繪緣起　紙本着色　五卷

永仁六年八月畫工六良兵衛入道運行　詞書美作前司實方外三名

◎五大明王畫像　絹本着色　五幀　傳弘法大師筆

◎威德明王畫像　仝　壹幀

◎畫帖　仝　壹冊　三十六葉　傳德川綱吉寄附

◎金剛經　紺紙銀泥　壹冊　折本兩面　傳鑑眞筆

◎大般若經　紙本墨書　壹卷　百七十六　傳阪上多繼筆

◎菅公立像　木彫　長八寸五分　壹軀　傳自作

◎虛空藏菩薩坐像　乾漆造　長一尺四寸　壹軀

◎唐招提寺門額　木造　横三尺六寸　竪四尺五寸　壹　傳孝謙天皇宸翰

◎舍利塔　鍍金　長二寸四分　壹基　行基傳來附

◎三杵鈴　鍍金　四個　傳弘法大師所用

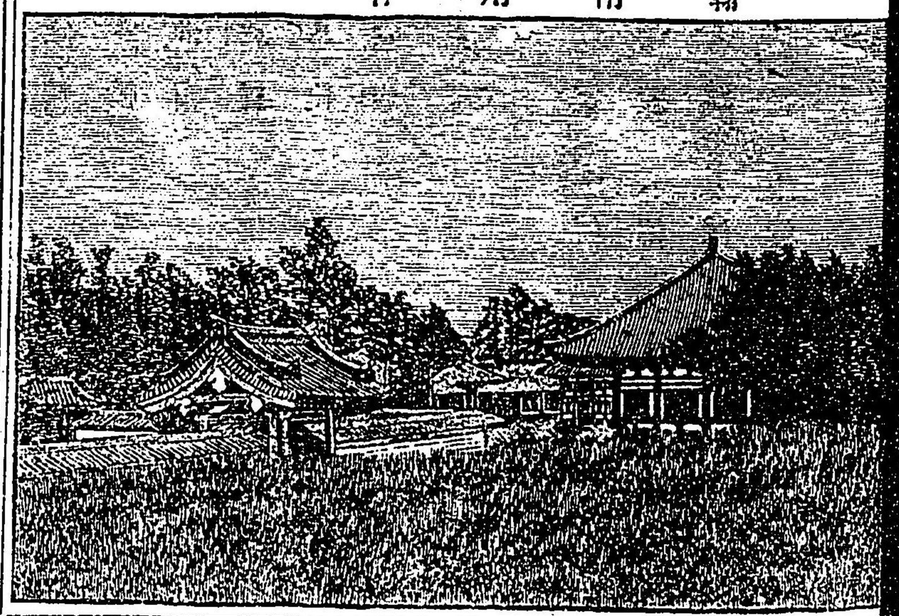
◎舍利塔　水瓶式　黃銅　長一尺五寸　壹基　傳行基遺骨

◎佛前器具　鍍金　壹揃

◎千手觀音畫像　板面着色　壹枚

◎大日如來畫像　絹本着色　壹幀　傳弘法大師筆

◎藥師三尊十二神將　仝　壹幀



○法華曼荼羅圖　仝　壹幀
○如來八幡畫像　仝　壹幀
○十六羅漢畫像　仝　拾六幀
○屏風（內四季草花外孝者畫）　着色　壹雙　傳狩野永主信叔筆
○扉　佛畫　木彫着色　八枚
○大日經　紙本墨書　壹卷　傳一行阿闍梨筆

●金堂　南面、桁行十五間、梁行八間、傳天平勝寶八歲唐僧如寶造立

○堂中靈妙なるもの

◎本尊盧遮那佛坐像　乾漆造金色　長八尺　壹軀　傳唐僧思託作
◎脇士千手觀音立像　仝　長一丈八尺　壹軀　傳天人作
◎脇士藥師如來立像　仝　長一丈五寸　壹軀　傳如寶作
◎大日如來坐像　木彫　長一丈一尺　壹軀　傳憲靜作
◎梵天立像　仝　長五尺六寸　壹軀　傳軍法力作

◎帝尺天立像　仝　長五尺六寸　壹軀　仝
◎行基菩薩坐像　仝　長二尺三寸　壹軀　傳自作
◎千手觀音立像　白檀金色　長二尺一寸　壹軀　傳鑑眞將來
◎脇士持國天像　木彫　長一尺　壹軀
◎脇士多聞天像　仝　長一尺　壹軀
◎四天王像　仝　長五尺五寸　四軀
◎文殊大士坐像　木彫着色　長七寸　壹軀　附屬（優塡王採桑老人菩哉童子佛茶婆離三藏）
◎吉祥天立像　仝　長四尺八寸　壹軀
◎愛染明王坐像　木彫着色　長一尺五寸五分　壹軀　傳鑑眞將來
◎不動明王坐像　仝　長一尺六寸　壹軀　傳寶山作
◎十一面觀音立像　木彫　長五尺八寸　壹軀
◎十二面觀音立像　仝　長四尺九寸　壹軀
◎地藏菩薩立像　仝　長五尺一寸　壹軀　傳小野篁作

◎寶生佛立像　仝　長七尺五寸　壹軀　傳印慶作
◎觀音立像　乾漆　長五尺二寸　壹軀　傳唐雲靜作
◎獅子吼菩立像　木彫　長五尺　壹軀
◎大自在王立像　仝　長四尺九寸　壹軀
◎衆寶王菩立像　仝　長五尺　壹軀
◎多寶塔佛坐像　仝　長二尺八寸　壹軀
◎藥師如來立像　仝　長五尺　壹軀

●東堂　東西四間半、南北二十八間天平寶字三年造立、後ち解脫上人修理を加へ南北十三間を禮堂とし北方十五間を二分して舍利殿講堂となせり

●禮堂

◎本尊釋迦如來立像　赤檀彫　長五尺　壹軀　傳毘首羯摩作
厨子扉裏、八相成道の圖　傳金岡筆

●舍利殿

◎舍利塔　鍍金　長三尺　壹基　傳源頼朝寄附
傳唐僧鑑眞將來の舍利三千粒を納む聖武天皇勅封

●講堂、天平寶字三年平城朝の朝集殿を移し戒律を講せし所なり

◎本尊彌勒菩薩坐像、乾漆造若色　長八尺　壹軀　傳唐軍法刀作
◎持國天立像　木彫　長三尺八寸　壹軀　仝
◎多聞天立像　仝　長三尺八寸　壹軀　仝

●地藏堂　桁行三間、梁行二間傳云弘仁二年造立

◎本尊地藏菩薩立像　木彫　長五尺一寸　壹軀
傳云弘法大師一夏九旬寓居して一刀三禮以て作る

●開山堂　方二間半、傳云天平寶字年中の創立にして天保四年燒失し明治十四年靈舍を移建と云ふ

◎鑑眞和尚坐像　紙張若色　長三尺六寸　壹軀　傳唐思託律師作
◎覺盛和尚坐像　木造若色　長三尺　壹軀

●經藏　桁行三間、梁行二間半、天平勝寶八歳唐義靜造立

●鼓樓　桁行二間五尺、梁行二間、造立年月は經藏に同じ

●校倉　桁行四間、梁行三間、弘仁二年義靜造立、建久六年將軍頼朝大修理を加ふと云ふ

●戒壇　基礎方七間、天平寶字三年創立、嘉永元年二月十五日燒失其餘辨財天堂、東門、北門、坊舍四字等あり又、孤山の松、醍醐味の泉、蒼海波の池等の名跡あり皆鑑眞和尚の遺跡と傳ふ

▲唐招提寺より南へ四丁許

◎藥師寺　都跡村大字西京

法相宗、南都七大寺の一、境内一万三千百四十四坪、舊寺祿三百石傳云白鳳八年十一月皇后病あり勅て藥師寺を建て冥救を祈り給はんとす然れども其營構の規を知らす時に釋祚蓮入定して龍宮の伽藍を見、出でゝ造式を錄奏す天皇其圖に據り藥師寺を高市郡に造立し給ふ宏壯麗妙と稱す其後三十八年を經て養老二年添下郡の右京二坊に徙さる即今の藥師寺是なり

○什寶中靈妙なるもの

◎菩薩の面部　乾漆造　長五寸五分　壹个

◎十一面觀音立像　木彫着色　長五尺五寸　壹軀

◎高麗犬　仝　長二尺六寸五分　貳頭

◎遐城樂面　仝　長八寸　壹個

◎吉祥天畫像　絹本着色　壹幀

◎慈恩大師畫像　仝　壹幀　傳小野道風讃

◎大般若經　紙本墨書　五百九十三卷　傳朝野魚養筆

○神功皇后坐像　木彫着色　長一尺二寸　壹軀

○仲比賣命坐像　仝　長一尺二寸　壹軀

○大津皇子坐像　仝　長一尺三寸　壹軀

○僧形八幡坐像　仝　長一尺四寸　壹軀

○神像板面繪　着色　各縱一尺六寸五分横六尺五寸　六枚　永仁三年法眼堯儼筆

○二河白道曼荼羅圖　絹本着色　壹幀　傳惠心僧都筆

○文殊畫像　絹本著色　壹幅
○增壹阿含經　紙本墨書　第五十卷　壹軸
　　跋云天平寶字三年十一月廿六日前春宮舍人少初位下科野虫麿寫用穀紙十九張

●金堂　南面、桁行十三間半、梁行八間、傳云延寶二年假建

○堂中靈妙なるもの

◎本尊藥師如來坐像　銅造　長九尺　壹軀　傳白鳳九年鑄造
◎須彌壇　仝　長五尺一寸廣一丈七尺　壹軀　仝
◎脇士日光佛立像　仝　長一丈五寸一　壹軀　仝
◎脇士月光佛立像　仝　長一丈五寸一　壹軀　仝
◎吉祥天立像　木彫　長一丈九尺五寸　壹軀　傳後背に傳教大師作銘あり
◎彌勒佛坐像　仝　長二尺七寸　壹軀
◎藥師如來坐像　仝　長二尺四寸　壹軀

佛壇は大理石にして長さ九間、巾二間、高さ一尺八寸、養老年中百濟國より貢獻する所にして世に瑠璃石と稱す又三尊佛は天下無比の傑作と云へり

●講堂　南面、桁行九間、梁行八間、文化二年造立

◎本尊藥師如來坐像　銅造　壹共長九尺　壹軀
◎脇士日光菩薩立像　仝　長九尺五寸　壹軀
◎脇士月光菩薩立像　仝　長九尺五寸　壹軀

此三尊は古藥師寺の安置佛にして金堂のは、元明天皇の勅を奉して行基僧正佛足石を摸鈔として重鑄せしなり

●東院堂　西面、桁行十二間、梁行七間、傳云養老五年長屋親王華嚴宗弘通の爲に創立せられしとぞ其後屢々修繕す

○堂中靈妙なるもの

◎本尊聖觀音立像　檜浮彫金箔　壹共長七尺　壹軀　傳養老年中百濟より貢獻
◎十一面觀音立像　木彫彩色　長五尺八寸　壹軀
◎四天王像　仝　各長五尺壹共　壹軀　傳佛工成朝作

●文殊堂　方四間、万治三年塔中藥園院より轉徙すと云

○堂中靈妙なるもの

◎本尊文殊菩薩立像　木彫金色　長二尺一寸　壹軀　傳行基作

◎　摩利支天坐像　木彫　長一尺　壹軀

●護摩堂　方二間、造立年代不詳

○堂中靈妙なるもの

◎本尊不動明王坐像　木彫　長二尺九寸五分　壹軀　傳弘法大師作

●東塔　六層造高さ十一丈五尺、方五間、傳天平二年三月建立、屋大小あり一種異風の建築なり

露盤銅柱銘云、維清原叡宇　天皇（天武天皇）即位八年庚辰之歳建子之月　中宮（持統天皇）不念創此伽藍而鋪金未遂龍駕騰仙大上天皇（持統天皇）奉遷前緒遂成斯業照先皇之弘誓光後帝（文武）之玄功道濟郡生業傳曠劫式於高躅敢勒貞金　其銘曰魏々蕩々藥師如來大發誓願廣運慈哀猗歟聖王仰延冥助爰飭靈宇莊嚴調御亭々寶刹寂々法城福崇億劫慶溢万齡

●西塔址　今の文殊堂の地是なり、光仁天皇の十一年正月雷火の爲に灰燼し其後再造し慶長二年五月廿八日亦炎上す

●佛足堂　東面方三間、寶珠形、文政年中古材を以て再造す

○佛足跡磐石　壹個

縱二尺六寸五分、高二尺三寸五分、横三尺四寸

平面に釋迦如來足跡、正面に佛足靈驗の記、右面に三國傳來の緣由を勒す

○仝　碑　高六尺、幅一尺五寸、厚二寸　壹基

傳光明皇后御筆上段十一首下段十首を鐫す

其餘龍王堂、鐘堂、辨財天堂、平木堂、天神社、東門、南門、北門、坊舍八宇等あり

▲藥師寺の南門より南へ壹丁許

●八幡神社　仝村字休の岡

社地反別四反二畝五歩、社殿西面、桁行二間半、梁行三間、極彩色

所祭　豐田別尊　氣長足比賣尊　仲比賣命

初め藥師寺の鎮守として別當榮紹寛平八年勸請する所にして其後文安年間再建し慶長年間豐

臣秀吉の修造を經て今に及と云其餘神饌所、神樂所若宮等あり

因云 此地休憩岡と云は僧行敎が貞觀元年に宇佐八幡宮を添上郡大安寺へ分遷する時此所にて小憩ありし故名はしとゞ又此地を西の京と云ふは孝謙天皇の皇居地たるを以てなり

▲郡山町へ直行せんには八幡神社の西を南行すへし路程八丁

▲八幡神社より西へ十丁許

◉赤屬山　都跡村大字五條

陶器を製する所なり方俗五條山燒と稱す、正保年中京師の陶工仁清と云人始て窯を茲に開き土人に敎へて器物を造らしむ既にして窯廢す後ち享和年間郡山城主柳澤堯山氏再び窯を開き工人をして造らしむ其土質白く色は灰白にして其上に黑斑の釉を施す恰も長門の松本燒の如し、近年漸く衰へ日用雜品を製出せり、新續古今集に

衣だに二つある世は赤屬の山にひとつは借ざるものを

▲赤屬山より郡山町を尋ぬべし南行十町許

○郡山町

◉郡山町　は舊柳澤氏の城下にして廣袤は東西凡二十町、南北三十町、市坊四十五、戸數二千餘、人口一萬二千七百二十二人、大和第二の都會にして奈良町を離ること五十丁西南にあり、廢藩以來は幾多の衰頽を來したりしも猶縣立尋常中學校、警察署、區裁判所出張所、第六十八銀行紡績會社、郡山銀行、製油粉會社及其他の會社等あり、商況は可なり繁盛にして木綿布、綿、穀類の輸出は奈良町の上に出つ

◉植槻神社　郡山町大字北郡山、字植槻筋

境内四百七十四坪、貞觀元年宇佐八幡宮を山城の男山に分徙せられし時植槻道場の鎭守として仝時に祭ると云、此道場は和銅二年藤原不比等僧淨達をして維摩會を擧行せしめし所にして後ち奈良の興福寺に移されたるなり

◉大織冠丘　仝町大字北郡山

相傳ふ昔談山神社を此地に徙せしことありしが增田氏郡山在城の時又元の多武峰に還へされたりと云因て此名あり

◉郡山城址　仝町大字南郡山

永祿年中筒井氏の麾下小田切春次の築く所にして天正十三年豐臣秀長城を高し湟を深くし以て大阪城に藩屏す十九年四月秀長卒して其子秀俊嗣ぎ文祿四年秀俊夭死し嗣なくして國除かれ增田長盛をして代つて之に守らしむ爾後屢得替あり享保九年に及で柳澤吉里を甲斐より徙して之に封せられし以降子孫承繼して明治廢藩の時に至る

●柳澤神社　城址本丸に在り

明治十三年の創立に係り境内千七百七十五坪、城主柳澤の始祖吉保公を祭る、公は新羅三郎義光より出づ十九世の孫背木源七郎信俊、柳澤邑に食む、改めて氏とす、其孫卽ち公なり、公は將軍綱吉公に仕へ、累遷して從四位下左近衛少將に叙せられ、甲斐の國主に任せらる、性文事を好み、賢才を尙び、鴻儒秀才多く其門に集れり、天和貞享の頃より寶永年間に至まで天下の政務に參與し、朝家の典禮其缺を補し、其廢を擧げ、又歷朝の山陵を修築せられしは世の共に感賞する所なり

▲城址本丸の東八丁許

●羅城門址　郡山町大字野垣内

鍛冶町門址の東に來世墓と云あり呼てライシヨと云是其古址なるべし、此地の正北一里餘に平城宮址あり又此東西の通りは古への九條大路に當れり

▲羅城門の南六丁許

●郡山停車場　仝町大字高田

當驛は大阪鐵道の幹線にして奈良町に達す、距離二哩七十四鎖又大阪湊町へは二十二哩四十二鎖を隔つ

▲停車場の西三丁餘

●藥園八幡神社　仝町大字材木

所祭　應神天皇　・　神功皇后

社地四百三十餘坪當社初め郡山城内の地に在りて境域、塩町、袋町に跨りありしと云へり其後今の地に移されたり其舊地は天平勝寶元年十一月大嘗會を行はせし藥園宮蓋此なるべし、

▲藥園神社より西南十町許

●新城宮址　仝町大字新木

村に森あり新木の天皇と呼ぶ、寶龜五年八月、光仁天皇行幸ありし新城の宮址なりと云へり。森に牛頭天皇を祭る當村の產土神とす祭禮は六月十四日之を行ふ

▲郡山町大字柳三丁目より西へ一里許、腕車通ず

◎金剛山寺　矢田村大字矢田

眞言宗、舊無祿にして免租地を有す、境域千四百五十餘坪、寺は地藏山腰に在りて矢田山と號し矢田寺と稱す白鳳年間勅願に依り智通僧正の開基にして持統天皇相繼て伽藍增築し給ふと云

○什寶中靈妙なるもの

◎地藏觀音吉祥畫像　絹本若色　壹幀

○地藏繪緣起　仝　武幀

○天武天皇畫像　仝　壹幀

○閻魔王坐像　木彫　長一尺八寸　壹軀

○扉畫像　小野笠滿米上人　木彫若色　傳小野篁作

●金堂　東面、方十一間、傳承和年中造立

○堂中靈妙なるもの

◎本尊地藏菩薩立像　木彫　長五尺二寸　傳春日作

◎脇士觀音菩薩立像　木彫金色　長五尺二寸　傳聖德太子作

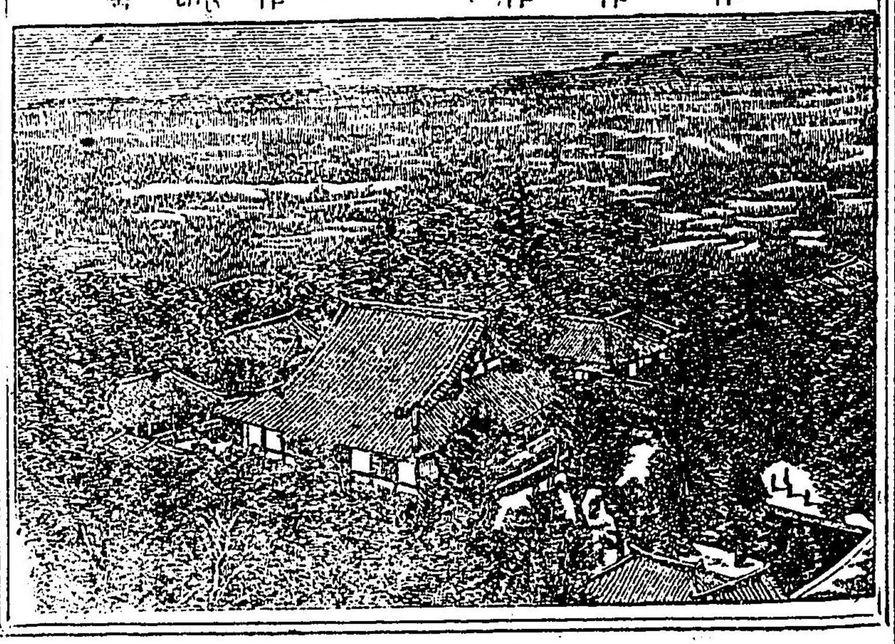
○脇士吉祥天立像　仝　仝　傳欽作鳥作

●念佛堂　桁行六間、梁行三間造立前に仝じ

○堂中靈妙なるもの

◎本尊彌陀如來坐像　木彫金色　長五尺　傳惠心僧都作

○其餘灌頂堂、不動堂、天皇殿、回向堂、觀音堂、一切經藏、繪馬堂、菩薩堂、開山堂、六角堂、講堂、閻魔堂、金利堂、鐘樓、寶藏、諸門及塔中四ケ院等あり



▲金剛山寺の北八丁許、町毎に石標立つ

●東明寺　仝村

鍋倉山と號す、眞言宗にして舊寺祿なし、現境三百五十五坪、當寺は天武天皇の皇子舍人親王の創造に係り爾後廢頽に委したりしを文久三年再興すと云ふ

○什寶中靈妙なるもの

◎法華經　紺紙金泥　八卷　傳舍人親王御筆

享保二年本尊胎内より發顯すと云

○扉　日光月光佛畫像　木製若色　竪三尺六寸　横一尺六寸　貳面

●本堂　巽面方六間、傳創立の儘にて文久三年修造

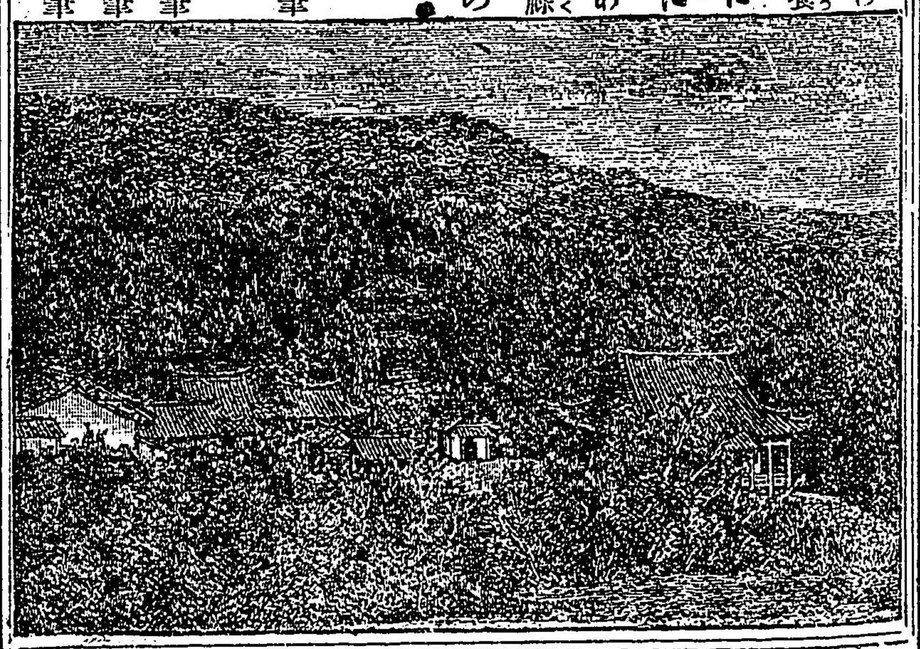
◎本尊藥師如來坐像　木彫　長三尺　傳舍人親王感得

○多聞天立像　仝　長五尺三寸　傳智證大師作

▲前の途に戻り金剛山寺より山越十八丁

●松尾寺　仝村大字山田　松尾寺東門より東行二十丁片綱村大字小泉に至る

寺は松尾山の東面にあり、宗旨は眞言にして寺祿なし現境九百坪、補陀洛山と號し西松尾寺と稱す傳云養老二年舍人親王の御願に依り永業禪師の創造する所にして南谿に六宇の學寮、北崖に十餘の堂衆等あり麓には山田の莊と云ありて奴婢之に住す又滿願寺村と云あり闔村本寺によりて生計を立しといへり、かくて永祿天正の兵亂を經て漸次衰頽して今に及へり、東南北の眺望絶佳なり



○什寶中靈妙なるもの

○愛染明王畫像　絹本著色　壹幀　傳宅磨筆

○威德明王畫像　仝　壹幀　傳顔輝筆

○釋迦八大菩薩畫像　仝　壹幀　傳宅磨筆

○彌勒菩薩畫像　仝　壹幀　傳惠心僧都筆

○十一面觀音畫像　仝　壹幀

●本　堂　東面方七間、養老二年創立の傳と云

○堂中靈妙なるもの

◎本尊千手觀音立像　木彫　長七尺　壹軀　傳舍人親王作

○脇士十一面觀音立像　木彫金色　長三尺七寸　壹軀

○仝　三目八臂不空羂索觀音立像　仝　長三尺七寸　壹軀

○　廿八部衆像　木彫着色　長自八寸至一尺二寸　廿八軀

●大黑堂　方三間、慶應元年重興に係る

○堂中靈妙なるもの

◎本尊大黑天立像　木彫　長二尺七寸　壹軀　傳空海作

○金剛界大日如來坐像　木彫金色　長三尺　壹軀

○胎藏界大日如來坐像　仝　長三尺　壹軀

●三層塔　方二間、明治廿一年再造

○本尊如意輪觀音坐像　木彫　長三尺二寸　壹軀

●十三級石塔婆　本堂の後山に在り舍人親王の廟所と云

其餘行者堂、阿彌陀堂、觀音堂、鐘樓、鎮守堂、庫裡諸門等あり

▲松尾寺南門より山路東南に降る十五丁許

◎法輪寺　富郷村大字三井

寺は平地にあり古義眞言宗、現境千三百六十坪、舊寺祿なし、傳云推古天皇廿一年聖德太子の造立にして寺傍に井を穿ち號して御井寺御一に三に作と云ふ、轉法輪の道場なるか故に又法輪寺とも云

當時伽藍未だ全く備はらずして太子薨去し給ふ爰に御子山背大兄王、太子の遺命を承て仝三十一年より三年に至り成就せしめ給ふと云

○什寶中靈妙なるもの

◎鈴　銅　長九寸　壹口

●本　堂　南面、桁行五間、梁行三間

○堂中靈妙なるもの

◎本尊觀音立像　木彫着色　長一丈　壹軀　傳聖德太子作

◎ 彌勒菩薩立像　木彫　長五尺八寸　壹軀　傳聖德太子作
◎ 地藏菩薩立像　木彫　長四尺八寸五分　壹軀
◎ 四天王像　仝　長各二尺八寸　四軀

●金堂　南面、桁行五間、梁行四間、傳寶曆十一年再造

○堂中靈妙なるもの
◎本尊藥師如來坐像　木彫　長三尺五寸　壹軀　傳鳥佛師作
◎吉祥天立像　仝　長三尺五寸　壹軀　仝
◎虛空藏菩立像　仝　長五尺七寸　壹軀　傳印度作
◎觀音立像　埴造　長五尺八寸　壹軀　傳鳥佛師作
◎楊柳觀音立像　木彫　長五尺六寸　壹軀　仝

●妙見堂　南面、方三間創立の儘、後修繕を加ふと云

○堂中靈妙なるもの
◎本尊妙見大士立像　木彫　長三尺一寸　壹軀　傳上宮太子作
◎脇侍司命立像　仝　長五尺一寸　壹軀　仝
◎脇侍司祿立像　仝　長三尺八寸　壹軀　仝

●三層塔　方三間半、傳創立の儘にて後ち寶曆十年修繕

塔中靈妙なるもの
◎阿彌陀如來立像　木彫　長二尺九寸　壹軀
◎毘沙門天立像　仝　長五尺一寸　壹軀　傳聖德太子作

其餘訶梨帝堂、地藏堂、鐘樓、參籠所、庫裡諸門等あり

▲法輪寺南門より巽方二丁許

◉栗毛岡　聖德太子のめされし栗毛の駒を葬ると云

▲法輪寺南門より正東六丁許

◉法起寺　仝村大字岡本

法相宗、現境千二百三十二坪、僧無祿にして方一丁の免地租を有す、此地は聖德太子の別莊、岡本の宮址にして、太子及御代々先皇の御爲に推古大皇の草創せさせし官寺なりとぞ、後ち世を經て本堂及三層塔を除く外一山焦土となり荒廢に委しゐりしを延寶五年復興して今に存すと云り

○什寶中靈妙なるもの

◎如意輪觀音坐像　銅造　長六寸五分　壹軀

◎虛空藏菩薩坐像　仝　長七寸八分　壹軀

◎普賢菩薩畫像　絹本着色　壹幀　傳巨勢金岡筆

◎不動明王畫像　仝　壹幀

○千手觀音廿八部衆畫像　仝　壹幀

●本堂　南面、桁行五間半、梁行五間

○堂中靈妙なるもの

本尊十一面觀音立像　木彫　長一丈一尺　壹軀

●三層塔　方三間半、高十一間半、傳創立の儘修理を加ふ

○塔中靈妙なるもの

◎本尊大日如來坐像　木彫金色　長三尺　壹軀

◎彌陀如來坐像　仝　長三尺　壹軀

●聖天堂　方三間

○堂中靈妙なるもの

◎護俱利菩薩坐像　木彫　長一尺九寸　壹軀

◎不動明王坐像　仝　長二尺六寸　壹軀　傳弘法大師作

其餘持佛堂、鎭守堂、鐘樓、庫裡諸門等あり

▲法起寺より東八丁許

◎小泉　片桐村大字小泉

舊小泉氏の采地にして國分街道の一驛たり稻市街の形を成し廣袤十三町許、産物は麻、揚豆腐

殊に著名なり

●小泉營址　村の中央に在り

天文年間小泉四郎此に據る、元和の初年片桐貞隆に賜ひ子孫世襲して維新廢藩の時に至る

●東申堂　村の中央に在り、大和一宇の庚申と稱す

▲小泉村の南西一里餘

◉廣瀬川　初瀬、百濟、葛城、鳥見の四川河合村に會合して廣瀬川と稱し舊葛城、舊平群の二郡界に至りて龍田川となる

◉御幸橋　廣瀬川に架る

むかし天武天皇、廣瀬神社に行幸ありし時始て架設の事社記に見ゆ

▲小泉より南西五十町餘、法隆寺停車場より南東十三丁許

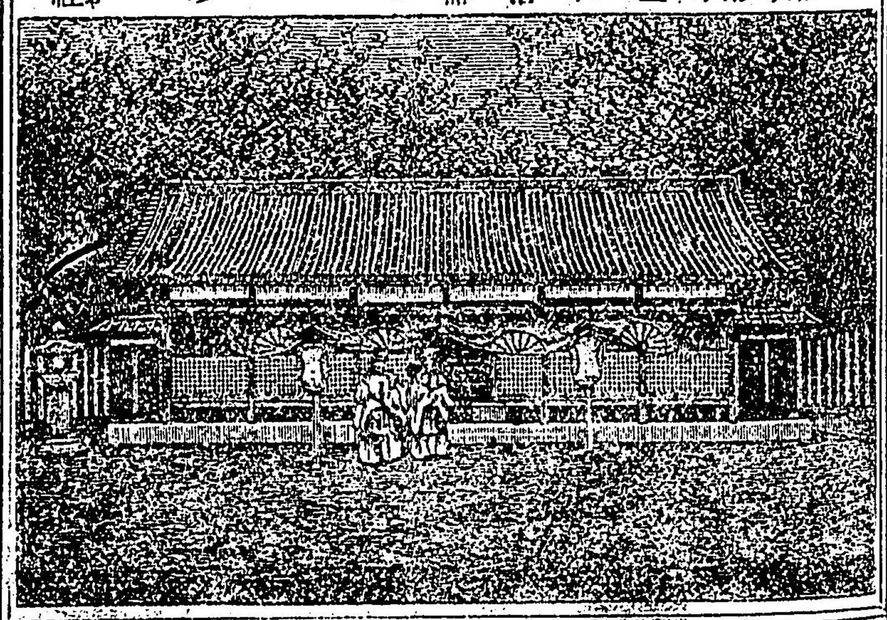
◉廣瀬神社　北葛城郡河合村大字川合字廣瀬河曲の森

境域反別七千〇九十三坪にして東西凡三十間、南北凡五丁許

●正殿　森の北端に在り南面にして桁行一丈一尺餘、梁行九尺一寸

所祭　和加宇迦能賣神

白鳳四年四月の鎮坐にして官幣大社に列し四月四日官祭執行せられ舊七月四日大忌祭を行ふ、令義解に云山谷の水變じて甘き水となり苗稼を浸し潤し其稔を全くすることを欲す故に此祭あり云云又舊十月十七日に



も私祭あり、現殿は正德年間の改造にして拜殿は明治廿七年の新築に係れり、勅使殿、社務所、寶庫、祭器庫、神饌所、繪馬舍等左右に列り立ち社樹森鬱として神々し

◉淨凝池　二鳥居のかたはらにあり

◉水足池　社務所の背後に在り、和加宇迦能賣神の出現所とす

●祓戸神社、稻荷神社、祖靈社並に域内にあり、摂社

水分神社は二丁許西にあり、八神殿社、饒速日命社、並に末社にして境外五丁餘西南にあり

▲前に戻り北西へ行く十三町許

◉法隆寺停車場　生駒郡富郷村大字興留

當驛は大阪鐵道の幹線にして大阪湊町を距る十八哩十九鎖、郡山驛に至る四哩二十三鎖、其次奈良へ九哩三十八鎖とす

▲法隆寺停車場より北へ八丁餘

◉法隆寺　生駒郡法隆寺村大字法隆寺

法相宗の大本山にして、南都七大寺の一なり、寺祿元五千石天正以降減じて千石となる現境内二万八千四百九十七坪、一名法隆學問寺、鵤僧寺、斑鳩寺、伊珂流我大寺、來立寺、鳥路寺現身往生所寺、寶龍寺、聖國寺、七德寺等の別號あり、用明天皇の勅に依て聖德太子斑鳩山下に新堂一宇を創建し給ふ尋て推古天皇元年より同十五年に至り增築せらる所の一大伽藍にして建初以來既に一千三百有餘の星霜を經ると雖も未だ曾て祝融の災なく且其舊形を改めざる天下無比の名刹なりとす其規模の宏大堂舍の壯麗なるは今更稱へ云ふべくもあらず左記順序に從て巡覽せらるへし

▲並松の北に見ゆるは總門なり此を入るべし

◉南大門　高三丈六尺東西十間、南北七間、永享十一年再修

◉西院　當寺は東西の両院に別つ西院は卽其本寺なり

▲南大門内東の方

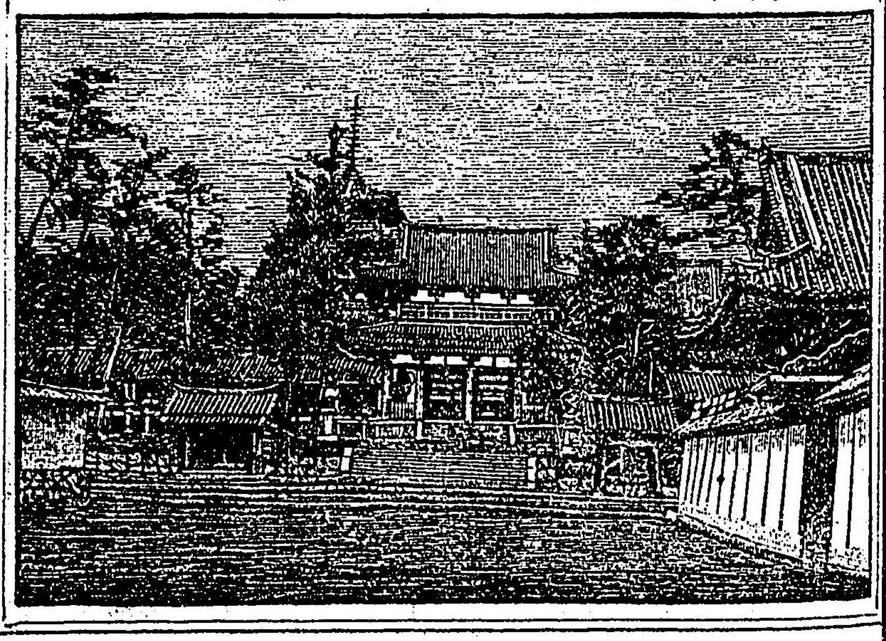
◉聖天堂　三間四面、安永九年再造

○堂中靈妙なるもの

◎十一面觀音立像　木彫　長二尺二寸五分　壹軀

▲仝所

◉十二天堂　桁行二間、梁行一間、安永九年再建、修正會の時供物修行の道場なり



○堂中靈妙なるもの

◎本尊彌陀如來坐像　木彫金色　長二尺三寸五分　壹軀　傳安阿彌作

◎脇士觀音坐像　仝　長一尺八寸　壹軀　仝

◎脇士勢至坐像　仝　長一尺八寸　壹軀　仝

▲仝所西の方寺務所內

●新堂　方二間二尺、高一丈八尺、用明天皇の創造にして正應元年茲に徙せり

○堂中靈妙なるもの

◎本尊藥師如來坐像　木彫　長二尺八寸五分　壹軀　傳百濟國貢獻

◎脇士日光菩薩立像　仝　長三尺四寸　壹軀

◎脇士月光菩薩立像　仝　長三尺四寸　壹軀

◎四天王像　木彫若色　長各三尺五寸內參軀

●中門　二階造、桁行六間五尺、梁行四間二尺二寸、俗に二王門と稱す、推古天皇十五年創立の儘と云ひ或は和銅元年再造と云後ち慶長年間修理す

◎二王像　埴造　長各一丈二尺　貳軀　傳鳥佛師作

此二像は鳥佛師作と云ひ傳ふれども緣起流記資財帳には和銅四年歲次辛亥寺造者とあり又此門の二階に孝謙天皇の御世に製せし百万塔數千基今尚現存す

●廻廊　桁行百三十五間五尺五寸、梁行一間五尺五寸、推古天皇十五年の創立にして慶長年間修補す、廻廊は連子造り、東西に小門四所あり其中間を東樂門、西樂門と云ひ巽と坤の隅を慶賀門と云

●金堂　二階造り南面桁行九間二尺五寸、梁行七間四尺七寸、推古天皇十五年の創造にして慶長年間修理を加ふ本堂卽是なり

●南面中間

◎本尊釋迦如來坐像　金銅　長二尺八寸七分　壹軀　傳鳥佛師作

◎脇士藥王菩薩立像　仝　長二尺七寸　壹軀　仝

◎脇士藥王菩薩立像　仝　長二尺七寸　壹軀　仝

此三尊は山背大兄王等の發願に因て推古天皇三十一年三月造立す後背に銘文あり

●東　間

◎本尊藥師如來坐像　金銅　長二尺五分　壹軀　傳鳥佛師作

◎脇士日光菩薩立像　仝　長一尺七寸五分　壹軀　仝

◎脇士月光菩薩立像　仝　長一尺七寸五分　壹軀　仝

此三佛は聖德太子か御父用明天皇の御爲に造り給ひし最初の本尊なり其徴は後背に銘文あり

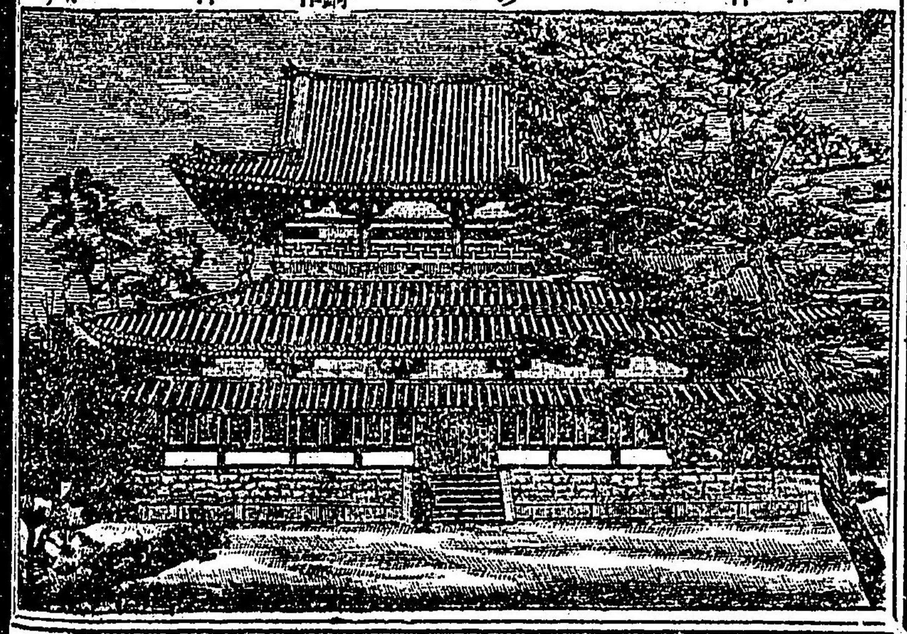
●西　間

◎本尊彌陀如來坐像　金銅　長二尺六分　壹軀　傳佛師康勝銅工平國文作

◎脇士觀音立像　仝　長一尺七寸五分　壹軀　傳鳥佛師作

◎脇士　立像　仝　長仝　壹軀　仝

此三尊は御母間人皇女の爲に聖德太子の造らせ給ひしにて承德二年本尊盜難に遭り貞永元年八月新造の事後背に銘文あり



◎多聞天立像　木彫著色　長四尺六寸　壹軀　傳承暦二年造刻

◎吉祥天立像　仝　長四尺八寸　壹軀　仝

此二天は孝謙天皇勅願にして最勝會悔過の料なりと云

◎四天王像　木彫　長各四尺四寸　四軀

西方天の光背銘に云山口大口費上而次木間二人作也、又北方天の銘に云藥師德保上而鐵師刑古一人作也、又日本紀に白雉元年是歲漢山口直大口詔ル來して千佛像を刻むと見ゆ蓋是の佛工成べし

◎鉤天蓋　木造彩色　三蓋　傳鳥佛師作

◎同天蓋飾　伎樂天女鳳凰　木造彩色　數個

●西　面

◎普賢延命坐像　木彫著色　長三尺　壹軀

◎虛空藏菩薩立像　仝　長七尺四寸　壹軀　傳百濟國渡來

◎觀音菩薩立像　仝　長六尺一寸　壹軀

◎彌勒菩薩坐像　木彫　長二尺四寸　壹軀

◎地藏菩薩立像　仝　長五尺六寸　壹軀

●北面

◎厨子　密陀僧絵　木造　長八尺八寸　壹基　傳橘大夫人念持佛

阿彌陀如來觀音勢至三尊銅像安置鍍花三葉其上に坐す後背三折す敷板共に金銅天人蓮花波濤彫刻

◎玉蟲厨子　木製宮殿式　長七尺八寸　壹基　傳推古天皇御物

觀音銅像安置厨子の四方は密陀僧にて經說を描けり鉸具は唐艸の透彫にして其鉸具の下に金花蟲の羽を敷詰て莊飾せり故に稱して玉蟲厨子と云此羽今尚存在すれども其所在知もの殆どなり

◎内陣壁畫　傳高麗僧曇徵筆

西壁に阿彌陀の淨土、東壁に寶生の淨利、北裏東脇の壁に藥師の刹土、西脇の壁に釋迦の國土自餘の壁には菩薩の立像、上の柱貫の壁に羅漢の住所山窟の莊ひ等を畫くと寺記に見たり

寺記に云往古より此堂閣を開かず年序永く縱觀を禁ず常住の寺僧すら佛像を瞻禮すること甚だ稀なり況や都鄙の道俗に於てをや云云今の如く自由に開扉するは永祿以來の事なりと言へり

●五層寶塔　高二十五間、四方正面、各五間半、創立修繕金堂に同じ一に現身往生塔と稱す

寺傳に云皇極天皇二年二月十六日聖德太子の子孫廿五人逆臣入鹿の爲に此塔内に潛み四重目に登り遂に西に向ふて飛行すと云因て此名ありと云目錄抄に云裝階板葺あり層毎に四面皆板に最勝說く所の四種の龍王の名を書す九輪最下の輪の四角に鐵を立たり是皆龍王の難を除かん爲なり又下層の四角に篝候を懸け角毎に寶鐸を懸けたり其最上層最下層の四角の上に雲珠を居たり塔本に内外の陣あり外陣は連子内陣は壁なり云云

●東面

◎文殊維摩坐像　塑造　長各一尺六寸八分　壹軀　傳鳥佛師作

◎化菩薩　仝　數軀

傳云不二法門の体相なり文殊は無畏印を施す

●南面

◎彌勒像　塑造　長一尺八寸　壹軀　傳鳥佛師作

◎脇士法菡林菩薩　仝　壹軀　仝

◎脇士大妙相菩薩　仝　壹軀　仝

◎眷屬二天王　仝　貳軀　仝

◎眷屬二王　仝　貳軀　仝

此一座稱して曼荼羅と云ふ曼荼羅とは壇と云へるなり或は輪圓具足と釋す卽ち一門の總稱なり

●西面

◎釋迦金棺　長一尺八寸　壹個　傳鳥佛師作
◎寶塔　高一尺二寸五分　壹基　仝
傳釋迦尊茶毘所とす卽ち火葬場なり
◎羅漢　數軀　仝

●北面

◎釋迦涅槃像　塑造　長三尺二寸　壹軀　傳鳥佛師作
◎菩薩羅漢像　仝　數軀

●大講堂　桁行八間二尺八寸、梁行十七間四寸、一に聖國寺と稱す延長三年雷火に燒失す佛像は他に移せしため其災を免かれしとぞ、現堂は正暦元年京都法性寺内の普明寺を移建と云へり

○堂中靈妙なるもの

◎本尊藥師如來坐像　木彫金色　長八尺六寸　壹軀
◎脇侍日光菩薩坐像　仝　長五尺四寸　壹軀
◎脇侍月光菩薩坐像　仝　仝　壹軀
◎四天王像　木彫着色　各長六尺五寸　四軀

▲講堂の西

●大經藏　二階造、桁行二間三尺八寸、梁行四間四尺三寸、創立金堂に同じ一に皷樓と云ふ

▲講堂の東

●鐘樓堂　大經藏と東西相對峙す、年代仝上

▲講堂の北

●上之堂　桁行十間半、梁行七間、舍人親王天武帝第四子の本願、永業大禪師東院主の創立にして四時供花の梵場とす、永祚元年八月十三日大風に轉倒す現堂は應長元年七月再造と云

○堂中靈妙なるもの

◎本尊釋迦如來坐像　木彫金色　長七尺五寸五分　壹軀
◎脇侍文殊菩薩坐像　仝　長五尺一寸　壹軀
◎脇侍普賢菩薩坐像　仝　仝　壹軀

◎ 觀音立像　木彫　長五尺　壹軀
◎ 寶生菩薩坐像　仝　長二尺八寸　壹軀
◎ 彌陀如來坐像　仝　仝　壹軀
○ 四天王像　木彫若色　長各五尺八寸　壹軀
○ 阿閦如來坐像　木彫　長二尺一寸　壹軀
○ 釋迦如來坐像　仝　長二尺二寸　壹軀
○ 觀音坐像　仝　長三尺　壹軀
○ 釋迦如來坐像　乾漆造　長三尺一寸　壹軀
○ 釋迦如來坐像　木彫　長一尺九寸　壹軀

▲西室の乾方

●西圓堂　八角造、四方面各二間二尺八寸、一に西北圓堂と號す、
傳云養老二年橘夫人の本願にして行基菩薩の創立に係り永承元年五月十七日顚倒し建長元年再造弘化三年修補す

○堂中靈妙なるもの

◎本尊藥師如來坐像　木彫　長八尺　壹軀　傳行基作
七藥師と稱す七箇寺配置の一なり此本尊に事を祈れば必ず應驗ありと稱す道俗の崇敬する所なり

◎ 十二神將像　仝　長二尺四寸乃至二尺九寸　壹軀　傳運慶作
◎ 迦儺面　裝束添　木彫着色　長七寸八分乃至九寸六分　三面　傳修二會所用

●聖靈院

桁行九間一尺八寸、梁行五間五尺二寸、傳云當院初め斑鳩宮の花園に在て勸學院と號し太子自作の尊像を安置す當院廢頽の後尊像を網封藏に遷坐し天仁二年封藏の南に七間三面の坊舍を營み尊像を此に徙す時人呼て聖皇院と云堀河天皇の御世東室大破す保安二年時の別當經尋僧正大に之を修營し北五坊を東室となし南三室を寶殿とし以て太子自作の尊像及王子の像等を安置し號して新聖靈院と稱す今の寶殿卽是なり

中殿

◎聖德太子束帶坐像　沈香木　長二尺七寸五分　壹軀　傳自作
三十五歲攝政の時の尊容と稱す胎內に如意輪觀音像及法華勝鬘維摩の三經を納むと云ふ

◎山背大兄王坐像　木彫 着色　長二尺六分　壹軀　傳烏佛師作
袈裟を着し如意を持す卽太子の御子なり

◎殖栗王子坐像　木彫 着色　長一尺七寸五分　壹軀　傳仝
數珠念珠管を持す太子同胞の御弟なり

◎茨田王子坐像　木彫 着色　長一尺八寸五分　壹軀　傳仝
太刀を持す同胞御弟なり

◎惠慈法師坐像　仝　長二尺六分　壹軀　傳仝
袈裟を着し柄香炉を持す高麗僧にて三論宗の高祖と稱す

西間

◎如意輪觀音坐像　木彫 金色　長二尺九寸五分　壹軀
太子本地佛と稱す百濟より渡來す

東間

◎地藏菩薩立像　木彫 着色　長二尺五寸　壹軀
傳云敏達天皇六年冬十月太子六歲の時百濟の聖明王貢獻す蓋本邦地藏像の始なり

◎妻室　東西四間一尺三寸、南北廿三間半、文和三年移し立つ

◎經堂

◎勒僧正坐像　木彫　長三尺二寸、　壹軀

◎食堂　桁行十間半、梁行四間五尺二寸、推古天皇十五年の創立にして慶長年間修繕と云
毎歲正月朝拜式を行ふ所とす

◎本尊藥師如來坐像　木彫 金色　長一尺九寸　壹軀

◎脇士日光菩薩立像　仝　長二尺二寸五分　壹軀

◎脇士月光菩薩立像　仝　仝　壹軀

◎梵天立像　塑造　長三尺　壹軀

◎帝釋天立像　仝　仝　壹軀

◎四天王像　仝　長二尺七寸　壹軀

◎仝細殿　桁行十間半、梁行二間六寸、

◎綱封藏　桁行十一間五尺五寸、梁行三間五尺一寸、寶藏三十三雙の一なり太子布敎以降三國傳來の珍寶三寶初起の法器等收め給ひし所にして往古より歷朝勅封を下し給ふ故に勅封藏と

號す後改めて網封藏と爲す是を以て千古の寶器一の散逸するなく今に傳ふる所以なり維新後其保護の至らざるより明治十年許多の寶器を宮內省に獻納せり其殘る中に就て之を擧ぐれは左の如し

○什寶中靈妙なるもの

◎菩薩立像　金銅　長一尺七寸五分乃至二尺一寸　四軀

金堂の藥師及彌陀の脇士なり

◎觀音立像　仝　長一尺八寸五分　壹軀

◎菩薩立像　仝　長八寸五分乃至一尺二寸　六軀

◎不動明王坐像　仝　長六寸　壹軀

◎藥師如來坐像　仝　長五寸三分　壹軀　傳西圓堂本尊の脇內佛

◎釋迦誕生像　仝　長八寸　壹軀

◎彌陀三尊打出像　金銅版　橫一尺一寸七分　竪一尺一寸八分　壹軀

◎銅版線畫布袋像　仝　橫一尺一寸五分　竪一尺八寸　壹軀

◎彌陀如來坐像　脇士後補添　金銅　長五尺　壹軀

◎九面觀音立像　沈香木　長一尺二寸五分　壹軀　傳聖德太子作

◎如意輪觀音坐像　木彫　長五寸五分　壹軀　傳仝　閻子丸念持佛

◎彌勒菩薩坐像　乾漆造　長二尺六寸　壹軀

◎仝　後　仝　壹個

◎三尊佛像　石刻　長七寸八分　壹個

◎水瓶　銅　高八寸　壹個

◎香水壺　鍍金　高六寸二分　口徑三寸六分　壹個

◎紋錦裂　橫四尺四寸五分　竪八尺一寸五分　壹枚

傳聖德太子攝政の時新羅征討所願の歷佛前裝飾の用に織しめしとそ其圖樣は騎馬武者の弓を手獅子を射んとするの狀なり後世稱して四天王紋錦旗と云

◎蜀紅錦裂　壹枚　傳聖德太子所用

◎廣東錦裂　壹枚

◎二曲屏風　蓮花水鳥圖　絹本著色　壹隻　傳巨勢金岡筆

◎八曲屏風十六羅漢圖　絹本着色　壹雙　傳顏輝筆

上府紺紙金泥經廿五枚白紙墨書經三十一枚貼付

◎毘沙門畫像　絹本着色　壹面　傳妹子筆

◎太子勝曼經講讃圖　仝　壹面　仝

◎太子勝曼經講讃圖　仝　壹面　傳馬子筆

◎虛堂像　紙本墨畫　壹幅　傳狩野眞咲筆

◎彌陀三尊畫像　絹本着色　壹幅

◎星曼、荼羅圖　仝　壹幅

◎聖王羅漢圖　仝　壹幅

◎唯識曼荼羅圖　仝　壹折

◎唯識曼荼羅圖　仝　壹幅

◎愛染明王畫　仝　壹幅

◎孔雀明王畫　仝　壹幅

◎彌勒菩薩畫　仝　壹幅

◎閻魔曼荼羅畫　仝　壹幅

◎大日菩薩聖德弘法畫　仝　壹幅　傳兆典司筆

◎釋迦三尊畫　仝　壹幅

◎虛空藏菩薩畫　仝　壹幅

◎金剛菩薩畫　仝　壹幅

◎釋迦十六羅漢畫　仝　壹幅

◎皇太子十六歲畫　仝　壹幅　傳顏輝筆

◎六字觀音畫　仝　壹面

◎華嚴經　紙本墨書　壹幅

◎太子傳玉林抄　仝　壹卷　八卷

◎上宮太子拾遺抄　仝　七卷

○水瓶　鍍金　三個

○釣　一　升　鍍金
○香　水　壺　鍍銀　壹個
○聖皇曼荼羅畫　絹本　壹個
○十六羅漢畫　仝　壹幀
○不動明王畫　紙本　十六幀
○聖德太子勝曼經講讃圖　絹本　壹幀
○扇　面　太子像　紙本　壹幀

◉東室　東西八間五尺五寸、南北廿一間二尺寛喜三年再建

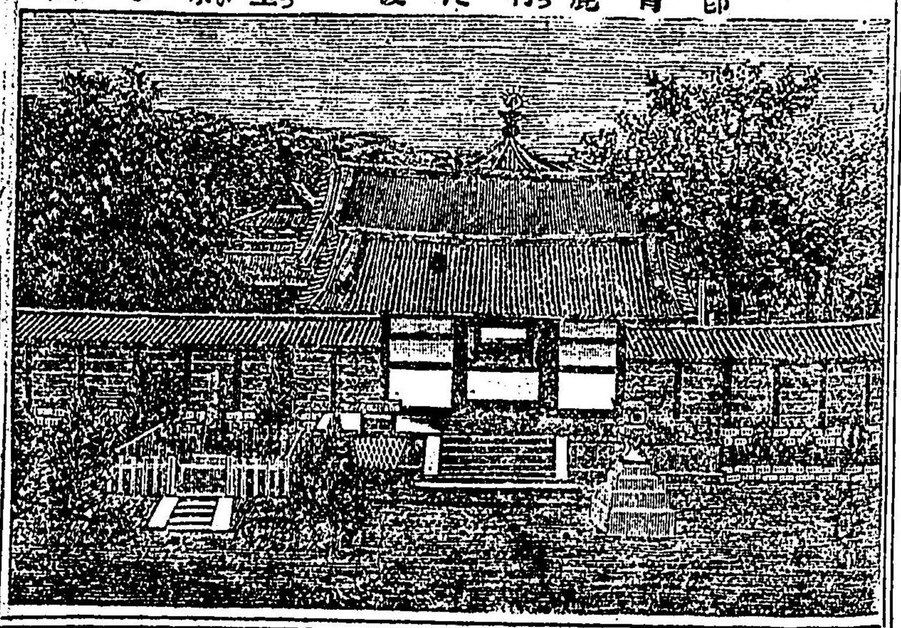
◉西室　東西八間一尺五寸、南北十九間寛喜三年再建弘長元年九月後嵯峨天皇の行在所となる

其餘浴室（承安二年再造）、三經院（嘉祿三年再興）、一切經藏（元永元年創造）、地藏堂、辨天堂、厩、護摩堂、北門、西大門、現在僧房十五院等あり

◉東大門　八脚造、桁行四間四尺六寸、梁行二間四尺九寸、推古天皇十五年創造、慶長九年修補すと云一に中の門、又東御門と稱す

◉東院　東大門の東にあり

上宮王院と號し又斑鳩寺或は鵤僧寺とも云、地は卽ち聖德太子斑鳩宮の舊址にて太子薨去の後は御子山背大兄王住ませ給ひしを皇極天皇二年十一月蘇我入鹿の爲に燒亡せり其後天平年間南都七大寺の總檢校行信大僧都此地に閑居して上宮太子聖德の舊蹟を表せんため天平十一年勅許を得て創造し上宮王院と號けらる後ち貞觀治安久安慶長の修營を經て今に至れり



◉夢殿　八角造、高三丈九尺、方九間二尺、聖堂と號し上光院又上宮王院と稱す卽ち禪室にして三昧定を修し給ひし所なり昔て入鹿の兵火に罹らざりしも山背大兄王薨去の後は漸次荒廢せしを天平十一年行信

和尚再建すと云其後貞觀治安天養仁平永萬建久寛喜文暦嘉長等の修補を歴て今に及ぶと云ふ

○堂中靈妙なるもの

◎本尊救世觀音立像　木彫金色　長六尺五寸　壹軀

◎前立正觀音立像　木彫彩色　長四尺八寸　壹軀

◎　行信僧都坐像　乾漆造　長二尺九寸　壹軀

◎　道詮律師坐像　塑造　長二尺九寸　壹軀

●武殿院　西方、桁行五間二尺、梁行四間三尺七寸、天平年間創立後ち修理す一に繪殿と稱す障子に太子の傳を繪けるか故なり又護持堂とも云此殿は太子寢殿の舊跡也と玉琳抄に見えたり

○殿中靈妙なるもの

◎本尊正觀音立像　金銅　長二尺九寸　壹軀　傳鞍作止利作夢逢觀音と云

◎聖德太子七歳坐像　塑造　長一尺二寸五分　壹軀　傳聖武天皇勅作

◎　正觀音立像　木彫金色　長三尺　壹軀

本殿の繪障子は延久元年秦致貞の筆する所にして明治十年宮內省に獻納せり今の畫は天明四年吉村法眼周圭光貞の描く所なり

●舍利殿　武殿院の東並にあり、桁行五間二尺、梁行四間三尺七寸

○殿中靈妙なるもの

◎本尊南無佛舍利　傳釋尊左眼の舍利と云　壹基

◎聖德太子二歳立像　木彫着色　長二尺二寸　銘云佛師丹靈作

相傳敏達天皇二年二月十五日聖德太子二歳の時東方に向ひ南無佛と唱へ握手を開きて舍利一粒を落し給ふ傳て釋尊左眼の舍利と云初め夢殿に安置せしを承久元年當殿に徙し爾來毎月午時に講式を行ふ今に至て尚然り、又太子二歳立像の胎內に德治二年の銘あり傳云正安年中橘寺の住僧堯願房の本願に由て久米寺の戒日上人其夢想を發開して持明院(伏見天皇)第三の皇子(花園天皇)の三歳に成らせ給ひし尊容を摸し奉り佛師丹好に命して刻ましめしとき是南無佛聚像の權與なりと云り

殿內東の障子は漢の高祖が四皓を請するの粧ひにして西の障子は周の文王渭濱に遊獵するの圖なり傳土佐光信の筆と云ふ享保年中居風に製し寶藏に收めありしを明治十年宮內省に獻納す今の畫は畫工長谷川等眞の摸寫せしものと云り

●傳法堂　武殿院の北背にあり

桁行十二間四尺六寸、梁行五間一尺九寸天平十一年建立、初め講堂と稱す後ち今の名に改め學

文所となす或は行信大僧都の學室とも云ふ

○堂中靈妙なるもの

中間

◎本尊彌陀如來坐像　乾漆造　長四尺　壹軀　傳鳥佛師作

◎脇士觀音立像　仝　長五尺二寸　壹軀

◎脇士勢至立像　仝　仝

東間

◎本尊彌陀如來坐像　仝　長三尺　壹軀

◎脇士觀音立像　仝　長三尺八寸　壹軀

◎脇士勢至立像　仝　長五尺五寸　壹軀

西間

◎本尊大日如來坐像　木彫金色　長四尺　壹軀

◎脇士觀音立像　乾漆造　長五尺五寸　壹軀

◎脇士勢至立像　仝　壹軀

◎梵天立像　木彫金色　長五尺二寸　壹軀

◎帝釋天立像　仝　仝

○四天王像　木彫若色　長各三尺　內弐軀

堂の天蓋は舊中宮寺にありしを同寺廢頽の後ち當堂に移すと云

●鐘樓堂　舍利殿の東にあり

桁行一間六尺、梁行一間三尺五寸、應保三年造立、此鐘もと中宮寺に在しを移せるにて毎日午刻七聲撞くなり因て七つ鐘と稱す卽ち舍利講式の時刻を報ずるなり

●一切經輪藏　傳法堂の乾に在り

四間四面、寺僧一源弘化三年新造す、庫內に黃檗版一切經を藏す

●禮堂　夢殿の前にあり

桁行七間六尺、梁行五間四尺三寸、貞觀年中造立、寛喜三年修造、舞樂法用所なり

●廻廊　總延長六十二間五尺八寸、幅一間五尺八寸、天平十一年造立久安二年以降屢修

理を加へ廊長の修繕を經て今に及へり歩廊は元祿年中の新造に係る

其餘南大門、四脚門、坑門等あり

▲法隆寺東院の艮

◉中宮寺　仝　村

宗旨は初め法相後ち眞言律となる舊無祿にして法隆寺の千石の内十二石を分配すと云現境四反一畝余、一名斑鳩尼寺又法興寺と云聖德太子、御母穴穗部間人皇女皇后の爲に推古天皇三年創立せらる所なり、初め幸前の莊東院の東五丁に在り官寺七所の一なり當寺の南に芦堀宮、北に岡本宮西に斑鳩宮等あり並に聖德太子の宮なり皇女の宮殿其中間なるが故に中宮と稱す後ち寺となし中宮寺と號す今の寺は天文年間の造立に係れり

○什寶中靈妙なるもの

◎天壽國曼荼羅圖　繡製　壹幀

傳推古天皇采女諸人に勅して刺繡せしめ給ふ其下絵は東漢末賢高麗加西溢、漢奴加巳利等の畫く所と云へり

◎舍利塔　鍍金　高一尺四寸　壹基

◎磬　九曜式　仝　長四寸二分　壹個

○來迎彌陀三尊畫像　繡製　壹幀　傳藕糸中將法如作

○十六羅漢畫像　絹本着色　壹幀　傳巨勢金岡筆

○皇太子十六歳畫像　仝　壹幀

◉本堂

◎本尊如意輪觀音坐像　木彫　長五尺二寸　壹軀　傳聖德太子作

◎阿閦如來坐像　木彫　長一尺六寸　壹軀

○藥師如來坐像　仝　長二尺八寸　壹軀

○皇太子二歳立像　木彫着色　長一尺七寸　壹軀

◎文殊菩薩立像　紙張着色　長一尺六寸　壹軀　傳間人皇后作

持佛間

◎阿彌陀如來立像　木彫金色　長二尺七寸　壹軀

◎阿彌陀如來坐像　仝　長二尺　壹軀

◎皇太子十六歳立像　木彫　長九寸　壹軀

◉斑鳩里　東院の地を云

▲法隆寺南大門より西南八丁許

◉龍田町　奈良元標を距る四里三町三十間西南に在り、國分街道の一驛にして舊平群郡内第一の名邑とす町村制施設以來五百井、神南、服部、稻葉車瀨、目安、小吉田の六村を龍田村に合せて町と稱す戸數七百三十九戸、人口三千五百九十三人、町は東西の一條に連り稍市街をなせり日用諸品大要備はれり

◉摂社龍田神社　龍田町大字龍田、町の中程北頰にあり

祭る所　龍田比古神　龍田比女神

境内二千九十二坪、當社は法隆寺の僧徒祭禮を行ふ古くより龍田新宮と稱せしを明治十年三月立野に坐す官幣大社龍田神社の摂社に列し十月十五日祭禮を行ふ境内に鷄多し使者と稱して町人鷄卵を食することなし

其他拜殿、祝詞舍、社務所等あり

▲龍田神社の西五丁許

◉龍田川　岸上楓樹多し、文武天皇御製によりて其名天下に著る一に平群川と稱し源は北生駒村大字俵口より出て山崎、一分、小瀨、椣原、下垣内、椿井等を經て此に至り龍田川と稱し南流して神南に至り大和川に瀉ぐ、古へに所謂龍田川は神南以西をや云ならん

▲龍田町字猫坂の西に標石あり是より西へ五十丁　玉寺停車場より三十五丁　二人曳腕車通す

◉朝護孫子寺　明治村大字信貴畑

歡喜院と號す、眞言宗、現境二千四百拾餘坪、寺は信貴山腹に在りて一名井上山と稱す翠峯層疊淵極めて深し、山麓勢野村より躋ること二十八町にして東門に至る、町毎に標石立てり緣起に云聖德太子守屋大連を攻んとする時當山に登り生身の毘沙門天王を拜し誓願して曰今我をして敵に勝つこと得せしめば茲に寺塔を建立し天王像を安置せんと乃ち勝軍の秘法と六ツ目鏑箭とを天王に授かり其箭を以て遂に守屋を亡し然る後ち伽藍を創始し曩に拜せし毘沙門天像を自ら刻して本尊となし信貴山歡喜院と號けられしとぞ、其後延喜年間醍醐天皇御惱の時當山の大德命　蓮上人に勅して祈念せしむ時に帝快癒し給ふに及で寺領二千八百町歩を寄附し坊舍一

百餘宇を建て給ひて朝廟安穩守護國土子孫長久懈怠なく祈願すべき旨詔あり故に號して朝護孫子寺と云爾後朱雀、村上、後醍醐、の三帝及皇子大塔宮には特別の御願依ありしと云元龜元正の頃松永久秀信貴城を築し時地領三千石を寄附し伽藍堂舍を修繕し又造營す天正五年秀吉と戰ひ久秀敗軍す此時兵燹に罹り灰燼す慶長年間秀賴祈願所として本堂及諸堂を再建して今に至ると云

○什寶中靈妙なるもの

◎繪　緣　起　紙本　三卷　傳畠島羽僧正覺猷筆詞行成卿筆

◎釋迦三尊十六羅漢畫像　絹本　三幀　傳兆典司筆

◎毘沙門天王畫像　仝　壹幀　傳金岡筆

○繪　緣　起　摸本　紙本　三卷　傳藍住吉內藏允筆詞參議藤保光筆

並ハ元祿十四年詞ハ享保八年に成る

○如意輪觀音畫像　絹本　壹幀

◎聖德太子十六歲立像　木彫　長三尺五寸　壹軀

○鈴　銘　一ハ松虫　一ハ鈴虫　銅　貳口　傳覺鍛上人所用

○鐵　金　鉢　在銘　壹口　傳飛鉢

●本　堂　南面、方八間、舞臺附、慶長年間再造

本尊　秘佛　毘沙門天立像　傳云木彫長三尺八寸　傳聖德太子作

東　間

○毘沙門天立像　木彫　著色　長三尺八寸　傳勤操僧都作

○勝軍自在　毘沙門天立像　仝　長八寸　傳命遵上人作

西　間

○不動明王坐像　仝　長三尺　傳弘法大師作

●護摩堂

○大日如來坐像　木彫　長三尺　傳惠心僧都作

●其餘拜堂、五重石塔、繪馬堂、大般若石塔、鎮守社、寶篋印塔、行者堂、寶藏、本坊事務所多寶塔、鐘樓、鉦鎧堂、空鉢堂、開山堂、命蓮廟及二王門、東門等あり塔頭に千手院、玉藏院、成福院、寶壽院、光明院等の五院ありいづれにても中飯又は宿泊するを得べし

◉男嶽、女嶽、堂後に雙峙す、信貴の城址は其中間にあり

◉信貴山城址　初當國の士吉川某の築く所にして元龜天正の頃松永久秀之に據り織田信長に叛きて勝たず終に火を放ちて自殺す爾後廢城となる

▲信貴山の表門を出て僅にして右に岐路あり其を東南に降るべし行程二十丁許

◉龍田神社　三郷村大字立野

社地を稱して宮の森と云、境内段別壹万二千〇五十七坪、當社は崇神天皇七年十一月の鎮坐にして式内名神大の社格なり、舊社祿三十石、今官幣大社に列す其祭る所

南殿　天御柱命　亦名志那都比古神

北殿　國御柱命　亦名志那都比賣神

並に風神と稱す卽ち空氣を主宰し給ふ神にして伊邪那岐命の御子に座坐せり、官祭は四月四日執行せらる此を風神祭と謂ふ令義解に此祭は沴風吹かず稼穡滋登らしめんと欲す故に此祭あり云云

私祭は十月十五日行ふなり

○神寶中靈妙なるもの

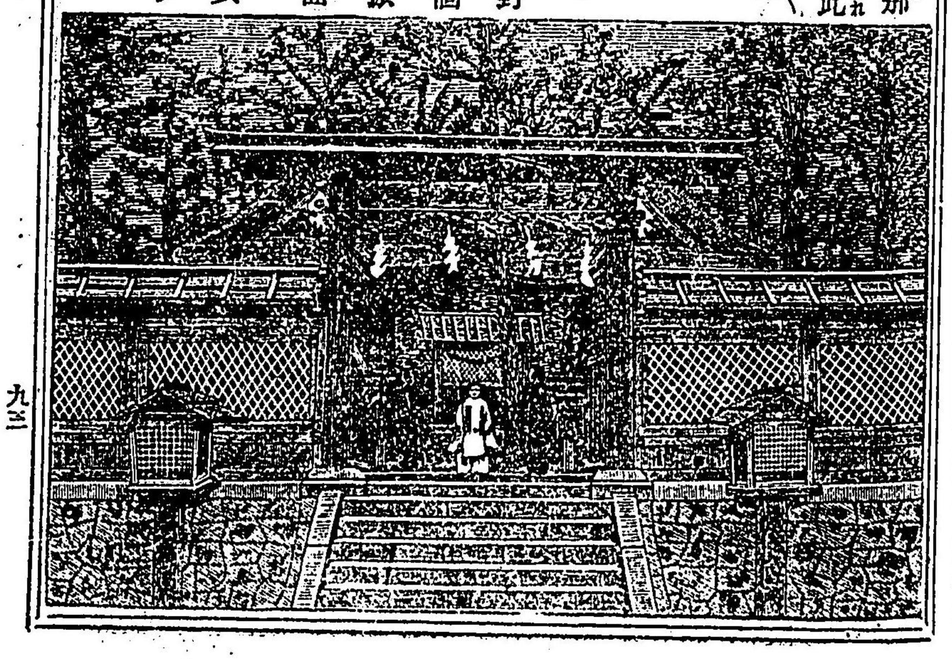
◎高麗犬　木彫　長各二寸六分　貳對

◎奚　胴（木造若色）　高五寸五分　胴廻二尺　壹個

○神代刀（鐵造金銀嵌）　身長九寸五分　壹振

○氣吹面　木造　長各七寸　貳面

瑞籬内の北方に攝社三社、南方に末社二社鎮坐す、其餘神饌所、祭器庫、社務所、神庫等拜殿の北續に連り立ち社樹蕭然として神威千木と共に高し



○北葛城郡

廣瀬葛下二郡合併改稱

◉王寺停車場　王寺村大字王寺官幣大社龍田神社より東北二十一町

當驛は大阪鐵道線路の分岐する所とす、直行は幹線にして法隆寺、郡山を經て奈良に達すべし、支線は下田、高田、畝火を歷て櫻井に抵るなり、此四ヶ驛に到らん人は當驛にて乘替るべし、大阪湊町を距る當驛まで十五哩七十八鎖、奈良へ九哩三十八鎖、櫻井へは十三哩十一鎖なりとす

◉王寺村　舊葛下郡の北部にあり町村制施設以來藤井村を合せて王寺村と稱す戸數三百五十一人口千七百八十、大阪鐵道の分岐点に當りて土地大に賑へり

▲王寺停車場より南方八丁許

◉達磨寺　王寺村大字王寺

寺は片岡山下に在り因て片岡山と號す眞言宗にして舊寺祿三百石慶長以後三十石、境内反別千八百十一坪を有す、傳云推古天皇二十一年十二月朔日聖德太子片岡を過り飢者の路傍に臥せるを憐み衣食を給して宮に歸る後日使者を遣はし之を看せしむれば飢者既に殂すと太子之を悲み

乃ち此に葬る數日の後ち太子侍臣に語て曰爰の飢者は凡人にあらず必ず眞人ならんと使を遣はし其墳を開かしむれば屍骨既に空し唯賜ふ所の衣服棺上に疊み置けり是に於て太子謂へらく彼飢者は必ず達磨大師の化身ならんと乃其衣を取らしめ自ら之を服し一寺を其跡に建て達磨寺と號し其墳を呼て達磨塚と稱す、後ち勝月上人或云解脫上人三重石塔を其墳上に造立し其古跡を表すと今寺中に在るもの此なりとぞ、初め七堂伽藍たりしが永祿丁年松永久秀の兵燹に灰燼し爾後衰頽せり

●本堂　南面、方二間、推古天皇二十一年聖德太子創建或云解脫上人草創にして南禪寺惟肖禪師中興すと云

○堂中靈妙なるもの

○本尊達磨大師坐像　木彫　長三尺　傳聖德太子作

寺内に片岡春利墓、松永久秀墓、杖竹、太子石等の古跡あり

方丈、庫裡、禪堂、行者堂、中興堂、鐘堂及諸門等皆永祿以後建立と云、舊境内東西六町、南北八町と云甚跡今尙存せり

▲達磨寺の西五丁ばかり

◉孝靈天皇片岡馬坂上陵　王寺村大字王寺

兆域周圍百三十六間三尺五寸南面、孝安天皇々子、御母押媛命、天皇御名は大日本根子彦太瓊尊黒田の盧戸宮(延式下郡宮古黒田の間字都の森)に即位し給ふ七十六年丙戌二月八日崩壽百十八

▲孝靈天皇御陵より南へ五丁許

◉武烈天皇傍丘磐坏丘北陵　志都美村大字今泉

兆域周圍四百二十一間三分、東面、仁賢天皇第一の皇子にして御母は春日大娘命、天皇御名は小泊瀬稚鷦鷯尊、泊瀬の列城宮(延式上郡山雲村)に即位し給ふ在位八年丙戌十二月八日崩壽五十七

▲武烈天皇御陵の南

◉式内志都美神社　志都美村大字今泉

當村の産土社にして、祭神一説に應神天皇、住吉神、春日神を合祀すと云ふ、境内九反三畝餘を有し、櫻花、躑躅、甚多く萩花紅葉亦好し社殿東面にして遠眺に富めり

▲志都美神社の東南六丁許

◉顯宗天皇傍丘磐坏丘南陵　下田村大字北今市

兆域周圍百四十四間七分、西面、履仲天皇々孫にして市邊押磐皇子の第二子なり御母は黄媛命天皇初御名は弘計王後の御名は袁祁之石巣別尊元年乙丑春正月近飛鳥の八釣宮(高市郡上八釣村)に即位し給ふ在位三年丁卯四月廿五日崩壽三十八

▲顯宗天皇御陵より東南八丁許

◉下田停車場　下田村大字下田

王寺停車場の南にあり相距ること四哩〇六鎖

◉下田村　下田は志都美村の南東にあり町村制施設以來隣村北今市、逢阪、五ケ所、狐井の四ケ村を下田に併せ下田村と稱す戸數三百七十八、人口二千四百八十九人を有し稍市街をなせり

▲下田停車場より南方廿五町許

◉石光寺　當麻村大字染野

一に染寺と稱す、二上山下に在り舊寺祿なし、現境二百四十六坪、緣起に云天智天皇の御世此地に彌勒三尊の形なせる放光石あり因て勅して寺を建て彌勒を安置して石光寺と號す其後中

將法如尼曼荼羅圖を感得せられし時一の化尼來りて此寺の井水にて繍糸を染なしゝより一に染寺とも云とぞ

●本堂　東面、常行堂と號す本尊金色彌陀如來坐像を安置す、彌勒堂には中將法如尼の像あり、堂前に年老たる枯木の櫻あり此は役行者が當麻寺開基の時佛法興隆の表示に植る所にして化尼の染なしゝ繍糸を此樹に懸て乾したりとかや因て糸懸櫻と稱す、染井は其東に在り茶所、僧房其北に連なれり

▲礒壁より東南九丁許、染野より北東十丁許

●腰折田　五位堂村大字良福寺

上古當麻郷と稱す、垂仁天皇の御世此邑に勇悍の士あり當麻蹶速といふ自ら强力無敵と信じ頻に暴行を逞ふし人甚之を惡む時に垂仁天皇七年七月勅して倭直祖長尾市を遣して野見宿禰を出雲國より喚し蹶速と搏力せしむ宿禰一蹶して蹶速の脇骨を折き亦其腰を蹈折て之を殺しつ、天皇宿禰の强力を感じ蹶速の地を奪て悉く宿禰に賜ふ以後其地を呼て腰折田と云是角力の濫觴なり

●二上山　當麻村の西北に在りて半ば河内に跨り雙峰相對峙す因て二上嶽また二子山とも云ふ其高き嶺を男嶽と云ひ、稍低き者を女嶽と云、其南麓に河内に出る道あり竹内越と稱す、北の小峯を銀の峯と呼ぶ山中には神社、御墓及畠山氏の城址等あり

▲石光寺より南三丁許

●中將法如尼墓　當麻村大字當麻

當麻寺北門の北二丁ばかり三重の石塔あり法如尼の墓と傳ふ傳に云法如は右大臣横佩豐成卿の女なり其父、弟惠美押勝の讒に逢ひて筑紫に流さる是に於て法如は父の罪なくして流刑に處せらるを歎き又叔父押勝が逆謀を愧ち遂に厭世の念を發して尼となりしとぞ俗書には繼母の讒に罹りて尼となると云へるは全く誣妄の說にて其母は百能と稱し性貞節なりしなり豐成卿薨去の後も猶宮中に奉仕し內侍所の神職を務めたりと云へり

▲石光寺の南五丁許　奈良を距る七里、下田（北一里、高田へ東一里、御所（東南二里を隔つ

●當麻寺　當麻村大字當麻

二上山下九子山の麓に在り二上山當麻寺と號し、舊寺祿三百石、現境一万二千四百七十六坪、此

寺初め河内の山田郷に在て萬法藏院禪林寺と號す白鳳二年歷子親王（用明天皇御子）の命を承て役小角嘗て練行せし今の地に轉徙し仝十四年伽藍落成して禪林寺と號す、時に當麻國見遷寺使たり後ち其子孫の軍功に依りて勅して當麻寺とゞ改めらる當時三論宗たりしか弘仁十四年空海留錫以來眞言に隸し後ち淨土に屬す爾後陶山二派に分れ今尙二宗を擧す

○什寶中靈妙なるもの

◎觀經曼荼羅圖　藕糸織　若色　幅一丈三尺〇三分　竪一丈二尺九寸三分　壹幀

傳云天平寶字七年六月廿三日中將法如尼感得、仁治中板面に貼付け後亦表裝掛幅となし重寶保存す

◎仝　模本　絹本　若色　幅一丈二尺六寸　竪一丈二尺三寸五分　壹幀

傳云明應四年十月廿一日より文龜三年に至り成就す絹本は阿波國浦の莊にて織成す銘文後柏原天皇宸筆、繪者法橋慶舜、法橋專慶、施主奈良住尼慶圓云云是を世に文龜曼荼羅と云ふ

◎仝　模本　絹本　若色　幅一丈三尺一寸七分　竪一丈二尺七寸三分　壹幀

鉛文鑞元天皇宸筆、緣起左大臣筆、繪者法橋良慶筆、是を眞享曼荼羅と云

◎曼荼羅厨子扉　木造　各幅六尺三寸　竪一丈一尺二寸五分　貳枚

表面黑塗螺鈿繪裏面仝上及寄附者源頼朝并家臣數千人の姓名法號等を金銀泥にて記せり

◎當麻寺繪緣起　紙本　若色　參卷

調後奈良天皇及親王公卿寄合書、畫は土佐光茂筆

◎仝　絹本　若色　貳幀

●金堂　南面桁行六間、梁行五間、正中三年卯月十六日上棟、慶應二年修造　傳役小角作

○本尊彌勒菩薩坐像　塑造　金色　長七尺一寸

◎四天王像　木彫　各長七尺一寸　仝

●講堂　南面桁行九間、梁行六間、乾元二年四月廿二日上棟

○堂中靈妙なるもの

○本尊彌陀如來坐像　木彫　金色　長七尺五寸　壹軀　傳聖德太子作

○妙幢菩薩立像　木彫　長四尺八寸　壹軀

◎彌陀如來坐像　木彫紅玻璃色　長三尺三寸五分　壹軀

●曼荼羅堂　東面桁行十一間、梁行九間創立上に仝じ

本尊　觀經曼荼羅摸本　時々交換

◎曼荼羅厨子　木造　鎌倉塗　高一丈六尺四寸　傳仁治三年五月源頼朝寄附

◎ 仝 須彌壇 木造黒漆螺鈿 高三尺三寸五分 幅三尺 徑一丈五尺四寸 仝

●其餘三層東塔方三間高さ十丈金剛界、大日如來木像安置す 三層西塔方三間高さ十丈胎藏界、大日如來木像安置す 藥師堂並に白鳳十四年、創造後ち修補す 紫雲庵中將法如尼の庵室と云ふ 糸繰堂、法華堂、大師堂、骨堂、經藏、寶藏、鐘樓四宇、及僧房諸門等斷續連を比ぶ近郷に稀なる名刹なり

●法 會 は舊四月十五十六の両日を以てす世に當麻の跡供養と稱し來遊雜沓寺門大に賑ふ

●奥の院 當麻寺の西一丁許にあり、淨土宗にして往生寺と號せり

○什寶中靈妙なるもの

◎法然上人行狀繪詞傳 紙本着色 傳詞伏見後伏見後二條三天皇畜土佐吉光筆 四十八卷

○笈 長壹尺五分 巾六寸五分 高一寸七分 壹個

黒漆梨子地蒔繪俱利伽羅明王二童及散遊菲浪等畫く

○屏風十界圖 着色 壹双 傳惠心僧都筆

○觀經曼荼羅圖 絹本着色 方一丈五尺 壹幀 仝

●大師堂、 東面桁行七間、梁行五間、應安三年造立

○堂中靈妙なるもの

○本尊圓光大師坐像 木彫 長二尺〇二分 壹軀 傳自作

傳云大師自ら骨像を彫し自ら開眼すること八十四度初め智恩院に安置す人あり骨像の面部に打釘す鮮血流出恰も肉身の如し因て血垂尊像と云後ち夢の告に依て此に安置すといふ

●丸子山 奥の院の西南に聳ゆを云ふ

●總 門 東面、傳云延享元年七月造立、二王像安置す又二王門とも云

●葛城山 舊葛上、忍海、葛下三郡の西に連亘し嶺の西は河内國に屬す、山の亘り三里二十四町と云、日本紀に神武天皇二年高尾張の邑に土蜘蛛と云者あり其身短く手足長く勇猛にして皇命に從はず爰に官軍葛の網を以て之を縛殺す是より葛城と號けしとぞ古へは金剛山をも合せて葛城と稱せり

▲當麻寺の南一里餘

●櫛羅瀑布 葛城山の一支峯、戒那山にあり、組合村大字櫛羅より西に方る山路十五丁許、一

に尼ヶ瀧と稱す、高サ五丈八尺、幅一丈八尺許翠巒四方を圍み、谿谷幽邃たり、瀧の上に安養寺址と云あり戒那千坊と稱す廢亡寂ならず瀧の三丁前に不動寺と云あり、東方の眺め絶景也

◉金剛山　舊葛下郡の西南に峙立し北は葛城山と連り西は河内國に跨る山頂に金剛山寺と云あり河内に屬す

▲櫛羅村より東南二十丁許

◉御所町・舊葛上郡の北東に位し、廣袤東西五町餘、南北三町餘、市坊四十許にして戸數九百四十六、人口四千八百四十八、下街道及下市街道の一驛にして從來繁盛の地なり、奈良へ八里、高田へ一里餘、五條へ三里半を隔つ

▲御所町東端より東三丁許

◉吉祥草寺　掖上村大字茅原

茅原山金剛壽院吉祥寺と號し俗に茅原寺と稱す、相傳舒明天皇六年役小角此地に誕生すと云寺も小角の開基にて本堂には五大尊を安置せり、寺内に笈摩杉、香精水等あり小角の遺跡と傳ふ

◉其餘阿彌陀堂、庫裡等あり

▲御所町の北一里廿二町

◉高田町　舊葛下郡に屬す郡内の都邑にして其東部にあり、町村制施設以來、山内、中井戸の二村を高田に合併して町と稱す戸數八百九十三、人口五千〇十一人大和木綿の市場と稱す、下街道の一驛にして一商小區たり、奈良を距六里餘、八木町へ一里十五町を隔つ

◉高田停車場　高田町の東端に在り、下田驛を距る三哩〇五鎖

◉畝傍停車場　八木町の西端に在り、高田驛を距る二哩七十六鎖東南に方る、櫻井驛へ正東、三哩〇四鎖なり

○高市郡

◉八木町　高市郡の北部に位し、北八木、小房の二村を此に合併し、戸數五百四十一、人口三千四百三人、大和木綿の産出地にして國内の一都邑とす、奈良を距ること六里餘なり

◉蘇武川　八木、今井の境界に在り源は畑村の山中より稻淵を經て飛鳥川と謂ひ茲に至て蘇武川と云北流して舊十市郡に入る

◉今井町　八木町の西に隣る、蘇武川を隔て相界す距離僅々四五町に過ぎず、此所も大和木綿の産出地にして機織を業とする者尤多し小網村を之に併し戸數五百八十、人口三千三百八十一、其營業上より云へば八木町に勝る者あるがごとし

▲蘇武橋より南行六丁許

◉綏靖天皇桃花鳥田丘上陵　白橿村大字四條

兆域周圍百四十六間四分、南面西表、神武天皇第三の皇子にして、御母は媛蹈鞴五十鈴姫命、天皇御名は神渟名川耳尊と申奉る元年庚辰正月葛城の高丘宮葛下郡森脇村に卽位し給ふ三十三年壬子五月十日崩壽八十四

▲綏靖天皇御陵より南へ三丁許

◉神武天皇畝傍山東北陵　白橿村大字山本

兆域周圍四百四十一間四分、南面東表、天照皇大御神五世の御孫彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊の第四の皇子にして御母玉依姫、天皇御名は神日本磐余彦尊と稱し奉る元年辛酉正月朔日白橿原宮白橿村字畝傍に卽位し給ふ七十六年丙子三月十一日崩壽百二十七、陵規宏大四邊嚴肅として知らず襟を

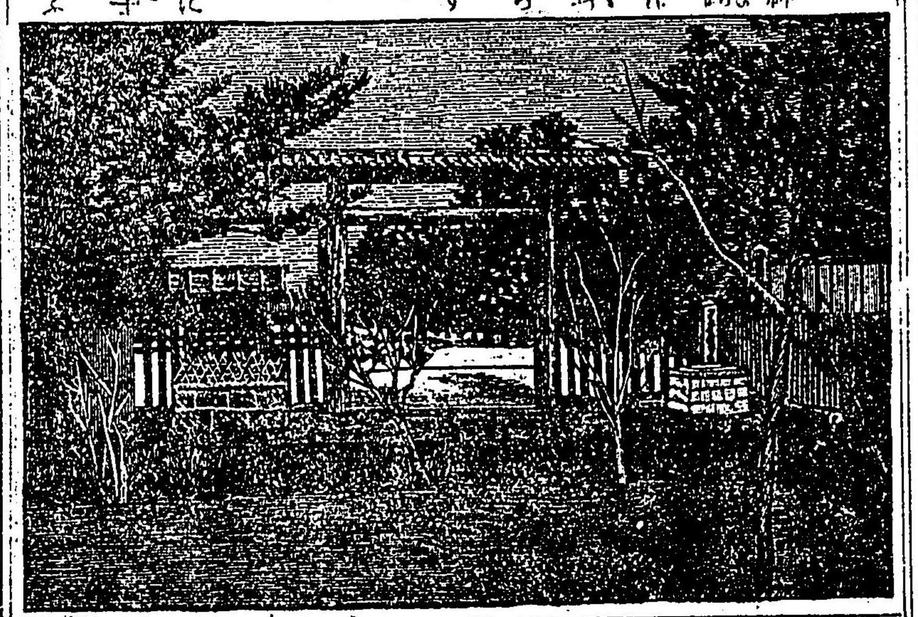
正さしむ、御陵前に勅使殿、殿舍等あり

◉三ツ山　畝傍、香久、耳成の三山を云、畝傍山は神武御陵の西南に在りて山本、大谷、慈妙寺の三村に跨り峨然孤立す高三百尺と云香久山は畝傍山の正東十五丁許舊十市郡南浦村の北方に聳ゑて山容秀媚なり、耳成山は香久山の北十五丁許、仝郡木原村の上方に峙ち孤峯森然たり三山共に他山の連なるなく田野に特立す古來三山と稱して人口に膾炙する所なり

▲神武天皇御陵より西南八丁許

◉安寧天皇畝火山西南御陰井上陵　白橿村大字吉田

兆域周圍二百九十二間二尺、東面、綏靖天皇の皇子にして御母は五十鈴依姫命、天皇御名は磯城津彦玉手看尊と申す元年癸酉片塩の浮孔宮葛下郡三倉堂村に卽位し給ふ



在位三十八年庚寅十二月六日崩壽五十七

▲神武天皇御陵より南方九丁許

◉橿原神宮　白橿村大字畝傍

白橿原宮の舊址とす、明治廿三年神宮を創設せらる

所祭　神武天皇　皇后媛蹈鞴五十鈴姫尊

神殿東面、京都宮城の内侍所を轉徙す、東西七間、南北十間周らすに透廊を以す其東西十二間南北二十八間、拜殿は京都神嘉殿の摹なりとぞ東西八間二尺、南北十三間二尺、瑞籬以て之を圍む、殿前の左右に幄舍あり其傍に櫻橘を班ち植う結構内裡に比すと云り官幣大社にして大祭は紀元節、私祭は四月二日なり、

寶庫、神饌所、祭器庫、社務所等神殿の北方に連り立ち、境域一万八千坪を有す、境外の西南は松林にして北方には畝傍山を擁し境内淨潔にして神威自ら尊し

▲橿原神宮より南方三丁許

◉久米寺　白橿村大字久米

靈禪山東塔院と號し眞言宗の根本とす、聖德太子の御弟來目皇子の祈願に依て創造し來目寺と號す後ち空海留錫して久米寺と改めしとぞ現境内三千五百四十五坪

◉本堂　南面、瑠璃殿と號す、現堂は萬治年中の再造に係る

○堂中靈妙なるもの

○本尊藥師如來坐像　木彫　長八尺　壹軀

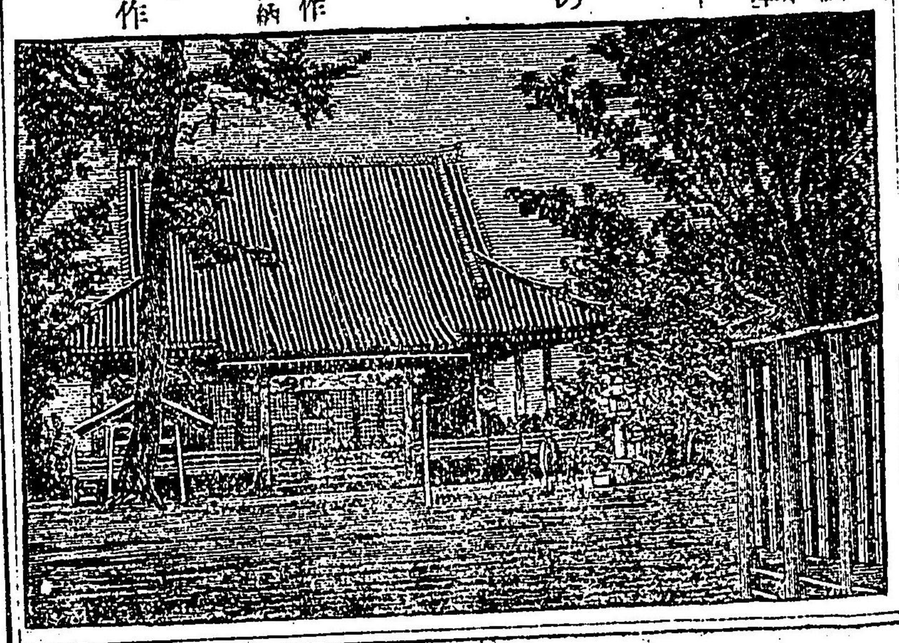
傳聖德太子作

傳云來目皇子感得長一寸一分の藥師佛を、黃金の壺に納め木尊の胸裡に納むと云ふ

○　毘沙門天立像　仝　長四尺三寸　壹軀

傳弘法大師作

◉觀音堂　西面、仙人堂とも云



○堂中靈妙なるもの

○本尊十一面觀音立像　木彫　長三尺貳寸　壹軀

○　久米仙人坐像　木彫　植髮　長四尺三寸　壹軀　傳弘法大師作

●多寶塔　高さ八尺、方六間、此塔は寛政の頃、京都仁和寺の塔を移し立と云、初め養老年中唐僧善無畏三藏來朝して當寺に留錫すること二年時に南天竺の鐵塔の半形を模し其心柱の下に佛舍利及大日經等を納めしとぞ本邦に於て多寶塔を建つること茲に始ると云

●摸益田池碑　本堂の乾方にあり、高一丈餘、幅八尺許、明治廿七年築く所なり（此池の古跡後ちに出つ）

●其餘彫堂、地藏堂、護摩堂、鐘樓等あり法會は陰曆四月八日九日の両日に行ふ是を久米寺の練供養と稱す其行法は藥師如來の下向を迎ひ奉るの裝にして元和年中に始り中頃絶ゑたりしを近來再興す又俗間に名高き久米仙人は當村の人なるが嘗て深山に入て仙法を學び一日空に騰て本村を飛び過ぐ會々婦人が足を以て衣を踏み洗ふあり仙人其脛の白きを見て通力を失ひたること元亨釋書に載す其墮落せし處を芋洗川芋洗芝など名くとかや、されど一説に其落ちしは地上にあらで仙界より人界に墮ちたるなりと云り

▲久米寺より西五丁許

◉懿德天皇畝傍山南纖沙溪上陵　白橿村大字池尻

兆域周圍二百八間南面、安寧天皇第二の皇子にして御母は皇后渟名底仲姫命天皇御名は大日本彦耜友尊と申す即位二年壬辰正月輕の曲峽宮（高市郡見瀬村）に遷都し給ふ在位三十四年甲子九月八日崩壽七十七

▲懿德天皇御陵より東南六丁許

◉宣化天皇身狹桃華鳥阪上陵　白橿村大字鳥屋

兆域周圍二百八十五間三分北面、纖體天皇第二の皇子にして御母は目子媛命、天皇御名は武小廣國押盾尊と申す元年丙辰正月檜垣の廬入野宮（高市郡）に即位し給ふ在位四年己未二月十日崩壽七十三

▲宣化天皇御陵より南三丁許

◉倭彦命身狹桃花鳥坂墓　仝　村

兆域周圍三百九十七間六分東面、崇神天皇の皇子にして御母は御間城姫と申す、命は垂仁天皇

二十八年十月薨じ給ふ翌月此に葬り近臣數輩殉死せしむ天皇聞食して悲み給ひ詔して殉死の禮を止め給ふ

▲倭彦命墓より東南六丁許　村の東端南に行く二丁餘

◉益田池碑趺石　白橿村大字南妙法寺

俗に岩船と呼ぶ高二丈、縦二丈五尺、横一丈三尺許上に両孔を鑿り中一槽と爲す碑身今亡し碑銘は空海の撰にして池は弘仁年中築く所なり其址、北は池尻を限り、南檜隈に及べり其規模の廣大なる以て見るべし

▲益田池の趺石より東南十二丁許

◉欽明天皇檜隈坂合陵　坂合村大字平田

兆域周圍四百四十六間壹尺五寸西面、機體天皇の皇子にして御母は皇后手白香姫命、天皇御名は天國押開廣庭尊と稱す元年庚申七月磯城島の金刺宮（巻式上郡金屋村西南初瀬川の南）に即位し三十二年辛卯四月十五日崩し給ふ壽六十三

▲欽明天皇御陵の西北數十步

◉吉備姫王檜隈御墓　仝村

兆域周圍凡百五十間欽明天皇の皇孫、櫻井皇子の御女茅渟王の妃にて皇極孝德二帝の御母に座坐り奇形石像四軀御墓に立り此圖好古日錄に載す何の像たるを詳にせず

▲欽明天皇御陵より東二丁許左側

◉石棺　俗に鬼の肉几と呼ぶ

▲仝所の東一丁右側

◉石棺　鬼の厠と云

▲第二の石棺より東二丁餘

◉天武天皇持統天皇檜隈大内陵　高市村大字野口

兆域周圍百十八間四分南面、天武天皇は舒明天皇第二の皇子にして御母は齊明天皇なり、天皇御名は天淳中原瀛眞人尊と稱し淨御原天皇と號し奉る天智天皇同母の御弟なり白鳳元年壬申十月飛鳥の淨見原宮（高市郡上居村）に即位し在位十五年朱鳥元年丙戌九月九日崩壽六十五、持統天皇は天智天皇第二の皇女御母は遠智娘（蘇我山田石川丸女）天皇御名は高天原廣野尊と稱す即ち天武天皇の皇后な

り去歳四月草壁皇子薨じ給ひて日嗣の皇子なし故に皇后四年庚寅正月卽位し給ひ八年甲午十二月藤原宮高市郡高殿村に遷都し給ふ在位八年大寶二年壬寅十二月十二日崩御五十八、遺詔し曰く喪葬の事は務めて儉約に從ふべしと乃ち飛鳥の岡に火葬し合葬の禮を修すと云へり

▲平田村より南東二十丁許

◉高取町　高市郡の南部に位す、町村制施設以來鄰接八ヶ村を合併して町と稱す舊高取侯の城下にして戶數五百八十四、人口三千五百五十二人なり、奈良を距ること東南八里餘

▲高取町大字土佐より山路五十丁許

◉高取城址　高取山に在り、一に鷹鞭山とも云ふ尤も要害の地なり南朝此に築きて北兵を禦げり享祿天文の頃には越智利元之に據り其後豐臣秀長本多氏をして守らしめ次に脇阪安治次に本多俊政其子政武之を襲る後ち寛永十八年に至り植村家政之に封せられ子孫相繼て明治廢藩の時に至れり

▲高取町大字淸水谷より間道東南十二丁

●不動瀑布　南法華寺總門前右に入る數歩の所にあり

●南法華寺　高取町大字壺阪

寺は壺阪山上に在り因て壺阪寺と呼ぶ傳云養老年中辨基上人勅命を奉して開基す、西國三十三所六番の札所なり眞言宗にして舊寺祿四十五石餘、現境二千五百十三坪

○什寶中靈妙なるもの

元正天皇畫像	絹本着色	壹幀
辨基上人畫像	仝	壹幀
觀音畫像	仝	壹幀
地藏畫像	仝	壹幀
涅槃畫像	仝	壹幀
仁王經	紙本墨書	二卷　跋云永祚二年云云
○瓦　鳳凰の圖	方一尺三寸厚二寸八分	壹面　傳古伽藍瓦

●本堂　南面、桁行八間、梁行六間、八角造一に禮堂と號す養老年中の創造にして永正二年及文政年間再興すと云

○堂中靈妙なるもの

○本尊千手觀音坐像　木彫　長八尺五寸　壹軀　傳辨基上人作

○　執金剛神立像　木彫　長五尺一寸　壹軀

●三層塔　方二間半、永久三年再造、大日如來を安置す

●二王門　桁行五間、梁行二間半、建立仝上、二王像は木彫にして各一丈一尺傳へて飛彈工阮作と云

●其餘禮拜堂、阿彌陀堂、鐘樓二宇、金比羅堂、辨財天堂、納札所、茶所等あり、法會は舊正月十八日、三月十八日、七月十日、七月十七日、十八日、八月十八日、十二月九日等に擧行す、此日賽人來集して寺門繁昌す

▲南法華寺本堂より南東に登ること六丁許

●五百羅漢　香高山の半服にあり

壺阪寺の奥院と稱す、されど別に堂宇あるにあらず山腹處々に起伏せる怪巖に就て佛菩薩及五百羅漢或は太古神人の貌なせる者數十百體を浮彫にするあり是なり鑿痕遒健にして古色靄然たり又山腹を北に降る數十歩の處に二箇の大石直立するあり是には両界曼荼羅を彫鐫す並に何人の造作なるか詳ならねど寺記には眞興上人の經營なりとあり一奇觀なり

▲奥院より大道に出で左に取りて降るべし

●壺阪街道　此道は明治廿四年の開拓にして高取町大字滿水谷より吉野郡大淀村大字六田といふに達すこれを壺阪越と稱す、腕車通す

▲壺阪寺より街道を降ること十五丁許

●安薩瀧　梓橋の傍にあり山より落つ、高さ丈餘、一見暑を洗ふに足る、左は高取官林にて杉樹翠鬱幽谷邃深たり

▲アンサンの瀧より道に沿て行く東南三十丁許

○吉野郡

●比曾寺　大淀村大字比曾

傳云用明天皇の御世蘇我馬子聖德太子と謀り創建する所にして、靈鷲山現光寺と號し又吉野寺とも云、曹洞宗にして舊寺祿なく現境千三百四十六坪なり、本堂は南面にて太子堂と號す明治

十四年燒失せり

●行者堂　東面、桁行四間、梁行四間半、弘安二年再造に係る

○堂中靈妙なるもの

◎本尊釋迦如來坐像　木彫　長四尺　壹軀　傳百濟御太作

◎脇士十一面觀音立像　仝　長一丈七尺　壹軀　仝

◎　彌陀如來坐像　木彫金色　長八寸　壹軀　傳佛師春日作

木彫釋迦像は傳云欽明天皇十四年五月河内國茅渟の海上に漂る所の樟木を以て百濟の歸化人池邊直氷田に勅して造らしめし本邦造佛の濫觴なりと云り比ひ罕なる靈像なり

●其餘文殊堂、古鐘樓、庫裡、中門廻廊、總門及東西二基の塔址、聖德太子手植櫻、吉野藏王權現出現所、行者腰倚石等の古跡あり又堂後に雅なる小山あり靈鷲山とす、是れ山號の起る所にして今中尾山と云へり、法會は陰曆二月廿二日に行ふ是を太子會式と稱す

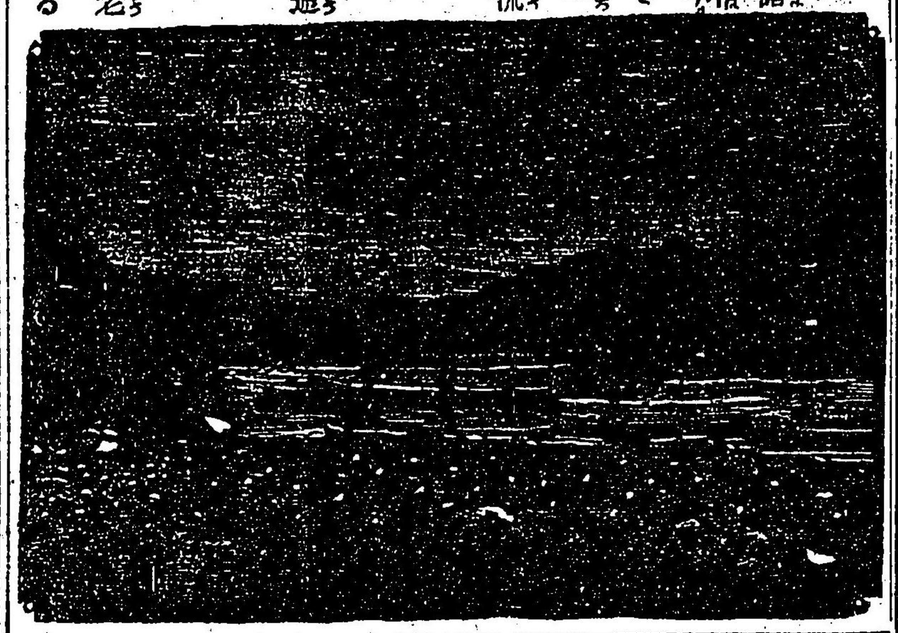
▲比曾寺より南行十丁許

◎六田渡　大淀村大字北六田

北六田は吉野川の北岸にあり對岸の風景得も言はれず

▲直ちに吉野山に登らんには渡を渉るべし

◎吉野川　源は伯母が嶽、大壺が原山より、起り諸水谷流して入波、伯母ケ谷、大瀧、東川を經て遊副川と曰ひ菜摘に至り菜摘川と曰ひ飯貝、上市を經流して吉野川と云ひ六田の淀と云ふ、匯流蒲列、白沙碧石一辨知すべし、此渡を六田の渡又柳の渡とも云、西流下市を經て宇智郡にそゝぐ



○宇智郡

▲北六田より吉野川に沿ふて行く西南三里半腕車通ず

◎榮山寺　宇智村大字小島

音無川の北岸にあり傳云役小角開始せる所にして養老三年元正天皇の勅を奉じて藤原武智麿の建立せらる

所なり宗旨は古義眞言にして舊寺祿なく慶長已後免租地あり、現境四反五畝六歩、

○什寶中靈妙なるもの

◎武智麻呂畫像　絹本著色　壹幅　傳巨勢公望筆

●本堂　南面、方四間三尺、建築年代詳ならず、本尊藥師如來、脇士日光、月光及十二神將等安置す

●八角堂　南正面、一方面一間五尺、天平年中武智麻の子右大臣豐成創造の儘今に傳ふと云

○堂中靈妙なるもの

◎本尊大日如來坐像　木彫　長一丈三尺　壹軀

●鐘堂

◎梵鐘　高五尺　徑三尺　壹口　傳小野道風筆

（傳云此鐘は山城國深草の道澄寺にありしを此に移すと云へり）

●其餘阿彌陀堂、大日堂、鎮守社、七層石塔婆等あり又川に臨みて二三の臺榭あり歌人墨客茲に遊ぶ、眺望尤よし

▲榮山寺本堂より七丁許

●武智麻墳墓　寺の背ろ小島官林にあり

今の碑石は天保年中の再興に係る古碑の殘片此寺に藏す天平年月の文字あり古雅愛すべし

●音無川　榮山寺の前にあり

吉野川の流此所に至りて三四丁の間一帶の綠を蹙し水靜にして淵凝なるより此名あり

▲榮山寺の西三四丁

●宇智川　一名宇野川と云、源は高天山より小和、住川、三在、宇野等を經て音無川の下流に入る

▲榮山寺の西十八丁

●五條町　宇智郡の中央に位す、國内第三の都會にして廣袤東西十二町、南北四丁、市坊三十七、

戸數一千四百二十三、人口七千〇十三人、宇智郡役所、警察署、五條區裁判所等の設あり下街道及紀伊、伊勢間街道の衝に當れり、當町以南は概ね此地に來りて時用を辨せり奈良を距ること十一里十四町、下淵へ三里紀伊國橋本へは三里を隔つ

▲五條町の東三里

◉下淵　大淀村大字下淵

一小商區なり五條上市間の街道に當りて往來尤繁し

▲大字下淵の南端

◉千石橋　吉野川に架る橋の北は下淵、南は下市町とす、橋は鐵造にして長さ百間、國内第一の大橋と稱す吉野川五十里の長流に唯此橋一つあるのみ

◉下市町　千石橋南詰（五條へ三里半、六田へ一里、奈良へ十一里）

下市町は吉野郡の北部に位し吉野川の南岸に在り、町村制施設以來鄰接十ケ村を合併して町と稱す、戸數一千三百八十九、人口七千八百〇一人、郡内第一の都邑とす、是より吉野山に登るの道はあれども行路嶮惡なれば六田より行くを宜しとす

▲千石橋より南四丁　下市町字本町

◉鮎屋彌助の庭園

平維盛の隱家として世に知らるゝ所なり現住宅田彌助と云ふ庭園は怪石巉岩もて四層に築く階を登り曲折迂回して庭頂に達す其尤賞觀すべきは崑石の奇怪にして最下殊に宜とす庭上には姿見の井、櫟太の梅、黑髮塚、若葉社、平家塚、維盛塚等の遺蹟あり花木多く四時佳趣ありて又遠望に富めり、家傳に云文治年中三位中將平維盛卿は八島の戰に敗れ逃れて熊野に潛行せんとする時鮎屋彌助と變名し途次舊臣宅田を此地に訪ひ此家に潛匿するや久し則此庭園を經始すと云其後熊野に入らんとするに臨み髮を削り之を庭中に瘞む黑髮塚是なり爾來年を經る七百餘年系統連綿として今に至り尚釣瓶鮨、鮎煎餅を商ふて業とせり而て慶長九年始て香魚一鮨を朝庭に獻じ爾來年々奉獻の命を賜ひ德川幕府を始め諸侯も亦之に傚ひて進獻を例とせり今獻鮨の例全く廢せらる、文久三年天誅組の兵燹に罹りたれども庭園は昔なからに其形を存せり

▲千石橋南詰東行一里餘

◉六田　吉野村大字六田

吉野川の南岸に在り川を隔て北六田と相對す、此所に渡舟あり急流を横貫して對岸北六田に渡す此を柳の渡と云卽ち六田の渡是なり、此六田より吉野山に登るを本道とし表通と稱す

◉一之阪　大字六田の東に在り

嶮路峻阪を曲折す是を七曲と稱す、立石五丁の處に至れば路漸く緩なり是より櫻樹路傍に並列し歌人詩客をして胸裏愈多忙ならしむるなり

▲一之阪より石標十五丁目

◉吉野宮　吉野村大字吉野山

明治廿五年の創設にして官幣中社に列し境域反別三千五百六十九坪大祭は九月廿七日擧行せらる

本殿　東面

所祭　後醍醐天皇

攝社御影社　本殿の右側にあり

所祭　贈從二位藤原資朝　贈從三位藤原俊基

仝　船岡社　本殿の左側にあり

贈從四位兒島範長　贈正四位兒島高德　贈正五位櫻山茲俊

仝　瀧櫻社　船岡社の次にあり

贈正四位土居通增　贈正四位得能通綱

●其餘拜殿、社務所、繪馬殿、神饌所、勅使殿、寶庫等あり

◉長峯の櫻　七曲より三十餘丁の間を稱す櫻の名所なり、

◉村上義光忠烈の碑　石標二十八丁目にあり

天明三年冬十月高取內藤景文子武立の銘文在り墓は上方の嵐山にあり是なるべし

◉嵐山　義光忠烈の碑の後山を云ふ

◉覺太閤の松山の茶亭は此山にありしと云ふ

◉口の千本　石標三十丁目より下瞰す溪間を峯谷と呼ぶ滿目櫻樹にして所謂一目千本是なり、是より二丁行けば右に降る道あり是を裏通とす

因云裏通は上市町より櫻の渡を渉り飯貝、丹治を經て阪路を辿ち四手掛社を右に拜して左に

登れば七曲に至る此より口の千本を仰ぎ覩るを日本が花と稱す、是より纔か上れば表通の三十二丁目に出づ

●一の橋　石標三十三丁目、亦大橋とも云欄干に豐臣秀頼再修の銘あり

●隱れ松　大橋の傍に在り、花の頃には櫻に覆はれ見ざる故名くといへり

●關屋の櫻　黒門前の櫻を總稱す、昔此邊に關所ありしより此稱ありとぞ

●吉野山　吉野の町の入口に黒門あり是より人家列れり、町は金峯山の尾上に在り南西に迂曲して十餘町に亘る、戸數三百八十餘あり表は平屋にして裏は崖造三階なり店より直ちに奥座敷に通れば則三階の上に至るなり、旅舍にて言へば三階は客室、其下二階は家人の居處にて竈厨のある所、最下は土間にて雜物置場とす、常の屋敷は下より上に昇るべく、こゝのは上より下に降るものとす

▲黒門より一丁許

●銅鳥居　金峯神社の一鳥居是なり高さ二丈五尺、廻一丈一尺と云

▲銅鳥居より二丁餘

●二王門　金峯山寺の總門とす、北面にして高さ五丈二尺、東西七間、南北四間、傳云康正元年再造し天正十九年修補す、二王像は運慶湛慶の作と傳ふ

金峰山寺は大峯山上山下の伽藍僧房の總號にして役小角の開基する所なり、宗旨は眞言天台の二派にして寺領二千三百三十石、初め僧坊百ヶ院ありしが中頃兵亂を經、維新に至りて三十六坊、社僧二院、神職二家存しありしとぞ、其學頭の居る所を金輪王寺と云、後醍醐天皇當寺を以て行在所となし給ひし以來金輪寺御所又黒木御所と稱したりしが元弘の兵燹に罹りし後ち再建して又正平の災に遇ひて遂に廢頽せり

●藏王堂　吉野町中央最高の處に在り

金峯山寺の本堂是なり、南面、高さ十一丈二尺、方十八間、康正元年再造、慶長十九年豐臣秀吉修覆すと云、壯嚴華麗なる大堂なり、本尊は木彫金剛藏王大權現立像にて三軀あり一は二丈六尺一は二丈四尺一は二丈二尺なり

○堂中靈妙なるもの

◎釋迦如來立像　木彫　長九尺五寸　共　壹軀　傳舊世尊寺本尊

○阿難迦葉立像　木彫　長各五尺　武驅
傳舊世尊寺脇士

○什寶中靈妙なるもの

◎千手千眼觀音畫　絹本着色　壹幀　傳兆典司筆

◎三嶽曼荼羅畫　仝　壹幀　傳金岡筆

◎藥師十六善神畫　仝　壹幀　傳顏輝筆

◎役小角畫像　仝　壹幀　傳土佐光信筆

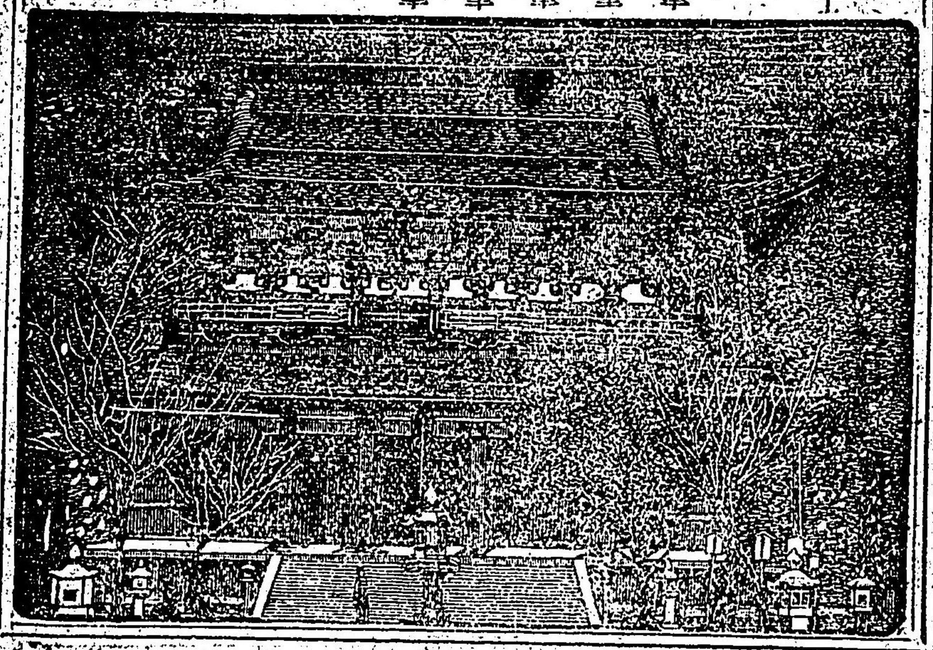
◎觀音畫像　仝　壹幀　傳兆典司筆

○青磁花瓶　數口

○滅金經　匣三壹個

◎四本櫻　本堂の前に在り
護良親王舞樂を奏せしめ給ひし所と云

◎威德天神社　仝所



傳天慶四年日藏上人勸請

◎南門址　本堂の正面にあり
村上義隆の戰死せし所と云へり

◎其餘觀音堂、經堂、鐘樓等あり

▲藏王堂の乾二丁許

◎寶城寺址
金輪寺御所を摸すと云南朝三帝五十餘年間の行在所卽是なり

▲藏王堂の南東三丁許

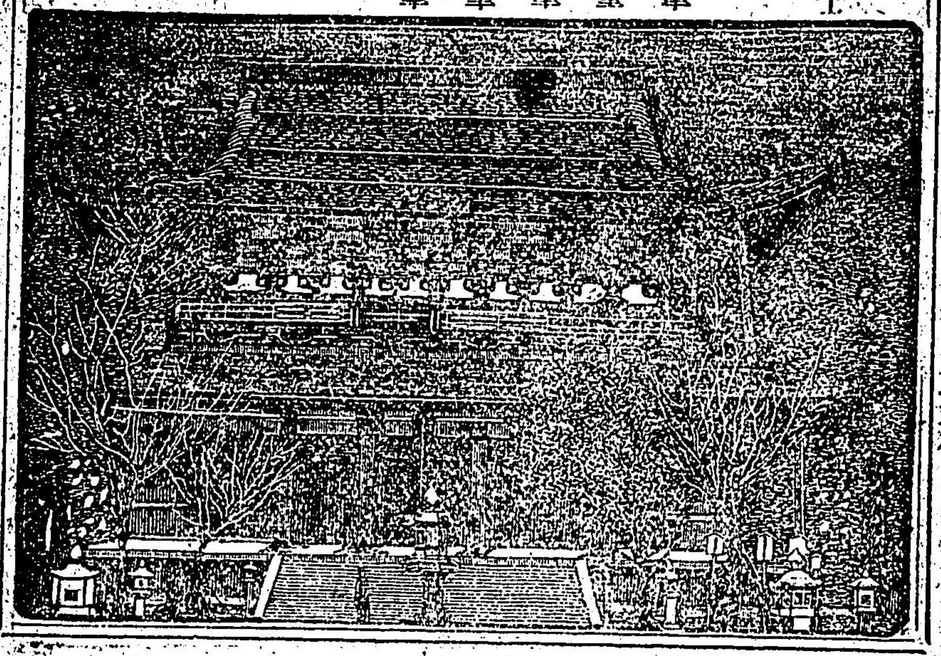
◎吉水神社
舊吉水院と云ひしを明治八年吉水神社と改稱す、祭る所
後醍醐天皇　楠正成卿

境域七百八十坪、祭典は舊八月十六日之を行ふ、客殿には義經潛居の間及辨慶思案の間と云あり、玉座は畏くも後醍醐、後村上、長慶、後龜山四帝のおはしまし、所と云り聞もかしこき御

○阿難迦葉立像　木彫　長各五尺　貳軀
傳舊世尊寺脇士

○什寶中靈妙なるもの

◎千手千眼觀音畫（朝本着色）　壹幀　傳兆典司筆
◎三嶽曼荼羅畫　仝　壹幀　傳金岡筆
◎藥師十六善神畫　仝　壹幀　傳顏輝筆
◎役小角畫像　仝　壹幀　傳土佐光信筆
◎觀音畫像　仝　壹幀　傳兆典司筆
○青磁花瓶　數口
○滅金經　匣二壹個
◎四本櫻　本堂の前に在り
護良親王舞樂を奏せしめ給ひし所と云
◎威德天神社　仝所



傳天慶四年日藏上人勸請

◎南門址　本堂の正面にあり
村上義隆の戰死せし所と云へり

●其餘觀音堂、經堂、鐘樓等あり

▲藏王堂の乾二丁許

◎實城寺址
金輪寺御所を摸すと云南朝三帝五十餘年間の行在所卽是なり

▲藏王堂の南東三丁許

◎吉水神社
舊吉水院と云ひしを明治八年吉水神社と改稱す、祭る所
後醍醐天皇　楠正成卿

境域七百八十坪、祭典は舊八月十六日之を行ふ、客殿には義經潛居の間及辨慶思案の間と云あり、玉座は畏くも後醍醐、後村上、長慶、後龜山四帝のおはしまし、所と云り聞もかしこき御

事にこそ、次の間は寶物展覽室なり

○神寶中靈妙なるもの

○經筒　紺紙金泥經巻在中　銅鍍金造　壹箇

寛弘四年秋八月左大臣正二位藤原朝臣道長道俗若干人を率ひて金峯山に上り手自ら經文十五卷を書寫し之を銅筒に納て金峯山に埋め其上に金銅燈籠立てしこと經筒に銘文あり

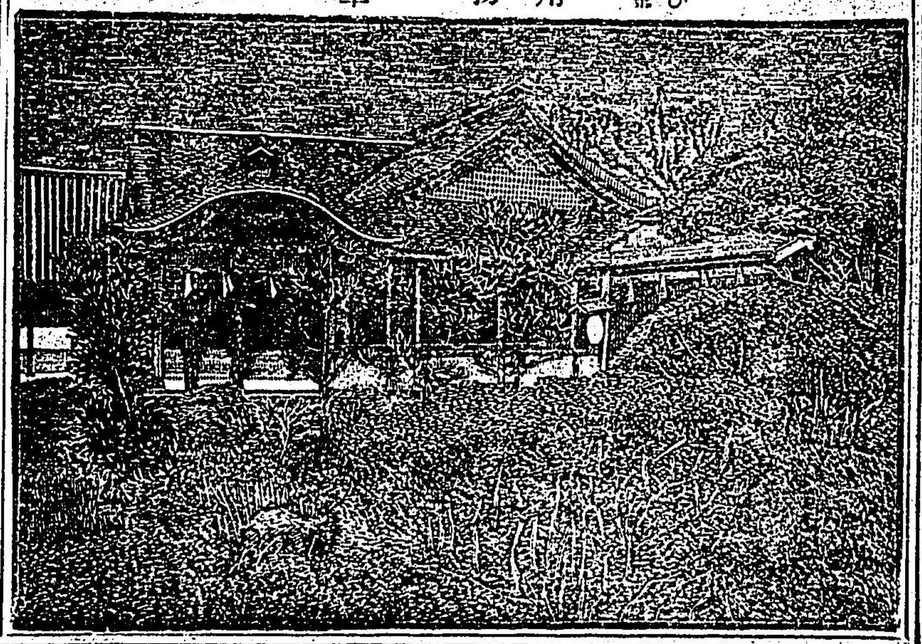
○箭筒　梨子地蒔絵　木造　壹個　傳楠公所用

○文臺　竹造　壹脚　傳後醍醐帝御物

○硯筥　仝　壹個　仝

○祈御文　紙本　壹幀　傳仝帝宸筆

○十一面觀音畫像　絹本著色　壹幀



◎其餘鐘樓、招魂社及篠竹、駒繋松等の古跡あり庭園には花木奇石多し

▲吉水神社の南二丁許

◎山口神社　舊吉野八大神祠の一にして勝手明神と稱せしを維新の際佐抛神社を合併して今の名に改めしとぞ一説には天忍穂耳命、此華咲耶姫命を合祀すとも云へり今の社殿は正保年中炎上後の再建に係ると云、嘗て開く靜御前山僧に捕はれ勝手神事の爲に法樂を奏して山僧の心を蕩かし義經等君臣十二騎をして安く逃れしめけると云へるは此神前なりといへり

◎袖振山　勝手神社の後山を云ふ

相傳ふ天武天皇吉野の行宮にふはしましける時神女此山に降臨して舞ひ遊びしとぞ是れ五節の舞の起りなりとかや

▲山口神社より南六丁許

◎村上義隆墓　村上藏人義光の男にして大塔宮の輩臣たり

▲山口神社より左に行く七丁許、沿道櫻樹多し

◎如意輪寺

當寺は延喜年中日藏上人の開基にして塔尾山棒花院と號し南朝の勅願所と云へり、眞言宗にして現境反別六百三十坪許

○什寶中靈妙なるもの

◎佛龕扉 吉野八大神の圖 仮面 著色 巾一尺 壓三尺五寸 四枚 傳金岡筆

◎來迎廿五菩薩畫 絹本 著色 貳幀 傳惠心僧都筆

○文殊普賢畫 仝 貳幀 傳兆典司筆

●本堂 西面、如意輪寺と號す假建の儘

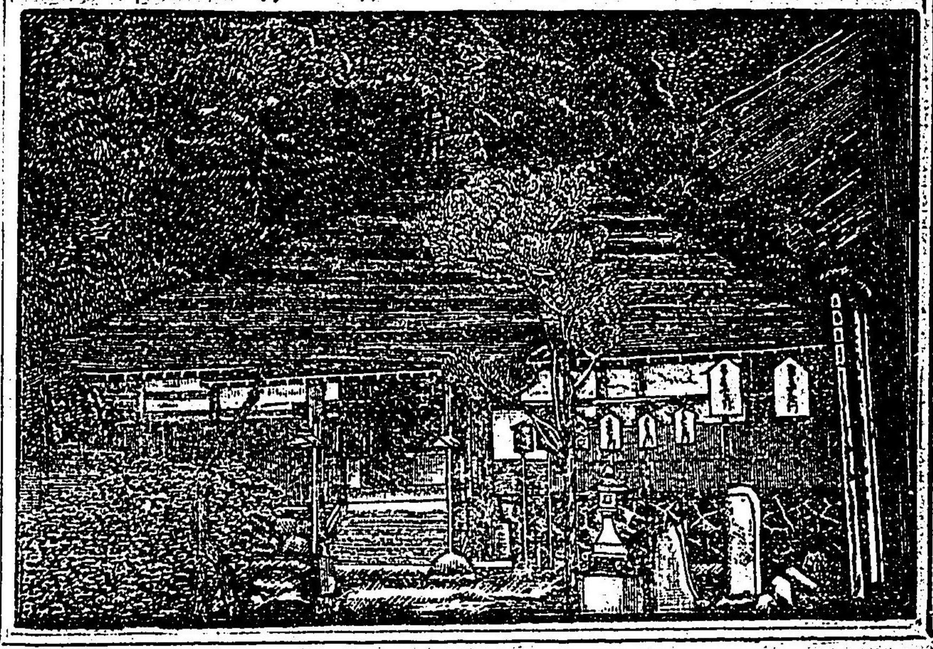
○堂中靈妙なるもの

◎本尊如意輪觀音坐像 木彫 金色 長三尺壹軀 傳安阿彌作

◎彌陀如來立像 木彫 長三尺二寸 壹軀 傳聖德太子作

●藤本鐵石先生招魂之碑 堂前に在り

天忠組の總裁たり、文久三年九月鷲家口に戰死す、碑文は越後村上善の撰に係る



●正行公埋髻塚 堂の右傍に在り

碑銘は芳山司職逸堂の撰せる所なり

●楠左衛門尉髻塚碑 埋髻塚に並ぶ

拙齋森田益の撰とあり

●後醍醐天皇塔尾陵 堂後塔尾山に在り

兆域周圍百二十五間一分、北面、後宇多天皇第二の皇子にして御母は談天門院、天皇御名は尊治尊と稱す元應元年卽位 建武元年復位在位二十一年延元四年八月十六日吉野行宮に崩す壽五十二

●世泰親王墓 御陵の西に並ぶ

後龜山天皇皇子にして當寺に住し給ふ因て茲に葬る

●如意輪塔址 庫裡の北に在り

正平二年十二月 楠正行如意輪塔に詣て髻を截て佛殿に納め一族百四十三人の姓名を過去帳に題し箭鏃以て塔扉に、かゝらじとの辭世歌を彫附られしは當塔なりと云り塔扉は庫に藏せり

●至情塚　庫裡の左傍に在り
辨内侍の塚と云、庫裡は明治廿五年の新築に係り境内幽境にして櫻樹躑躅多し

▲山口神社の後ろ左に行く三丁許

◉井光井古跡　藪林の中に在り傍に老杉二三あり、此は神武天皇吉野に至りましゝ時井の中より出づる人あり光りて尾あり天皇問ひ曰く汝は何人ぞと對へ曰く臣は是國つ神、名は井光と申しき乃勅して鄕導せしめ給ふ此則吉野首部が始祖なり

▲山口神社の南三丁餘

◉竹林院　庭園は小堀遠州侯の築く所にして尤奇巧を盡せり、緋櫻垂枝櫻は名高し阜丘あり遠矚佳景なり花の頃には雅俗此に遊べり

◉椿谷椿山寺址　庭の岡より南に見ゆ、日藏上人の住房なりとぞ

▲吉野町南の端　竹林院より一丁餘

◉天王橋　此邊の櫻を天王櫻と云り、是より路岐る左道は後に云べし右に上るを天王阪と云、上り盡せば又峻しき阪あり、これを猿曳阪と云猿をも曳もて登るの意なりといへり道の左に後醍醐天皇御休所と云あり此眞向に夢遊觀音堂の址と云あり天王橋より此所まで八丁許

◉中千本　猿曳坂の上より東谷を望むを云
に櫻樹の多きこと殆んど口の千本に仝じ、此花を觀んには此八丁の嶮坂を登らざるべからず故多くは歩を口の千本に停めて此に徙すもの罕なりと云り

◉禪定寺址　猿曳坂の上にあり、此邊を獅子尾坂と云

◉大將軍社址　獅子尾坂の森中に在り此上に辻堂の址あり

◉中院谷　辻堂の西を云
山僧横川覺範を討たる所と云り首塚と云もあり

◉花櫓　辻堂より少し上の方を云
佐藤忠信が義經の爲に防戰せし所と云り

◉龍返し　花櫓の上を云
義經の潛伏所と云り其隱れ岩を山伏隱とも云

◉布引櫻　獅子尾坂の櫻を云ふ

白布を引ける如く見ゆるより名つくなるべし

◉瀧櫻　獅子尾坂の左谷を俯瞰るを云、谷は水分神社の崖の下なり

◉雲井櫻　猿曳坂の邊より獅子尾坂を仰望るを云

▲獅子尾坂の上の岡

◉鷲尾山世尊寺址　堂舍既に廢して鐘堂一宇存す梵鐘銘に云金峯山寺洪鐘保延六年十二月播磨守平朝臣忠盛施入熟銅、七年辛酉鑄造云云又寛元甲辰修補の文字あり口經四尺三分厚四寸三分

▲世尊寺より二丁許

◉吉野水分神社　鎮坐の地を水分山と云、花櫓の上方に在り、藏王堂より行程十八丁許、初め子守明神と稱す吉野八大神祠の一にて俗に勝手社を父神とし此社を母神とす、今の社殿は慶長九年豐臣秀頼の再建に係れり、桁行十三間、梁行半間 尤 壯美なり現境反別一千餘坪なり

正殿　天水分神　　左殿御子神

右殿正面　少彦名命　　左殿正面　玉依姫命

右殿　天忍穂耳命

右殿　瓊々杵命　　左殿　拷幡千々姫命

神樂所、幣殿、社務所等一棟に連り立てり社邊山谷にして幽靜なり、

◉高算堂址　水分神社より三丁許、花供懺法の祖師堂と云り

◉牛頭天王社址　高算堂址の少し上に字に殘れり八大神祠の一なり

◉高城山　水分神社の左方の山なり、一名躑躅が岡俗に城山とも云大塔宮の據り給ひし城址なりと傳ふ

◉宮瀧はるかの谷　高城山の麓を云ふ敵の襲ひ來りし所なりと云り

▲水分神社より昇り五丁餘、吉野町銅鳥居より五十丁

◉金峯神社　金峯山に鎮坐す

社殿方三間、式内名神大の社にて金峯神社と稱す又金精明神と云ふ卽ち此山を司しめす神にして吉野八大神祠の第一にましませり金御嵩の號此社に起れり、社地凡千坪、社殿は山の高所にあり老杉鬱葱として凄涼の氣を帶べり、社邊社務所と繪馬舍あるのみにて民家一もあるなし

▲金峯神社の左を降る五十歩

◉蹴抜塔　形ち殆ど多寶塔に似たり、方二間許、大峯詣での行場にして樓上に梵鐘あり其下に行者の像を安置す建築年代詳ならず相傳ふ源義經敵に追はれて此塔内に隱れたるを山僧に探し出されし時塔の屋根を蹴放ちて宮瀧の方に逃げ去りける是より蹴抜の塔と云とかや

▲金峯神社の右四丁許

◉苔清水　杉檜翳蔚たる細道を行き又嶮岨なる山間を降る所に在り蘚苔嵒を封じて流水尤清し傍に天然石の標立てり西行法師の古跡として人の知る所なれど足迹此に及ぼすもの殆ど稀なるがごとし

▲苔清水より一丁餘

◉西行庵址　假庵あり近年吉野芳雲社の建つる所と云、當時は如何にやありけん法師其人にてこそ名も知られ別に訪ふべき雅境にてもあらじかし

◉奥の千本　西行庵の後山を云、櫻尤多し

◉方面堂址　苔清水の前右に登る二丁許に在り

◉飯高山安禪寺址　方面堂址より左に繞る三丁餘、吉野奥院と稱せり

◉青根が峯　安禪寺の後山を云

一名青折が嶽、又青峯とも云とど萬葉集に「三芳野の青根が峯の蘿むしろ雖かおりけん經緯なしに」

◉奥の院茶屋　安禪寺址より二丁ばかりに在り

愛染の茶屋とも云、山口神社より行程五十丁と云へり、茶店の東三丁に岐路あり女人結界の石標立つ右は山上大峯道、左は瀧廻道なり（瀧廻道は清明が滝を云へるなるべし瀧は西河村にあり是より一里と云猶遠し）此茶店より金峯神社を經て天王橋に戻るべし

▲天王橋より左に折て行く十八丁許

◉櫻木神社　國樔村大字喜佐谷、路傍の小社是なり

◉象の小川　櫻木神社の前を流るゝ小溪を云源は青根が嶺より出て吉野川に注ぐ

續古今集　權大僧都憲實

見る夢の面影までや浮ふらむ象の小川の有明の月

◉外象橋　象の小川に架る又假寢橋とも云

夫木集

橋の名を猶うたゝ寐と聞く人のゆくは夢路かうつゝなからに　慧慶法師

▲櫻木神社より五丁許

◉菜摘川　國樔村大字菜摘

又夏箕川とも書けり吉野川の上流なるなり

◉柴橋　菜摘川に架るを云

長さ三間許名高き柴橋なり

◉宮瀧　柴橋の架る所を云

川の幅半丁餘もありぬべし怪岩奇石川に塞がる其眞中に巨嵓の對峙するあり高さ各一丈五六尺其下深潭をなす深さ丈餘濶さ三間許流水碧をなして砂石鮎魚一々辨すべし宮瀧是なり三四月の頃村人岩頭より潭に投じて戲技をなして旅人を娛ましむ是を瀧飛と云ふ

▲清明が瀧、和田、柏木の窟廻りをせざる人は是より上市を尋ぬ行くべし路程二里餘

▲宮瀧の東南三十五丁許

◉五社嶺　國樔村

嶺に式内川上鹿塩神社鎮坐す蓋嶺の名此社に起れるなるべし

▲五社嶺に岐路あり右に降るべし

◉清明が瀧　川上村大字西河

峭壁斷崖より直下す、濶さ三丈、高さ十六丈、形狀湍聲蟬に似たるものあるより蟬の瀧と呼びなしゝを後に清明とは言ひしなるべし又蜻蛉と云ひ蜻螟と云共に誤りなりといべり、瀧の上に二丈許の岩淵あり水清くして深し瀧は卽此水の溢れ落つるなり里人此石頭より躍て淵に投ず是を岩飛と云

◉音無川　清明が瀧の下流を云

此川上半月は上の瀨に水なくして下半月は下の瀨に水なしと云へり上より流れ來る水は自然川底に浸み入りつゝ下にて湧き出で流れ行くなりと云へり此事既に止みけるか今は里人だに絶て知るものなし

▲清明が瀧より東南六丁餘

◉大瀧　川上村大字大瀧

此瀧は斷崖より落つるにはあらで川水の巖に觸れて奔激するを云なり流水折て曲りて碎け揚かる白波の景色面白しとも怕ろし傍に巉嵒の峻峙たるあり其奇景名狀すべからず川は吉野川の上流にして筏は此急流を下すなり此を以て難となす

▲大瀧より熊野新道を行く一里許

◉官幣大社丹生川上神社　上社　川上村大字迫

所祭　高　龗の神

此社は舊丹生鎮坐の一社として齋き祀られぬ此神は山城國愛宕郡官幣中社貴船神社と同じき水神罔象女神にまし〳〵て雨を祈り霽を止め給ふ神にて伊弉冊尊の御子にましませり、明治廿九年十一月四日官幣大社に列せり祭典は六月一日十月八日行ふ、境域反別二千百十四坪九合なり

▲大瀧より南方四里許

◉柏木村　川上村大字柏木

窟屋巡りをせんには此村にて案内を備ふべし此地山上參の通路にして旅舍の設あり

▲柏木村より六町許

◉聖禪窟　字山津谷に在り

正善の窟とも云窟口北に面し、深さ六間許、窟に名所あり役行者の事を說けり

▲聖禪窟より嶮路北東三丁許

◉不動窟　字栃山に在り

窟口高さ二間、巾三間、奥行百間餘一の門、二の門より三の門をくゞりて穴漸く狹く不動阪、胎内窟に至て愈窄く路滑にして點滴あり冷かなること氷の如し轉んとすること屢なり身を傴て降る五六歩にして飛泉あり不動の瀧と稱し以て窟に名く瀧の高さ凡二丈、巾一間許、其源を窮むること能はず下流吉野川に潛通すと云阪を下りて丸木橋あり瀧の下流にて三途川と云又危岩を攀ち登りて奥院に達せり

◉聖天窟　不動の窟の直下にて吉野川の岸にあり危險入ること得ずと云へり

▲不動窟の北六丁許、熊野新道の傍

◉菊の窟　字ミヤケ山に在り

窟口高五尺、巾四尺、深さ凡三丈、底の廣さ凡十間許、岩壁に菊の形ちなせるあり因て名く（以上三窟柏木村に屬す）

▲菊の窟より北十五丁許

◉水晶岩窟　川上村大字北和田字イヤ谷に在り

窟口廂の如く巨嵓突出す巾一間餘、高八尺、奥行二百五十餘歩、名所として説明するもの廿一ヶ所あり皆行者に因縁せざるはなし其水晶所と云へる所に結晶石の如きもの處々にあり窟中冷氣尤甚し

▲北和田より十丁許

◉金剛寺　川上村大字神野谷

眞言宗の中本山にして中寺と稱し妹背山と號す本尊抛地藏尊と云を安置す

●自天王墓　寺内にあり

碑は明治十五年二月建つ題額は　彰仁親王御染筆、碑文は東久世通禧公の撰に係る、王御名は尊秀、自天王と稱し一に北山宮又萬壽寺宮とも申す、後龜山天皇の曾孫たり、王幼にして伊勢に在し、禍を逃て民と伍し給ふ後ち大和北山の莊龍泉寺に徙り神璽を擁護し給ふこと茲に十有五年時に長祿元年十二月二日赤松滿祐の遺臣中村貞友上月滿吉等の賊手に罹て斃去し給ふ乃ち此に葬り謚て高福院と曰ふといふ、里人、王の鎧を近郷廿三ヶ村に分ち守護し毎歳二月五日又十二月二日祭典の際各村より茲に持寄り鎧を組立て〻祭典を行ふと云へり

▲北和田村より元の道に戻るへし

▲宮瀧より西北二里餘

◉河原屋村　龍門村大字河原屋

吉野川の東岸に在り、上市町の南に接續し相距ること僅に五丁許

◉式内大名持神社　大字河原屋

妹山に鎮坐す鄕社にして近里二十一村の産土神とす社前に潮生淵と云あり毎歳陰暦六月晦日潮水湧出づ因て名くと云り

◉妹山、背山吉野川を挾んで両岸に相對峙す妹山は河原屋にあり背山は飯貝に在ると云、双峯特

立蒼翠森然として遠望に可なり、袖中抄大名寄に妹背山紀州にありと吉野川の下流なる紀伊の川中にある兄山を指て妹背山と誤られしより俗に吉野の背山は流れて紀州に漂着すと云ひ傳ふれとも紀州の兄山は古今の歌にあはず吉野の妹背山は古今の歌によくかなへり續後拾遺行家の歌によりても此所にある妹背山を是とすへしと貝原翁云り

古今集

なかれては妹背の山のなかにおつるよしの〻川のよしや世中

續後拾遺　行家

なかれてもうきせな見せそ吉野なる妹背の山の中河の水

▲河原屋の西五丁

◉上市町　隣接立野村を合せ町と稱す、戸數四百七十七、人口二千三百七十六、商戸鱗次市街を成せり、奈良を距ること十二里南方にあり

◉櫻の渡　上市町

吉野山に登らんには此渡を渉り飯貝、丹治の二村を經て幣掛社を右に拜して七曲阪に到り山谷の櫻を仰ぎ覩るを日本が花と云卽ち口の千本なるなり此道を裏通と云ふ僅か登れば表通の三十二丁目に出づ行程一里、路稍嶮なり

▲上市町より談山神社へは嶮路三里健脚にあらねば能はず但し駕の便あり又平路を往かんとせば櫻井町に廻るべし此里程六里餘

▲上市町大字立野より東北に登る二十五丁

◉式内久斯神社　龍門村大字志賀

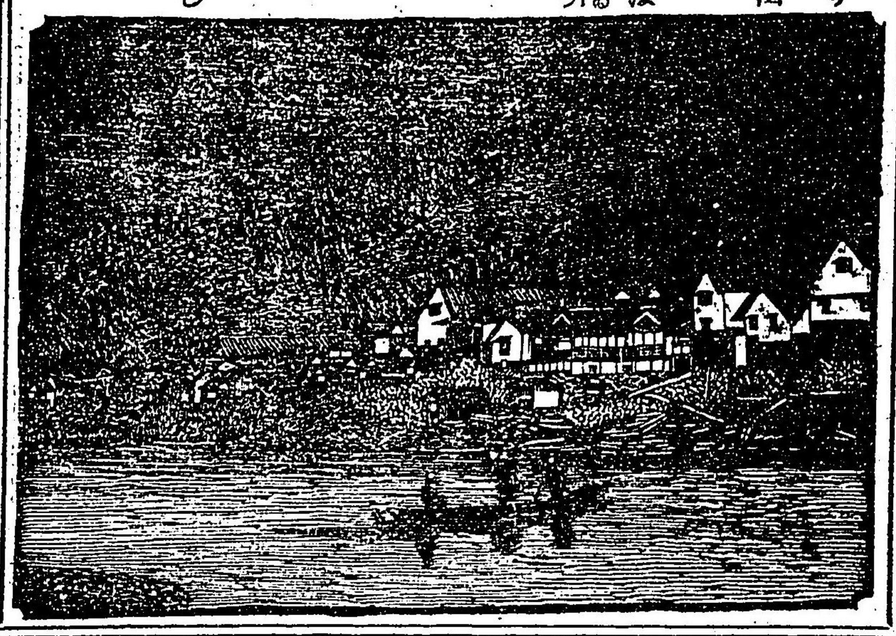
▲久斯神社より北六丁許

◉男瀧　仝村大字瀧畑字宮の上

高さ九間、巾一間、三面峭壁を以て圍む幽境愛すべし

▲男瀧より北六丁許

◉女瀧　仝村



谷川の流れなり高さ一間餘

◉龍在嶺　龍門村大字瀧畑

吉野より多武峯に越ゑ行かんには必此路よりす、麓より十八丁にして頂に達すべし嶺に旅舍あり倚て憩ふべし眼を放てば諸山脚下に繞り南方吉野を望むべく相距ること二里ばかり風景尤よし歩を徙して北東に遶れば西に金剛、葛城、二上の連峯を眼下に視、右に行く二丁許にして岐路あり右は新道左は舊道なり道を右に取り鹿路、飯盛山の諸村を經て屋形橋談山神社表門前に出づ行程一里八丁

▲前の舊道を行く舊名四軒茶屋の西

◉良助親王冬野墓　高市郡高市村大字冬野

兆域周圍七十二間五分、東面、龜山天皇々子にして御母は三條局左中將實平女親王御名は良助、青蓮院宮と申す

▲龍在嶺の新道より北方一里八丁

◉談山神社　舊十市郡多武峯村大字多武峯

談山の半腹に鎮坐す、別格官幣社にして舊社祿三千石、現境一万五千三百餘坪、當社の莊嚴華麗なるは其比を縣下に見ざる所にして世に西の日光と稱す關西に在ては其魁たるものなり

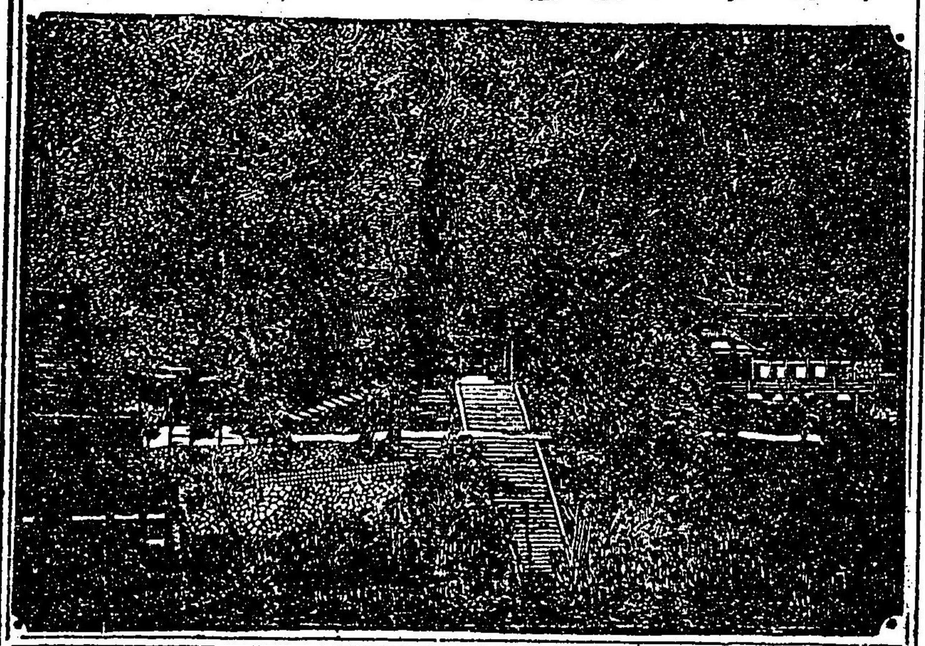
●神殿　南面、高十六尺九寸五分、方三丈、檜皮葺内白木外朱塗極彩色、大寶元年鎌足公の長子定慧和尚の創造に係り嘉永三年まで改造十三回に及へり

所祭　大織冠内大臣藤原朝臣鎌足公

公は孝德齊明天智の三朝に歷事し入鹿を討ち朝廷を資け國家を安んず後には冠階を改制し禮儀の規を定む公の功績皆人の知る所なり

●神寶中靈妙なるもの

◎繪　緣起　絹本着色　四卷　畫土佐光茂筆　詞一條兼良



◎鎌足（定惠淡海）畫像　壹幀　傳小野篁筆
◎楊柳觀音畫像　壹幀　傳張思恭筆
◎大寶廣博樓閣善住秘密陀羅尼經　壹卷　傳九條師輔筆
三十六歌仙扁額　板面　卅六枚　傳狩野永徳筆
○繪　緣　起　貳卷　（播磨住吉如慶具慶詞二條光平卿）
○不　動　畫　一幀
○愛　染　畫　一幀
○聖德太子繪傳　四幀
○九　鈷　杵　銅長　壹口　傳定惠所有

●拜殿　千鳥唐破風四棟造朱塗高二十三尺、桁行九丈五尺、梁行二丈二尺、疊八十八疊を敷く所謂千疊敷是なり神寶展列所此にあり

●十三層塔　樓門の西に在り

神廟と號す高サ四十三尺五寸、方十尺、紅柄塗、檜皮葺、此塔は定慧和尚唐土に在て父鎌足の訃音に接し清涼山なる寶池院の塔を摸し其材を舶載して歸朝し白鳳七年創造す、本邦に於て十三層塔を建つること此に始れり、治承元年再造し嘉永三年修理を加ふ

●其餘樓門、透廊、攝社、末社、拜殿、倉庫、社務所、諸門等都て三十餘宇正殿の左右上下に連り立つ又紅葉洞（二鳥居より石階を上る右側）菴羅樹（楼門前に在り定慧唐土より窃し歸る）華殿（瀧屋形橋の傍石標四十六丁目右側）等あり社地は北に談峯を負て閑寂幽邃加ふるに滿山櫻楓多くして春秋の眺めに富めり、吉野に遊ばん人此地を歴て初瀬に至るを常とす故に此地を稱して吉野初瀬の花の中宿とは云ふなり

◎談山　談山神社鎮坐の山を云

田身嶺、大殯、談峯、多牟、談武、多武等に作り五臺山或は龍岳とも云ふ、皇極天皇四年六月入鹿及父蝦夷を誅せんとする時藤原鎌足中大兄皇子（即天智天皇）と此山にて謀議せられしより談山といふと云り

▲談山神社の北六丁餘

◎鎌足公墓　談山の後山字高嶽に在り

一に御破裂山と稱す古來天下に事變あらんとする時墓山鳴動し神像破裂すること數回あり其都

度勅使登山して宣命を誦せば必ず復故すと云、公は初め攝津國島下郡阿威山に葬れるを長子定慧歸朝後弟不比等と謀り白鳳七年十一月茲に改葬せらる

▲鎌足公墓の南百歩許

◉藤原不比等公墳　十三層石塔婆是なりとぞ、永仁六年建る所にして峯の塔と稱す、公の冥福を薦するなりと云り

▲談山神社より直ちに長谷寺へ行かんとせば家形橋に戻り八井内、百市、下居、倉橋、下村等を經て櫻井町に出、外山、金谷、黒崎等を經て初瀬町に達す、行程三里餘

○高市郡

▲談山神社西門の西十八丁許

◉式内氣都和既神社　高市郡高市村大字上

▲大字上の西二十五丁許

◉石舞臺　岡村の南三丁許にあり

田の中に大なる岩あり是なり内部の長さ凡四間、幅二間許里人呼て石舞臺と云蓋古墳なるべし

▲石舞臺より大字岡に至るべし岡の北八丁談山神社より大字岡に至る峰路五十丁

◉岡寺　仝村大字岡

寺は山腰にあり東光山龍蓋寺と號す天智天皇の御願、義淵僧正の開基にして岡寺と稱す西國第七番の順禮所とす宗旨は眞言にて舊寺祿五十石、現境

●本堂　南面、再造時代未だ詳ならず

○堂中靈妙なるもの

○本尊如意輪觀音坐像　埴造　長一丈六尺　壹軀　傳弘法大師作

●開山堂　仝上

○堂中靈妙なるもの

◎義淵僧正坐像　乾漆造　長三尺五寸　壹軀　傳自作

◎釋迦涅槃像　木彫　長六尺　壹軀　傳弘法大師作

○什寶中靈妙なるもの

◎如意輪觀音坐像　像關背光　檜金　長九寸五分　壹軀　傳稽首作

○瓦　天女像浮模様　方一尺三寸二分　厚二寸　傳岡本宮殿腰瓦

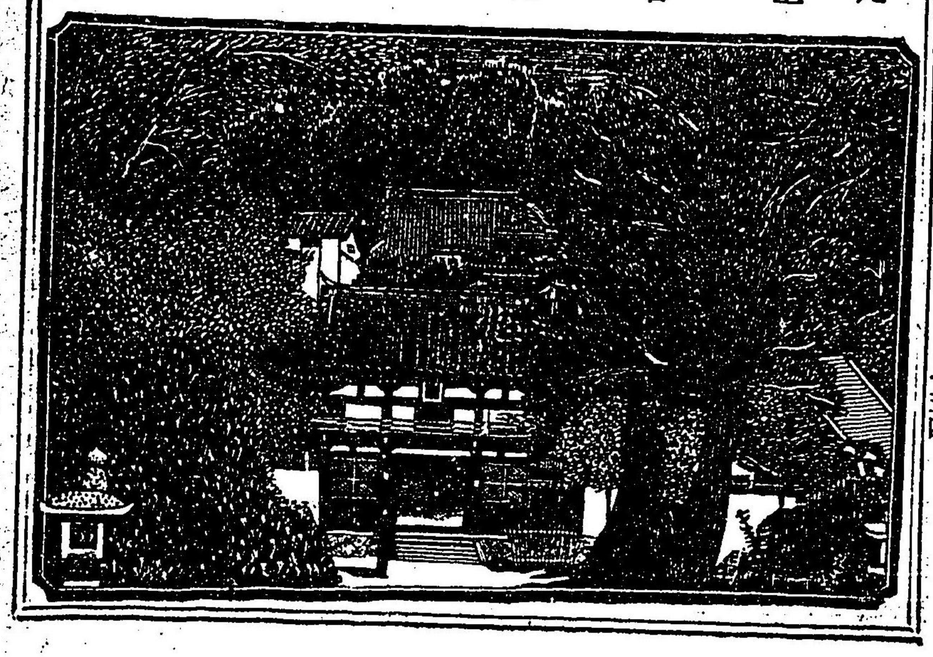
●樓門堂　方一間半、古佛を安置す、傳云天智天皇の岡本の宮門を拜領して天皇の二年に移し立と云り

●庫　裡　南面、桁行九間半、梁行六間半、傳天智天皇二年創立の儘

●二王門　西面、桁行四間四尺、梁行二間一尺、傳仝上、二王の木像を安置す

●其餘鐘樓、護摩堂、歡喜天堂、役小角堂、茶所及三十三所の觀音、龍蓋池、八大龍王社、納札所等あり又奥の院本堂の東に瑠璃井と云あり天智天皇の御舊跡と稱す、佛足石、毘沙門天堂、稲荷社、彌勒窟等あり域内閑靜にして西方眺めよし

▲岡寺西門の西



◎治田神社　式内の社にて今八幡と稱し當村の產土社とす

▲岡寺の西南拾丁餘

●橘寺　高市郡高市村大字橘

寺は赤部山（一名安倍島山）の北に在り、佛頭山上宮王院菩提寺と號す、推古天皇十四年聖德太子の創造にして當時の境内東西八町、南北六町にして六十六宇の殿堂僧舍甍を比べし伽藍なりしが漸次衰頽して今僅に千六百貳拾餘坪の境内となれり、舊無祿にて宗旨は天台を奉ず

●金堂　東面、太子殿と號す、再興後屢修補を加ふ

○堂中靈妙なるもの

◎本尊（聖德太子三十六歳）立像　木彫　長六尺　壹軀　傳御自作

●仝上拜殿

◎日羅上人立像　木彫　長五尺　壹軀　傳聖德太子作

●觀音堂　北面方五間、造立年月詳ならず、安永、又慶應年間に修理す

○堂中靈妙なるもの

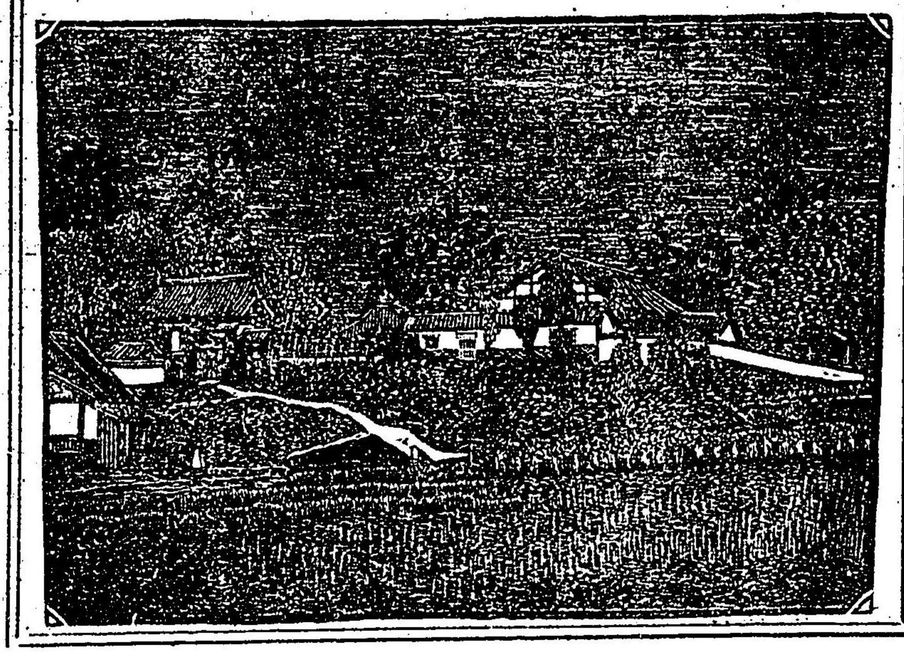
◎本尊如意輪觀音立像　木彫　長五尺　壹軀
傳聖德太子作

○什寶中靈妙なるもの

◎聖德太子一代繪傳　絹本　八幅　傳土佐光信筆
若色

●其餘護摩堂、經堂、鐘樓及東西二門等存す

●畝割塚　金堂前の敷石方六間あり、是れ田畝の制三百六十坪を一畝と定めし畝割の十分一を象たる者と云へり此下に太子勝曼經講讃の際雨り降りし蓮華を埋む因て亦蓮華塚とも云とぞ、○石燈籠は寺傳に燈籠の基本と稱す所謂橘形是なり、○二面石は金堂の右側に在り善惡業果を表すと云、○右近の橘左近の櫻、幷に西門前にあり、橘は垂仁天皇の御世、田道間守を常世國海外に遣して求めしめ給ひし橘なりと云へり、其橘を植しより地名となれりとぞ、櫻は推古天皇の植しめ給ふ所と云へり、○墨染櫻、三光石、丸字の池等あり、○佛頭山は金堂の南にあり太子勝曼經講讃の時千佛の面貌現はれしこと碑文に勒せり



▲大字岡に戻り北行十五丁餘

●飛鳥寺　飛鳥村大字飛鳥

村の北端に草堂と鐘樓の殘れるあり、鳥形山安居院と號す本尊は丈六釋迦の銅像にて飛鳥大佛と稱す聖德太子の建立に係る所謂元興寺是なり靈龜二年平城の左京今の奈良市に遷されてより爾後廢頽して今の如く僅に存れるなり

▲飛鳥寺より西一丁許

●古墳　田の畔に石塔婆立てり高さ五尺三寸呼て入鹿首塚と云

▲飛鳥寺の南三丁餘

●飛鳥神社　仝村鳥形山に鎮坐す
式內名神大の御社にて俗に元伊勢と稱す

正殿　四坐　事代主神　高照比賣神　建御名方神　下照姫命
中社　二坐　素盞烏尊　大巳貴神
奥社　二坐　天照皇大御神　豐受大神

域内大社小社都て八十六社座坐せり境内は七百九十六坪と聞けり

▲飛鳥神社の南三丁餘

◉酒槽石　字酒谷山にあり

一石あり高さ三尺五寸、平面長一丈三尺七寸、幅六尺、形ち楕圓を爲す其平面に三箇の溜を彫り七條の溝を刻す傳云往昔神酒を沃濯たる所と云へり猶繹ぬへし

▲飛鳥神社より東南二丁餘

◉荒墳　仝村大字小原

相傳藤原氏祖の古墳と云り、形ち岡村の石舞臺と同さが如し

▲荒墳の東北數十步

◉鎌足公第址　仝村

大織冠誕生所舊跡と勒せる石標立てり内に二社鎮坐す、其祭る所を知らず、社後に井あり里人傳て產湯の井と云ふ、藤原の御井の清水と云にやあらん

▲阿部の文殊へは是より北東壹里許

▲元の道に戻るべし

◉飛鳥川　飛鳥、豐浦二村境を流る

源は畑村の山中より稻淵を經て祝戸に至り細川と合し岡、飛鳥、四分等を經て今井に至り蘇武川といふ

▲飛鳥川の西二丁餘

◉向原寺　飛鳥村大字豐浦

一に廣嚴寺又豐浦寺とも云欽明天皇十三年十月百濟の聖明王金銅釋迦の佛像一軀幷に幡蓋若干經論若干卷を獻ず天皇乃ち群臣に宣問し曰く禮すべしや否やと大臣蘇我稻目奏して曰西蕃の諸國一に皆之に禮す日本豈獨背かんや大連物部尾輿及中臣鎌子同じく奏して曰我國家の天下に王たるは恒に天神地祇を祭拜するを事と爲す方今改て蕃神を拜せば恐くは國神の怒を致

さんと天皇曰卿が言爾り然ども聖明の貢捨つ可らず誰か斯神を奉ぜんや稲目稽首して請ふ乃ち之を賜ふ稲目大に喜て之を小墾田の家に安置し遂に向原の家を捨して寺となす是寺院の權輿なり此寺は現在の家を以て寺と稱ずるのみと云り今僅に草堂存す

◉難波堀江　今向原寺の門前の小池を其古跡と稱す、されど舊記には豐浦寺の東飛鳥川の西入江に在とあり猶尋ぬべし、欽明天皇十三年の條に今歳天下大に疫す時に尾輿、鎌子等奏して曰昔日臣曹の奏を須ひ給はず故に災疫ありと是に於て詔して佛像を難波の堀江に流し弃て向原寺を燒き亡さしひ

◉味橿岡　向原寺の東南にあり

允恭天皇四年秋九月詔して姓氏の混亂を正さんと欲し釜を味橿の丘に据ゑ内外の百官を會し神に盟ひ熱湯を探りて其眞僞を正さしむ是に於て姓氏自から定りて復詐人なきに至れり是湯起請の濫觴とす又皇極天皇三年蘇我入鹿家を甘樫の丘に雙起すと卽此地なり

◉甘樫坐神社　味橿の丘に鎮坐す

式内神社にして祭る所は推古天皇と云ひ、或は蘇我入鹿とも云猶さだかならず

◉雷の丘　飛鳥川の東端にありと云

雄略天皇の御世一日霹靂震動す天皇乃小子部連𧑚輕に勅して雷を捕獲し來らしむ𧑚輕勅を奉し乃ち汗馬に鞭ち阿部の山田（奇十市郡の地名）より雷聲を追て曰鳴雷神よ勅詔なるぞと大聲に叱咤す時に鳴雷神恐れて豐浦寺と飯岡（高市郡の地名）との間に落つ乃ち捉て天皇に奉る其雷の落たる地を雷の丘と曰ふ數年を經て𧑚輕卒す輙ち墓を此丘に造る其碑に勒して曰く取レ雷𧑚輕之墓也と彼雷忿りて其墓上に墮つ、碑柱折けて雷其間に挾り復た動くこと能はず是に於て又勅して碑を立て更に銘して「生之死之捕レ雷𧑚輕之墓」と、事は靈異記に載す其地は卽ち此雷村にはあれども里人其古跡を知るものなし

○磯城郡（式上式下十市三郡合併改稱）

▲雷村より北行十三丁

◉天香久山　舊十市郡香久山村大字南浦

所謂三つ山の一にして高凡二百尺、山巔に天香久山神社鎮坐ず左は國常立神、右は高竈神、是より二丁下に攝社上之御前神社あり伊弉諾命を祭る又半丁西南に下之御前神社あり此には伊弉

冊命記をれり

◎天香山坐櫛眞命神社　香久山の北麓にあり式内の神社なり

◎香具山離宮　天櫛眞命神社の傍に行宮の泉と云あり持統天皇離宮の地是なるべし

◎天之磐戸神社　南浦村の竹林に在り

大日靈貴尊を祭る卽ち天照大神の亦御名なり

▲南浦村の西二丁

◎啼澤杜　仝村大字木本

杜に畝尾都多本神社坐せり啼澤女神を祭れり、此は伊弉諾命の御子にて水の神にましませり

▲南浦村の東十八丁

◎稚櫻宮址　安倍村大字池內

村內に社あり天滿宮の額を掲ぐ是其宮址にて神功皇后、履仲天皇の皇居なるべし

▲池內村の東北三十町許

◎文殊院　安倍村大字阿部

寺は安倍山腹に在て阿部山崇敬寺知足院と號す大化元年釋道昭の開基にして保延中遲覺上人中興する所たり、眞言宗にて舊寺祿五石と外に免除地あり現境千七百七十坪

○什寶中靈妙なるもの

◎大般若經　紙本墨書　第五百八十一の卷　壹卷　傳天平十三年高史千島筆

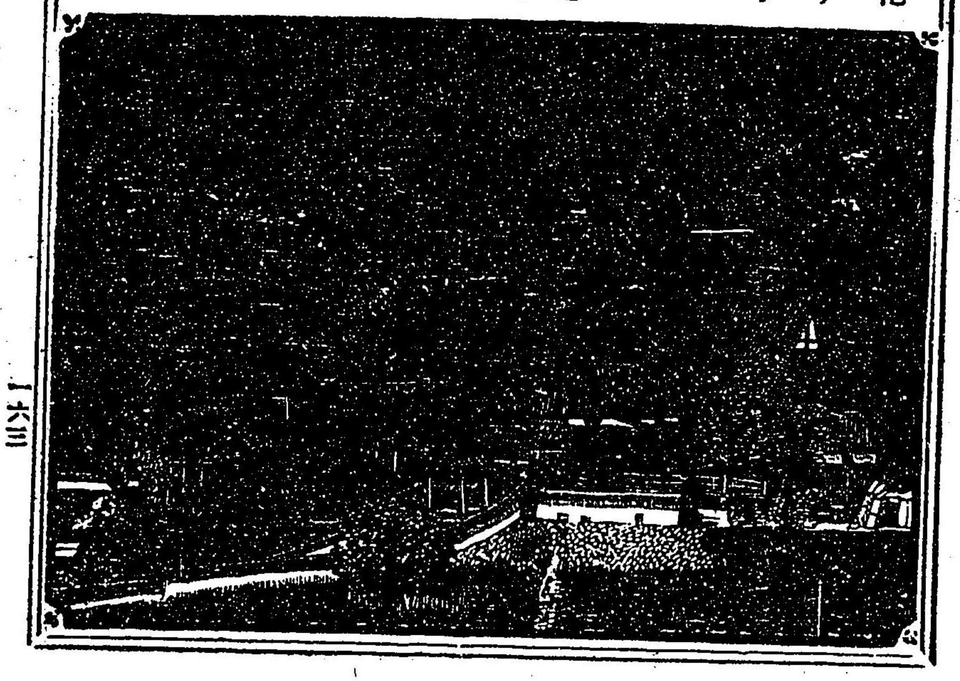
●本堂　方七間、舞臺附、桁行四間半、梁行八間

建築年代不詳

○堂中靈妙なるもの

◎本尊文殊菩薩坐像　木彫金色　長九尺八寸　壹軀　傳安阿彌作

◎優塡王立像　木彫著色　長七尺三寸　壹軀　仝



◎ 佛陀利三藏立像　木彫若色　長五尺九寸　壹軀　傳安阿彌作

◎ 善哉童子立像　仝　長四尺二寸　壹軀　仝

傳云本尊の額上に黄金の文殊佛を奉安すと、此本尊は陸奥の永井、丹後の切戸と共に本邦の三文殊と稱す靈驗感應ありて信徒の崇敬する所なり

●大日堂　南面方三間、大化元年創立の儘或云延寶六年再造安政六年修造

○堂中靈妙なるもの

◎本尊大日如來坐像　木彫　長三尺　壹軀

●地藏堂　東面、方六間、高欄附、極彩色、本尊白檜木地藏尊立像を安置す此堂は明治十年多武峯より轉徙せるなり

●石窟　本堂の左り山際に在り

高さ八尺、廣七尺五寸、奥行三丈九尺、中に石造の不動尊立像を安置す、弘法大師の作と云其天井は平面の一枚石以て覆へり之を十二疊敷の天井と稱す　甚　壯觀なり

●石窟　大日堂の左傍に在り

高さ七尺、廣さ六尺五寸、奥行二丈六尺、窟中に石刻の阿遮羅尊を安置す其前に閼伽井あり清

冷にして旱天に渴せずと云

●其餘大師堂、方丈、倉庫、鐘堂、茶所、仲麿社、晴明社及四國八十八ヶ所、西國三十三所の觀世音の石像處々に散在す、寺中高燥にして北に安倍山を負ひ三方開豁して遠望佳景なり

▲安倍山の東麓、文殊院を距る三丁許

◎石窟　奥行三丈、窟中に石櫃あり高さ四尺一寸、長六尺一寸、横三尺八寸、周圍一丈九尺一寸、傳云高屋安倍神社の石櫃なりとぞ

▲文殊院の西南二丁

◎安倍仲麿墳　字安倍島山にあり

仲麿唐土に留學すること數年歸朝の海上難風に遇ひ安南に漂着して復入唐し終に皈らず歳七十餘にして唐土に卒すと云仁明天皇其幽魂を慰せんが爲に承和三年五月正二位を贈り給ふ此際親族等相謀りて追薦の爲に此墳を築きたるにてもあらんかし

◎土舞臺　處　慥ならず

三才圖會に櫻井町の坤、長門の里の邊高岡の上に在りと云へり、相傳ふ推古天皇二十年百濟

の味摩之と云者來て始て吳國の技樂を傳ふ勅して兒童を集め此丘に於て之を習はしむ今云伶人の舞是なりとぞ

▲文殊院の東北八丁

◉櫻井町　舊十市郡の東北に位し隣接五ヶ村を併せ町と稱す戸數八百七十九、人口四千五百七十三人、海産物の市場にして商況殷賑たる一小都會なり

◉櫻井停車場　櫻井町に在り

大阪鐵道支線の終局する所にして畝傍驛を距る三哩四鎖、溪町を距る二十五哩〇四鎖

◉崇峻天皇倉梯岡上陵　多武峯村大字倉橋

兆域周圍百四十間五尺、南面、欽明天皇第十五の皇子にして御母は小姉君稲目宿禰の女天皇御名は泊瀬部稚雀尊と稱す元年戊申倉梯の柴垣宮倉梯村に卽位し給ふ在位五年壬子十二月三日崩壽七十二

▲崇峻天皇御陵の東南三十丁

◉音羽山　多武峯村大字南音羽

山勢崇高にして翠樹蓋の如し

◉音羽觀音　音羽山中に在り

又音石に作る、天平勝寶元年僧心融草創にして本尊十一面千手觀音を安置す靈驗感應ありと稱し病者參籠して其病を祈れり

▲音羽の東北二里

◉舒明天皇押阪大內陵　舊式上郡城島村大字忍阪

兆域周圍二百三十五間四尺、南面、敏達天皇の皇孫にして押阪彦人大兄皇子の御子なり御母は額田部手姫皇女と稱す天皇御名は息長足日廣額尊、己丑元年小墾田宮に卽位し二年庚寅十月飛鳥の岡本宮高市郡岡村に座坐し十三年辛巳十月九日崩壽四十

▲舒明天皇御陵の東北一丁

◉大伴皇女押坂內墓　仝村　舒明天皇の皇女にましませり

▲大伴皇女御墓の東半丁

◉鏡女王忍阪墓

◉鳥見丘　仝村大字外山

上古此地より以東萩原村に至るまでを總て鳥見山といへり

▲朝倉村大字黒崎の南

◉泊瀬朝倉宮址　雄略天皇の皇居の地是なるべし

▲初瀬町大字出雲

◉泊瀬列城宮址　武烈天皇の皇居の地是なるべし

▲欽明天皇御陵の北東四十五丁

◉初瀬町　舊式上郡の東南に位し近郷五ケ村を合せて町と稱す、戸數七百四十七、人口四千二百四十、肆店櫛比、一小商區を成す、此町は長谷寺あるによりて此繁盛を致すなり、三輪を距ること一里廿五町、奈良へは七里餘を隔つ

◉初瀬川　二源あり一は金平山より一は並松池より小夫を經て和田に至り諸水相合して初瀬町の東南を遶り黒崎、慈恩寺、金屋、三輪、豐田を經て江包に至り舊式下郡に入る

◉長谷寺　初瀬町の北端泊瀬山の半腹に在り

豐山神樂院と號す神龜元年德道上人の草創に係り後ち復勅して天平七年より仝十九年に至り

伽藍造營せさせ給ふ其後ち天慶七年より火災十數次に及べり、現堂は慶安三年德川家光の營構せらる所たり、舊寺祿五百石、現境二萬六千餘坪、眞言宗新義派の本山にして諸國の學僧集る所なり當寺は櫻花、牡丹及紅葉の名所地にして吉野、談山と並び稱せられ參詣の多きこと國内に首位を占め寺門殷富にして延て初瀬町の繁盛を致せるなり

◉二王門　門の西側に牡丹花多し所謂長谷の牡丹是なり

◉登廊　二王門より本堂に登る石段の上に掛ふ幅二間、長百九間半、並に明治十五年十二月九日燒失せるを仝廿五年再興せる所なり

◉貫之梅　登廊の中程に在り

古今集　貫之

人はいさ心もしらす古郷は花そむかしの香に匂ひける

紀貫之幼にして初瀬に在り伯父なる雲井坊浄眞一尊に作る に就て學び長するに及で朝廷に奉仕す數年の後ち初瀬に遊びし浄眞は嘗て貫之の植る所の梅枝を取て示されければ貫之は今昔の感に堪へずして此歌を詠れたりとなり

●本堂　南面、桁行十五間、梁行十四間半、五棟造、舞臺附、慶安三年造立なり

○堂中靈妙なるもの

○本尊十一面觀音立像　木彫金色　長二丈六尺　壹軀　傳天文年間學及丹後作

●講堂　小池坊と號す天正十一年根來寺より茲に移す現堂は寛文七年徳川家綱造立せらる世に千疊敷と稱す本坊卽是なり誰にでも縱覽することを得へし

○堂中靈妙なるもの

○本尊上品上生彌陀如來　坐像　木彫金色　長三尺五寸　壹軀

●方丈、持佛堂

○堂中靈妙なるもの

◎本尊文殊大士坐像　木彫　長四寸五分　壹軀　傳阿部文殊胎內佛

●方丈、護摩堂

○堂中靈妙なるもの

◎本尊不動明王坐像　木彫　長一尺三寸　壹軀　傳根來寺舊八角本尊

●奥院本堂

○堂中靈妙なるもの

○本尊興教大師坐像　木彫　長一尺三寸　壹軀　傳自作

●仝淨阿堂

○堂中靈妙なるもの

○淨阿上人坐像　木彫　長三尺　壹軀

○什寶中靈妙なるもの

◎千聆釋迦像　銅板　竪二尺五寸　幅二尺　厚六分　壹面　傳天武天皇御納物

◎劒　三鈷式　鐵　長九寸五分　壹振　傳聖武天皇御納物
◎經　卷　紙本　三十四卷　傳仝帝御納物
◎香　爐　獅子式　青磁　長七寸四分　高五寸　壹個
◎經　筥　梨子地蒔絵　壹個　傳仝帝御納物　經卷在中
◎長谷寺縁起　紙本墨畫　壹卷　傳菅公筆
◎屏　風　泥山水人物圖畫　傳草地　壹雙　傳虎皮屏風
○鼠　燈　樂　木造　高三尺五寸　壹基
○馬頭夫人立像　木彫　長一尺　壹軀
○鈴　銘大威德鈴　銅　長九寸　壹口
○屏　風　六曲十二天畫　絹本着色　壹双　傳琢磨筆
○楊柳觀音畫　仝　壹幀　傳吳道士筆
○十一面觀音畫　仝　壹幀　傳金岡筆
◎觀音立像　銅後背透彫　長二尺五寸　壹軀　傳玉葛內侍念持佛

◎屏　風　着色　數雙　傳狩野常信、探信永納筆
○水　天　圖　絹本着色　壹幀　傳李龍眠筆
○淨土曼荼羅　仝　壹幀
○赤衣藥師如來坐像　仝　壹幀
○香　爐　獅子式　古銅　銘諸願成就補正成　壹箇
○香　爐　獅子式　古銅　片足ゑ燈ぐ　壹箇
○大威德鈴　唐銅　竪八寸九分　壹口　傳新羅國寄附
○香　爐　吉月銀嵌　竪九寸四分　壹箇
○屏　風　十二天圖　絹本着色　壹双

●其餘佛堂、庵室、僧房、學寮等都て六十餘字本堂の上下左右に連り立てり

◉泊瀬山　長谷寺の後山を云、興喜山、消灰阪、堝倉山等の支別あり嶺回り谷幽にして山口險阻す因て隱口の初瀬と呼びなせり